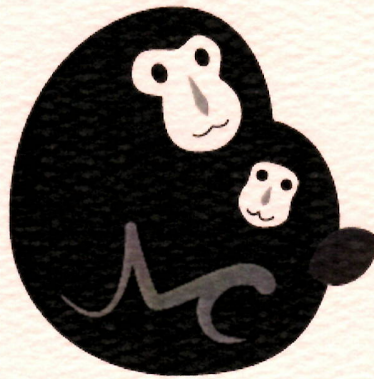


公益財団法人 日本モンキーセンター 年報

平成 28 年度



公益財団法人日本モンキーセンター

巻 頭 言

所長 松沢 哲郎

日本モンキーセンター（英文名称 Japan Monkey Centre、英文略称 JMC）の年報をお届けする。JMC は、2014 年 4 月 1 日に公益財団法人として生まれ変わった。すなわち本誌は、公益財団法人化して第 3 年度にあたる 2016 年度（平成 28 年度）の活動報告である。

移行して 3 年余が経過した。尾池和夫理事長（京都造形芸術大学学長）のもと、所長・松沢哲郎、博物館長・山極壽一（京都大学総長）、動物園長・伊谷原一（京都大学野生動物研究センター教授）が、引き続き一致協力して運営に携わっている。

日本モンキーセンターは 1956 年 10 月 17 日に設立され、一昨年に創立 60 周年を迎えた。記念事業として『モンキー』を復刊し、『モンキー：霊長類学からワイルドライフサイエンスへ』と誌名を変えた。ただし ISSN（国際標準逐次刊行物番号）はそのまま季刊である。順調に推移して 2017 年 9 月 1 日に第 2 巻 2 号が発行される。前号から、裏表紙のロゴで示した研究教育機関や企業からの協賛・寄付で、発行がまかなわれるようになった。

世界で最も古い英文の学術誌 PRIMATES を 1957 年に刊行開始した。日本発行の英文学術誌が世界最古というきわめて珍しい学問分野だ。日本霊長類学会の準機関誌と位置付けられている。2016 年 1 月刊行の第 57 巻 1 号から表紙をカラー写真に一新した。来年 2018 年 1 月には年 4 号から 6 号へと発行回数が増える。また次期 2018-2020 年の 3 年間の新たな編集体制を迎えようとしている。

日本モンキーセンターが保有するサル種の数は世界一だ。霊長類はすべてが絶滅の危機に瀕しているか絶滅の恐れがある。附属動物園では、そうした貴重なサル類 62 種 912 個体（2017 年 8 月 28 日現在）を保有している。標本資料も 16991 点ある。2014 年度の入園者数は 147,523 人、2015 年度は 154,378 人、2016 年度は前年比 23% 落ち込んで 118,113 人だった。入園者数の増加につながるくふうが必須だと認識している。

京都大学の「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院（英文略称、PWS）」は 2013 年 10 月 1 日に発足し、4 年度を経過して中間評価で最高の S 評価を得た。PWS は、霊長類を初めとする絶滅の危機に瀕した野生動物について、研究・教育・実践をおこなっている。日本モンキーセンターは PWS の実践の場と位置づけられている。

日本モンキーセンターの新しい定款では、その目的を以下のように明記した。「霊長類等に関する調査研究を基盤に、その保護と生息地の保全を行い、社会教育・普及活動や図書等の刊行、標本等の資試料の収集、さらには福祉に配慮した動物園の設置及び経営等を通じて、学術・教育・文化の発展及び地球社会の調和ある共存に資することを目的とする」。日本モンキーセンターはこれからも「自然への窓」であり続けたい。サル類を見て、その背後にある、彼らが暮らす自然そのものへの憧憬を人々の心の中に育みたい。そのためには、広範な人々の理解と、支援の持続が必須だ。ぜひ、公益財団法人となった日本モンキーセンターに足を運んでいただきたい。HP は以下の通りである。

英文：<http://www.japanmonkeycentre.org/> 和文：<http://www.j-monkey.jp/>

巻頭言（所長 松沢哲郎）	1
目次	2
公益財団法人日本モンキーセンター 事業方針	3
I 公益事業	
(1) 調査研究	3
(2) 保全活動	28
(3) 環境教育並びに社会普及活動	28
(4) 図書及び学術誌の刊行	36
(5) 標本等の資試料の収集・管理及び展示	42
(6) 動物園の設置及び経営	53
(7) 霊長類の適切な飼育・展示並びにこれに関する技術的指導及び協力	64
(8) 研究会、講演会の開催	65
(9) 展示、保全、環境教育及び社会普及活動に関わる人材の育成	70
(10) その他	71
II 収益事業	
(1) 動物園における物品並びに飲食物販事業	74
(2) 所有する土地・建物の賃貸事業	74
III 総務	
(1) 組織	75
(2) 人事	77
(3) 総務	77
(4) 寄附	78
IV 経理	79

公益財団法人日本モンキーセンター 事業方針

この法人は定款第4条の定めるところにしたがい、以下の事業をおこなう。

1. 公益事業

- (1) 霊長類に関する総合的な調査研究
- (2) 霊長類の保護及びその生息地の保全に関わる活動
- (3) 霊長類に関する環境教育並びに社会普及活動
- (4) 霊長類に関する図書及び学術誌の刊行
- (5) 霊長類の標本等の資料の収集・管理及び展示
- (6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営
- (7) 霊長類の適切な飼育・展示並びにこれに関する技術的指導及び協力
- (8) 霊長類に関する研究会、講演会の開催
- (9) 霊長類等に関する展示、保全、環境教育及び社会普及活動に関わる人材の育成
- (10) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 収益事業

- (1) 動物園における物品並びに飲食物販事業
- (2) 所有する土地・建物の賃貸事業
- (3) その他動物園等に関連する収益事業



ドローンによる附属動物園空撮（2017年3月14日撮影）

I 公益事業 (1) 調査研究

1. 霊長類に関する調査研究の実施

- (1) 霊長類の社会行動の研究
- (2) 霊長類の進化に関する研究
- (3) 霊長類の形態学的研究
- (4) 霊長類の生態学的研究
- (5) 霊長類の遺伝学的研究
- (6) 霊長類の保全研究
- (7) 霊長類の福祉に配慮した飼育管理に関する研究
- (8) 霊長類の福祉に配慮した獣医療に関する研究
- (9) 霊長類を中心とした教材開発に関する研究
- (10) 霊長類標本の作成・管理に関する研究並びに研究利用
- (11) 霊長類の生体及び標本を活用した連携研究の推進
- (12) 研究会等の積極的参加による情報の交換と収集
- (13) 霊長類稀少種の繁殖に関する研究
- (14) 市民参加による霊長類をはじめとした生物多様性の保全に関わる基礎研究

2. 研究倫理ガイドライン

2016年4月1日より施行

内部委員3名、外部委員4名からなる研究倫理委員会を設置

3. 外部研究費による研究活動

- (1) 日本学術振興会科学研究費基盤C（2016～2018年度）
代表者：赤見理恵
分担者：高野智
課題名：プロトコル分析を用いた動物園における学びの構造的研究
- (2) 京都大学野生動物研究センター共同利用研究（2016年度）
代表者：赤見理恵
課題名：動物への愛着や親近感は保全教育に有効か！？
～動物園における保全教育プログラムの開発と評価
代表者：木村直人
課題名：動物園飼育下サル類の簡易で安価な栄養評価方法の検討
代表者：奥村文彦
課題名：中部地域における飼育チンパンジーについて
実態調査
代表者：田中ちぐさ
課題名：キツネザルの夜間行動
- (3) 京都大学霊長類研究所共同利用研究（2016年度）
代表者：田中ちぐさ
課題名：ワオキツネザルの避妊薬投与によるホルモン動態の変化

4. 研究渡航

- (1) インドネシア スマトラ島における野生霊長類調査
2017年1月7日～1月21日 早川卓志
- (2) 南オーストラリア フィールド調査地視察
2017年3月4日～21日 早川卓志

5. 他機関との連携

(1) 大型類人猿情報ネットワーク (GAIN) との連携

綿貫宏史朗

(2) 環境省生物多様性センター モニタリングサイト 1000

里地調査の実施 (S118 犬山地域: 日本モンキーセンター
哺乳類調査グループ)

園敷地内 3 ケ所にセンサーカメラを設置



ハクビシン

6 研究業績

(1) 論文他

Arroyo A, Hirata S, Matsuzawa T, Torre Ide-la (2016) Nut Cracking Tools Used by Captive Chimpanzees (*Pan troglodytes*) and Their Comparison with Early Stone Age Percussive Artefacts from Olduvai Gorge. PLoS ONE 11(11): e0166788. DOI: 10.1371/journal.pone.0166788

Bernard H, Bili R, Matsuda I, Hanya G, Wearn OR, Wong A, Ahmad AH. (2016) Species richness and distribution of primates in disturbed and converted forest landscapes in northern Borneo. Tropical Conservation Science, 9. DOI: 10.1177/1940082916680104

Bryson-Morrison N, Tzanopoulos J, Matsuzawa T, Humle T (2017) Activity and Habitat Use of Chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in the Anthropogenic Landscape of Bossou, Guinea, West Africa. International Journal of Primatology. DOI: 10.1007/s10764-016-9947-4 (online first)

林美里. (2016) 大型類人猿の母子の絆: チンパンジーとオランウータンにおける母子関係と認知発達. 動物心理学研究. 66: 29-37. DOI: 10.2502/janip.66.1.7

林美里. (2016) チンパンジー研究者、母になる一ヒトの生後二歳六カ月から三歳までの発達. 発達. 146: 103-110.

林美里. (2016) チンパンジー研究者、母になる一ヒトの生後三歳から三歳六カ月までの発達. 発達. 148: 91-98.

Hockings KJ, Yamakoshi G, Matsuzawa T. (2016) Dispersal of a human-cultivated crop by wild chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in a forest-farm matrix. International Journal of Primatology. DOI: 10.1007/s10764-016-9924-y (online first)

Imura T, Masuda T, Wada Y, Tomonaga M, Okajima K. (2016) Chimpanzees can visually perceive differences in the freshness of foods. Scientific Reports, 6: 34685. DOI: 10.1038/srep34685

Inoue E, Ogata M, Seino S, Matsuda I. (2016) Sex identification and efficient microsatellite genotyping using fecal DNA in proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*). Mammal Study, 41: 141-148. DOI: 10.3106/041.041.0304

Kawakami F, Tomonaga M, Suzuki J. (2017) The first smile: Spontaneous smiles in newborn Japanese macaques (*Macaca fuscata*). Primates, 58: 93-101. DOI: 10.1007/s10329-016-0558-7

Kikuchi Y, Nakatsukasa M, Nakano Y, Kunimatsu Y, Shimizu D, Ogihara N, Tsujikawa H, Takano T, Ishida H. (2016) Sacral vertebral remains of the Middle Miocene hominoid *Nacholapithecus kerioi* from northern Kenya. Journal of Human Evolution, 94: 117-125. DOI: 10.1016/j.jhevol.2016.03.006

Kinoshita K, Kuze N, Kobayashi T, Miyakawa E, Narita H, Inoue-Murayama M, Idani G, Tsenkova R. (2016) Detection of urinary estrogen conjugates and creatinine using near infrared spectroscopy in Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus*). Primates, 57: 51-59. DOI: 10.1007/s10329-015-0501-3.

Kinoshita K, Sano Y, Takai A, Shimizu M, Kobayashi T, Ouchi A, Kuze N, Inoue-Murayama M, Idani G, Okamoto M, Ozaki Y. (2016) Urinary sex steroid hormone and placental leucine aminopeptidase concentration differences between live births and stillbirth of Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus*). Journal of Medical Primatology, 2016: 1-6. DOI: 10.1111/jmp.12249.

Kret M, Tomonaga M. (2016). Getting to the bottom of face processing: Species-specific inversion effects for faces and behinds in humans and chimpanzees (*Pan troglodytes*). PLoS One, 11: e0165357. DOI: 10.1371/journal.pone.0165357

松田一希. (2016) フィールド研究の再現性とは何か? 心理学評論. 59: 114-117.

Matsuda I, Chapman CA, Shi Physilia CY, Mun Sha JC, Clauss M (in press) Primate resting postures: constraints by foregut fermentation? Physiological and Biochemical Zoology, 90: 383-391. doi: 10.1086/691360.

Matsuda I, Clauss M, Tuuga A, Sugau J, Hanya G, Yumoto T, Bernard H, Hummel J. (2017) Factors affecting leaf selection by foregut-fermenting Proboscis monkeys: new insight from in vitro digestibility and toughness of leaves. Scientific Reports, 7: 42774. doi: 10.1038/srep42774.

Matsuda I, Otani Y, Bernard H, Wong A, Tuuga A. (2016) Primate survey in a Bornean flooded forest: evaluation of best approach and best timing. Mammal Study, 41: 101-106. DOI: 10.3106/041.041.0201

Matsuno T, Tomonaga M. (2016) Causal capture effects in chimpanzees (*Pan troglodytes*). Cognition, 158: 153-164. DOI: 10.1016/j.cognition.2016.10.023

Matsuzawa T. (2016) From four hands to two feet: human evolution in the context of primate evolution. Primates, 57: 137-139. DOI: 10.1007/s10329-016-0527-1

Matsuzawa T. (2016) Euthanasia is not an option: 10 years' care of a chimpanzee with acute tetraparesis. Primates, 57: 291-293. DOI: 10.1007/s10329-016-0548-9

- Matsuzawa T. (2016) Mountain day: isomorphism of mountaineering and science. *Primates*, 57: 441-444. DOI: 10.1007/s10329-016-0570-y
- Matsuzawa T. (2017) The Nimba Mountains in Guinea. *Primates*, 58: 1-3. DOI: 10.1007/s10329-016-0591-6
- Mendonça RS, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Bernard H, Matsuzawa T. (2017) Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley. *Primates*, 58: 211-224. DOI: 10.1007/s10329-016-0567-6
- Mendonça RS, Takeshita RSC, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Kinoshita K, Bernard H, Matsuzawa T. (2016) Behavioral and physiological changes in a juvenile Bornean orangutan after a wildlife rescue. *Global Ecology and Conservation*, 8: 116-122. DOI: 10.1016/j.gecco.2016.08.004
- Morino L, Uchikoshi M, Bercovitch F, Hopkins WD, Matsuzawa T. (2017) Tube task hand preference in captive Hylobatids. *Primates*. DOI: 10.1007/s10329-017-0605-z (online first)
- Chiméne NN, Horie M, Fujita S, Ogino M, Kobayashi Y, Mizukami K, Masatani T, Ezzikouri S, Matsuu A, Mizutani T, Ozawa M, Yamato O, Ngomanda A, Yamagiwa J, Tsukiyama-Kohara K. (2016) Molecular epidemiological study of adenovirus infecting western lowland gorillas and humans in and around Moukalaba-Doudou National Park. *Virus Genes*, 52: 671-678. DOI: 10.1007/s11262-016-1360-8
- 大淵希郷. (2016) 社会が学芸員に求めているものは？—学芸員村を出ると見えてくるもの. *博物館研究*, 51(12): 18-21.
- Okamoto M, Naito M, Imai S, Miyanohara M, Nomura Y, Saito W, Momoi Y, Takeda K, Miyabe-Nishiwaki T, Tomonaga M, Hanada N. (2016) Complete genome sequence of *Streptococcus troglodytes* TKU31 isolated from an oral cavity of chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Microbiology and Immunology*, 60: 811-816. DOI: 10.1111/1348-0421.12453
- 尾池和夫. (2016) 日本ジオパークの教育力とは何か, *地学雑誌*, 125: 785-794. DOI:10.5026/jgeography.125.785
- Purba LHPS, Widayati KA, Tsutsui K, Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Nila S, Suryobroto B, Imai H. (2017) Functional characterization of the TAS2R38 bitter taste receptor for phenylthiocarbamide in colobine monkeys. *Biology Letters*, 13: 20160834. DOI: 10.1098/rsbl.2016.0834
- Saito M, Idani G. (2016) Comparison of proximity and social behavior between calf and juvenile in wild giraffe (*Giraffa camelopardalis tippelskirchi*) change after calving. Design Symposium on Conservation of Ecosystem (The 4th SEASTAR2000 workshop) (査読付き Proceedings)
- Saito M, Idani G. (2016) How social relationships of female giraffe (*Giraffa camelopardalis tippelskirchi*) change after calving. *African Journal of Ecology*, 54: 242-244. DOI: 10.1111/aje.12268
- Sakuraba Y, Tomonaga M, Hayashi M. (2016) A new method of walking rehabilitation using cognitive tasks in an adult chimpanzee (*Pan troglodytes*) with a disability: a case study. *Primates*, 57: 403-412. DOI: 10.1007/s10329-016-0541-3
- Shintaku Y, Motokawa M. (2016) Geographic variation in skull morphology of the large Japanese field mice, *Apodemus speciosus* (Rodentia: Muridae) revealed by geometric morphometric analysis. *Zoological Science*, 33: 132-145. DOI: 10.2108/zs150082
- 高野智. (2016) 博物館としての動物園の機能. *動物園研究*, 17: 26-30.
- Toda K, Ryu H, Hayashi M, Furuichi T. (2016) An infant bonobo mimicked a handicapped motor action of a disabled individual at Wamba in the Luo Scientific Reserve, Democratic Republic of Congo. *Pan Africa News*, 23: 3-5.
- Tsutaya T, Fujimori Y, Hayashi M, Yoneda M, Miyabe-Nishiwaki T. (2017) Carbon and nitrogen stable isotopic offsets between diet and hair/feces in captive chimpanzees. *Rapid Communications in Mass Spectrometry*, 31: 59-67. DOI: 10.1002/rcm.7760
- Tsutsui K, Otoh M, Sakurai K, Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Misaka T, Ishimaru Y, Aureli F, Melin AD, Kawamura S, Imai H. (2016) Variation in ligand responses of the bitter taste receptors TAS2R1 and TAS2R4 among New World monkeys. *BMC Evolutionary Biology*, 16:208. DOI: 10.1186/s12862-016-0783-0
- Wilson DA, Tomonaga M, Vick S-J. (2016) Eye preferences in capuchin monkeys (*Sapajus apella*). *Primates*, 57: 433-444. DOI: 10.1007/s10329-016-0537-z
- Wilson VAD, Weiss A, Humle T, Morimura N, Udono T, Idani G, Matsuzawa T, Hirata S, Inoue-Murayama M. (2016) Chimpanzee personality and the Arginine Vasopressin Receptor 1A Genotype. *Behavior Genetics*, 47: 215-226. DOI: 10.1007/s10519-016-9822-2
- Yamanashi Y, Teramoto M, Morimura N, Hirata S, Inoue-Murayama M, Idani G. (2016) Effects of Relocation and Individual and Environmental Factors on the Long-Term Stress Levels in Captive Chimpanzees (*Pan troglodytes*): Monitoring Hair Cortisol and Behaviors. *PLoS ONE*, 11(7): e0160029. DOI:10.1371/journal.pone.0160029
- Yamanashi Y, Teramoto M, Morimura N, Hirata S, Suzuki J, Hayashi M, Kinoshita K, Murayama M, Idani G. (2016) Analysis of hair cortisol levels in captive chimpanzees: Effect of various methods on cortisol stability and variability. *MethodsX*, 3: 110-117. DOI: 10.1016/j.mex.2016.01.004
- Yasui S, Idani G. (2016) Social significance of trunk use in captive Asian elephants. *Ethology Ecology & Evolution*. DOI: 10.1080/03949370.2016.1179684. (online first)

(2) 書籍

- ビートたけし, 山極壽一. (2017) ゴリラから人間関係を学ぶ. ビートたけし(著) たけしの面白科学者図鑑, pp. 11-34.
- 伊谷原一. (2016) なつ教授の霊長類学入門 2 伊谷教授の特別講義「コンゴの森とボノボの生態」. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)
- 松沢哲郎. (2017) なつ教授の霊長類学入門 3 松沢教授の特別講義「山が教えてくれたこと」. エトヴァス・ノイエス. (電子書籍)

尾池和夫, はせべくにひこ. (2016) あっ! 地球が… 漫画による宇宙の始まりから近未来の破局噴火まで. マニアルハウス.

大瀧希郷. (2016) 森哲, 西川完途, 鈴木大 (監修) 学研の図鑑 LIVE! 爬虫類両生類. (分担執筆)

大瀧希郷. (2016) 来自濒危动物的审判. 中信出版集团. (『絶滅危惧種 救出裁判ファイル』実業之日本社 (2015) の中国語訳本)

新宅勇太. (2016) アカネズミの形態変異. 本川雅治 (編) 日本のネズミ 多様性と進化, pp. 65-86.

山極壽一. (2017) 挫折から次のステップが開ける. 山中伸弥, 羽生善治, 是枝裕和, 山極壽一, 永田和宏 (著) 僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう, pp. 149-175.

山極壽一. (2017) 二人の恩師の夢. 今西錦司先生と伊谷純一郎先生. 上廣倫理財団 (編) わが師・先人を語る, pp. 131-170.

山極壽一. (2016) 狂放思考学. 奇光出版.

山極壽一. (2016) 若者の意思が日本を変える. 岩波新書編集部 (編) 18 歳からの民主主義, pp. 210-213.

山極壽一. (2016) 「人間とは何か」を密林にたずねる. 中村桂子 (編) つむぐ, pp. 154-179.

山極壽一, 小菅正夫. (2017) ゴリラは戦わない. 一平和主義・家族愛・楽天的. 中公新書ラクレ.

山極壽一, 永田和宏. (2017) おもしろこと、やろうじゃないか. 山中伸弥, 羽生善治, 是枝裕和, 山極壽一, 永田和宏 (著) 僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう, pp. 176-204.

山極壽一, 吉川弘之. (2017) 人類の進化が投げかける—科学コミュニケーションの行き先. JST 科学コミュニケーションセンター (編) 吉川弘之対談集 科学と社会の対話. pp. 179-207.

(3) 連載・記事 (モンキー掲載分を除く)

① 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「瓢鮎抄」	
第八八回	2016 年 4 月号
第八九回	5 月号
第九一回	6 月号
第九二回	7 月号
第九三回	8 月号
第九四回	9 月号
第九五回	10 月号
第九六回	12 月号
第九七回	2017 年 1 月号
第九八回	2 月号
第九九回	3 月号

② 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「京都の地球科学」	
(264) 京都盆地の考古遺跡	2016 年 4 月号
(265) 京都盆地の考古遺跡 (二)	5 月号
(266) 二〇一六年熊本地震	6 月号
(267) 京都盆地の考古遺跡 (三)	7 月号
(268) 京都盆地の考古遺跡 (四)	8 月号
(269) 京都市動物園	9 月号
(270) 琵琶湖疏水に沿って	10 月号
(271) 琵琶湖疏水に沿って (二)	11 月号
(272) 琵琶湖疏水に沿って (三)	12 月号
(273) 熊本での講演会	2017 年 1 月号
(274) 済州島ジオパーク	2 月号
(275) 済州島ジオパーク (二)	3 月号

③ 尾池和夫 氷室 (氷室俳句会) 「季語つれづれ番外」

(一) 【春雷】春の雷 初雷 虫出し	2016 年 4 月号
(一) 【三寒四温】三寒 四温 四温日和	4 月号
(一) 【沖繩忌】慰霊の日	6 月号
(一) 【朝風】【夕風】	7 月号
(一) 【山の日】	8 月号
(一) 【台風】台風的眼	9 月号
(一) 【茸】菌 (きのこ) 椎茸 毒茸	10 月号
(一) 【橡の実】栢の実	12 月号

④ 尾池和夫 Web マガジン瓜生通信「瓜生山歳時記」

#1. 「二百十日と防災訓練」	2016 年 9 月 14 日
#2. 「仮武多と十三重の石塔」	10 月 12 日
#3. 「松茸と瓜生山の赤松林」	11 月 9 日
#4. 「冬の星と北山の準平原」	12 月 14 日
#5. 「底冷と京都盆地の気象」	2017 年 1 月 11 日
#6. 「春の雪と瓜生山の風景」	2 月 8 日
#7. 「春の風と大階段の「風の環」」	3 月 8 日

⑤ 尾池和夫 京都新聞 「天眼」

「地震火山庁の設置を」	2016 年 4 月 24 日
「文房四宝の伝統を大切に」	7 月 3 日
「隠岐諸島を巡る 4 日間の旅」	9 月 11 日
「43 京秒前の宇宙の始まり」	11 月 20 日
「天野明展への行列」	2017 年 2 月 20 日

⑥ 松沢哲郎 日本経済新聞

「チンパンジーと博士の知の探検」	
第 46 回 「現地調査担う人材育てる」	2016 年 4 月 3 日
第 47 回 「体験が学問の形を作る」	4 月 10 日
第 48 回 「南米で人間の進化を考える」	4 月 17 日
第 49 回 「地震恐れたチンパンジー」	4 月 24 日
第 50 回 「母親と息子 一生の強い絆」	5 月 1 日
第 51 回 「人の心 脳の働きで理解」	5 月 8 日
第 52 回 「登山と科学研究の共通点」	5 月 15 日
第 53 回 「地道な観察 先端研究の礎」	5 月 22 日
第 54 回 「チンパンジー介護の 10 年」	5 月 29 日

⑦ 松沢哲郎 愛媛新聞 「道標 ふるさと伝言」

「子どもの風景」	2017 年 1 月 8 日
「150 年の時を想う」	2 月 12 日
「アイの描いたスカーフ」	3 月 19 日

⑧ 岩波書店『科学』

連載「ちびっこチンパンジーと仲間たち」

森村成樹. (2016) 「緑の回廊がつなぐ森と人」 (第 173 回). 科学. 86: 450-451.

松沢哲郎. (2016) アマゾンの新世界ザル (第 175 回). 科学. 86: 732-733.

林美里. (2016) チンパンジー・レオの 10 年 (第 176 回). 科学. 86: .

川上文人, 平栗明実, 市野悦子, 林美里, 友永雅己. (2016) チンパンジーの核家族の子育て: 最初の 2 年間の記録 (第 177 回). 科学, 86: 883-883.

川上文人, 友永雅己. (2016) ニホンザルの赤ちゃんの自発的微笑 (第 178 回). 科学, 86: 1006-1007.

ユリラ, 友永雅己. (2016) なぜリズムが「合う」のか? —ヒトとチンパンジーの比較から(第 179 回). 科学, 86: 1134-1135.

松沢哲郎. (2016) 日本モンキーセンター創立 60 周年 (第 180 回). 科学, 86:1230-1231.

高潔, 友永雅己, 松沢哲郎 (翻訳 川口ゆり). (2017) チンパンジーとヒトのじゃんけんの学習 (第 183 回). 科学, 87: 244-245.

⑩ 木村直人 中日新聞「愛ラブ自然」

「7 種 16 頭のサル生まれる (アビシニアコロブス、フランソワルトン)」 2016 年 5 月 25 日

「動物園は「自然への窓」(ヤクニホンザル、ヤクシカ)」 8 月 3 日

「モンキーセンター “60 歳” (ヤクニホンザル)」 10 月 5 日

「魅力増すクモザルの島 (ジェフロイクモザル)」 12 月 7 日

「猿団子」も冬の風物詩 (ヤクニホンザル)」 2017 年 2 月 15 日

⑪ その他記事

尾池和夫. (2016) 卒業の一夜明けたる教授室. 俳句四季「卒業」4 月号.

尾池和夫. (2016) 四季吟詠句集 30. 俳句四季 5 月号.

尾池和夫. (2016) サボテンの根元ぞ蠍ひそみを. 俳句四季「サボテン」6 月号

尾池和夫. (2016) 四季吟詠句集 30. 俳句四季 8 月号.

尾池和夫. (2016) 青い檸檬もぐ手やさしき島育ち. 俳句四季「檸檬」9 月号.

尾池和夫. (2016) 地震 (なみ) を詠む. 第四十三回現代俳句全国大会講演現代俳句協会記録, 10 月.

尾池和夫. (2016) 島前島後. 俳句 11 月号.

尾池和夫. (2016) 四季吟詠句集 30. 俳句四季 11 月号.

尾池和夫. (2016) 仕事を愉しむ, 私の自由時間. 俳壇 12 月号.

尾池和夫. (2016) 平野を考える. 結社誌.

尾池和夫. (2017) 大和三山たしかに三つ棚霞. 俳句四季「霞」3 月号.

岡安直比 (編). (2016) 手塚塾「ジャングル大帝」(全 6 回). 共同通信文化部 / 子ども新聞: 7 月配信分.

山極壽一. (2016) 新生活を始める君へ—信頼築く原始の交流術. 産経新聞 (夕刊): 2016 年 4 月 4 日.

山極壽一. (2016) 昨日読んだ文庫. 毎日新聞: 7 月 10 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ 4 「下のしつけは修練」. 高知新聞: 8 月 24 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「食事が親しい関係つくる」. 山梨新聞: 8 月 21 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「泣かない赤ちゃん」. 岩手日報: 9 月 27 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「下のしつけの本当の意味」. 山陰中央新報: 10 月 3 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「ひとりでの自由」. 岩手日報: 10 月 25 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「勝つことと負けないこと」. 京都新聞: 10 月 29 日.

山極壽一. (2016) 書評『ヒト—異端のサルの 1 億年』. 公明新聞: 10 月 31 日.

山極壽一. (2016) ヒトときどきゴリラ「一緒に食べる」. 山陰中央新報: 10 月 31 日.

山極壽一. (2016) 平和考「ゴリラに学ぶ共存 勝つより負けないを重視」. 愛媛新聞: 12 月 2 日.

山極壽一. (2016) 生物学からみたニンゲン子育て考「多様な人の関わりを 共同子育てが共感性培う」. 琉球新報: 12 月 9 日.

山極壽一. (2017) 極大化した不安 共に過ごす時間を. オピニオン&フォーラム 私たちはどこにいるのか「極大化した不安 共に過ごす時間を」. 朝日新聞: 2017 年 1 月 1 日.

(4) そのほか執筆

早川卓志. (2016) 比較ゲノム解析が明らかにする水棲哺乳類の味覚の進化. 勇魚 64: 18-23.

早川卓志. (2016) 野生動物ゲノム・メタゲノム研究 - できるようになったこと -. 日本人類学会進化人類学分科会ニュースレター. 2016/9: 4-6.

林美里. (2016) チンパンジーからみたヒトの発達と家族. 生活科・総合通信そよかぜ通信. 2016 年秋号: 4-7.

林美里, 友永雅己. (2016) チンパンジーとヒトの比較から見たアロマザリング. 発達心理学ニューズレター, 78: 10-11.

伊谷原一, 松沢哲郎, 山極壽一. (2016) 日本モンキーセンターの再生. 霊長類研究, 32: 31-35.

中沢新一, 山極壽一. (2017) 人類の自然. 現代思想, 3 月臨時増刊号: 8-26.

尾池和夫. (2016) 閉会挨拶録. 世界ユネスコジオパーク誕生記念フォーラム.

尾池和夫. (2016) 一三七億年の宇宙の歴史から. 日本綿業倶楽部月報七六四号.

尾池和夫. (2016) 京都府国際センターが今年 20 周年を迎えます. 京都府国際センター NEWS, 78.

尾池和夫. (2016) 私の一碗. 茶道資料館平成 28 年秋季特別展.

尾池和夫. (2016) 熊本地震の仕組みと背景 (解説). 熊本県山鹿市菊池川自然塾.

尾池和夫. (2016) 「寄席囃子と長唄と落語を楽しむ会」の開催を祝して. 松山市民会館.

尾池和夫. (2016) 健康リレーエッセイ ところにひかる物語 247 「健康で二〇三八年まで」. かまくら春秋, 558.

尾池和夫. (2016) 紀要二〇号の発行にあたって. 京都造形芸術大学紀要 [GENESIS], 第 20 号.

友永雅己. (2017) イルカのころ. 藤田和生 (編著) 放送大学「比較認知科学」, pp.228-255.

友永雅己, 三浦麻子, 針生悦子. (2016) 巻頭言. 心理学の再現可能性: 我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか — 特集号の刊行に寄せて —. 心理学評論, 59: 1-2.

友永雅己. (2016) 森のころ, 海のころ, 草原のころ —比較認知科学「ころの進化」を探る旅. 脳 21, 19(4), 99-102.

友永雅己. (2016) チンパンジーにおける「他者の心的状態」の理解. 公益財団法人中山人間科学振興財団 (編) 25 年の歩み, pp. 103-104.

山極壽一. (2016) 老年期の進化と人間社会の未来. Chubu Institute for Advanced Studies, Studies Forum Series, 95: 4-19.

山極壽一. (2016) 大学が直面する課題と京都大学が目指す教育. 第19回京都大学全学教育シンポジウム「京大流・未来を拓く人の育て方」報告書 2015, pp. 7-20.

山極壽一. (2016) こころの在り処と広がり. こころの未来 15: 1.

山極壽一. (2016) ゴリラのつくる独特の間から対面交渉を学ぶ. 日本の学童はいく, 490: 6-7.

山極壽一. (2016) 泣かないゴリラの赤ちゃん. 日本の学童はいく, 491: 6-7.

山極壽一. (2016) 不在を許す心. 日本文藝家協会 (編) ベスト・エッセイ 2016, pp. 192-195.

山極壽一. (2016) 書評シンポジウム『家族進化論』, 「本書の構成」. 児童心理学の進歩, 55: 305-310.

山極壽一. (2016) 書評シンポジウム『家族進化論』, 「批評に込めて」. 児童心理学の進歩, 55: 332-334.

山極壽一. (2016) ともにいる時間. 公研, 635: 16-17.

山極壽一. (2016) 社会は「食事」によって作られた. 放送ベストセレクション「舌の記憶—あの時あの味」, NHK ラジオ深夜便, 195: 52-57.

山極壽一. (2016) 日本の学術外交を考える. 青淵, 812: 11-12.

山極壽一. (2016) 類人猿はなぜ熱帯雨林を出られなかったのか. 現代思想, 44: 30-41.

山極壽一. (2016) 書評『サピエンス全史』. 中央公論, 2017年1月号: 290-291.

山極壽一. (2016) ゴリラ虐殺の記憶を風化させないために. JWCS 通信, 79: 10-11.

山極壽一. (2017) 京都エリートを育てるために. IDE, 2017年1月号: 4-7.

山極壽一. (2017) 新しい学びの場を創造する. 山岡育英会会誌, 52: 32-33.

山極壽一. (2017) グローバル時代のコミュニティ. 公研, 641: 16-17.

山極壽一. (2017) 平成27年度学長会議第2回全体会議報告書「大学が直面する課題と教育改革」. 一般社団法人日本私立大学連盟平成27年度学長会議第2回全体会議報告書, 26-33.

山極壽一. (2017) 美しいセオリーはときには危険な道を開く. 現代思想, 45(5): 54-56.

山極壽一. (2017) コミュニケーションの進化と家族の起源. Engineering, 145: 16-17.

山極壽一. (2017) 新地球学の世紀「霊長類からの進化過程にみえる人間がイノベーションを起こす理由」. Wedge, 29(3): 78-79.

山極壽一. (2017) 書評『ゴリラとピグミーの森』(伊谷純一郎著, 岩波新書). 週刊朝日, 2017.3.3: 130.

山極壽一. (2017) この科学本が面白い, 書評『チンパンジーは365日ベッドを作る』. 中央公論, 2017年4月号: 234-235.

山極壽一. (2017) サル化する人間社会 相山女学園創立111周年記念相山フォーラム「ヒト・人・ひと」「サル化する人間社会」. 相山人間学研究, 12: 10-23.

山極壽一, 神田真人. (2016) 超有識者場外ヒアリングシリーズ 53 大学・科学編. ファイナンス, 56(5): 36-51.

山極壽一, 水野和夫. (2016) 21世紀に求められる知性とは何か. 潮, June 2016: 82-89.

山極壽一, 末原達郎. (2016) 特別企画同窓対談「学生時代ザイルの山中で二人はばったり出会う」. 龍谷, 82: 15-17.

山極壽一, 釈徹宗. (2016) 便利になった世の中で人間は「サル化」している. Fole, 168: 26-30.

山極壽一, 田中雅一. (2016) 性という謎から霊長類をまなぐ. 現代思想, 44(22): 42-62.

山極壽一, 鷲田清一. (2016) アートと言葉の起源を探る. KOTOBA, 24: 222-227.

山極壽一, 柳井正. (2016) 世界に通用する若者の鍛え方. 日経ビジネス, 1838: 46-50.

山梨祐美, 小倉匡俊, 森村成樹, 林美里, 友永雅己. (2016) チンパンジーの人工保育とエンターテインメント: 動物福祉・保全と将来展望. Animal Behaviour and Management, 52: 73-84.

(5) 作品ほか

尾池和夫, 野村春花, 小野塚佳代, 齋藤亜矢, 松沢哲郎. (2016) アイのスカーフ. 文明哲学研究所.

尾池和夫, 小野塚佳代, 常程. (2017) 法螺吹き鯨の大風呂敷. 宮井株式会社.

(6) 書籍の監修

- ① 世界のキレイでかわいいカエル (パイ インターナショナル, 2016年5月23日刊行) 大淵希郷
- ② なつ教授の霊長類学入門1 (金矢真美 編著, エトヴァス・ノイエス, 2016年11月30日発行, 電子書籍) 伊谷原一

7. 学会参加

(1) 第17回国際味と匂いの学会

日程: 2016年6月5日～9日
場所: パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) 早川卓志

(2) 西日本動物園水族館両生爬虫類会議

日程: 2016年6月15日～18日
場所: 沖縄こどもの国 ほか (沖縄県沖縄市) 大淵希郷

(3) 第32回日本霊長類学会大会

日程: 2016年7月15日～17日
場所: 鹿児島大学 (鹿児島県鹿児島市)
伊谷原一、友永雅己、木村直人、高野智、赤見理恵、新宅勇太、大淵希郷、古賀典子、山田将也、奥村太基、今井由香

(4) International Primatological Society and the American Society of Primatologists

日程: 2016年8月21日～27日
場所: Chicago, Illinois, USA 綿貫宏史朗

(5) East-Asian Association for Science Education 2016 大会

日程: 2016年8月26日～28日
場所: 東京理科大学 赤見理恵

(6) The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science and the 5th CCT-Bio International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation

日程: 2016年9月12日～15日
場所: 京都大学 (京都府京都市) 古賀典子、大淵希郷、廣澤麻里

(7) 第22回野生動物医学学会大会

日程: 2016年9月16日～18日
場所: 宮崎市民プラザ (宮崎県宮崎市) 綿貫宏史朗

- (8) 日本哺乳類学会 2016 年度大会
日程：2016 年 9 月 24 日～26 日
場所：筑波大学（茨城県つくば市） 新宅勇太
- (9) 第 70 回日本人類学会大会
日程：2016 年 10 月 8 日～10 日
場所：NSG 学生総合プラザ STEP（新潟県新潟市） 高野智
- (10) 第 19 回 SAGA シンポジウム
日程：2016 年 11 月 19 日～20 日
場所：ときわ動物園、常盤公園湖水ホール（山口県宇部市）
伊谷原一、友永雅己、赤見理恵、新宅勇太、
綿貫宏史朗、早川卓志
- (11) 第 56 回日本動物園水族館教育研究会
日程：2016 年 11 月 26 日～27 日
場所：新潟市水族館マリニピア日本海（新潟県新潟市） 赤見理恵、鏡味芳宏
- (12) 第 4 回屋久島学ソサエティ
日程：2016 年 11 月 26 日～27 日
場所：屋久島町総合センター（鹿児島県屋久島町） 早川卓志、星野智紀
- (13) 第 28 回日本動物園水族館両生爬虫類会議
日程：2016 年 12 月 19 日～20 日
場所：日本丸訓練センター、野毛山動物園（神奈川県横浜市） 大淵希郷
- (14) 京都大学霊長類研究所 50 周年記念シンポジウム
「霊長類学の過去・現在・未来」
日程：2017 年 1 月 30 日～31 日
場所：犬山国際観光センターフロイデ（愛知県犬山市）
伊谷原一、友永雅己、高野智、赤見理恵、綿貫宏志朗、
早川卓志、大淵希郷、木村直人、杉本直人
- (15) 第 23 回動物園水族館獣医師臨床研究会
日程：2017 年 2 月 8 日～2 月 9 日
場所：富山県民会館（富山県富山市） 岡部直樹
- (16) 第 2 回水族館大学 in 京都「イルカショーの可能性と未来」
日程：2017 年 2 月 24 日
場所：京都大学理学部セミナーハウス 友永雅己、大淵希郷
- (17) The 7th International Symposium on Primatology and
Wildlife Science
日程：2017 年 3 月 2 日～4 日
場所：京都大学理学研究科セミナーハウス（京都府京都市）
友永雅己、新宅勇太、早川卓志、大淵希郷、古賀典子
- (18) 動物園大学 7 in とべ ず～ぞなもし。
日程：2017 年 3 月 20 日
場所：愛媛県立とべ動物園（愛媛県砥部町）
木村直人、赤見理恵、綿貫宏史朗、大淵希郷、
奥村文彦、田中ちぐさ、廣澤麻里、石田崇斗

8. 学会・研究会での発表（プリマーテス研究会を除く）

- Allanic M, Hirata S, Hayashi M, Matsuzawa T. (2016)
Influence of inter-individual distance on grooming
interaction in captive chimpanzees and bonobos. The 31st
International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan)
- Allanic M, Hirata S, Hayashi M, Matsuzawa T. (2016)
Influence of inter-individual distance on grooming
interaction in captive chimpanzees and bonobos. The
26th Congress of the International Primatological
Society. (Chicago, USA)

- Akami R. (2016) Learn primates and learn from primates
-case studies from Japan Monkey Centre-. East-Asian
Association for Science Education (EASE)(東京都新宿区)
- 赤見理恵. (2016) チンパンジーが進化するとヒトにな
る！？～進化に関する素朴概念と霊長類のイメージ～.
第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- 赤見理恵, 江藤彩子, 新宅勇太, 高野智. (2016) フィール
ドで学ぶ野生ニホンザルと霊長類学の歴史. 第 56 回
日本動物園水族館教育研究会. (新潟県新潟市)
- 赤見理恵, 高野智. (2017) 「チンパンジーが進化するとヒ
トになる！？」～進化に関する素朴概念と霊長類のイ
メージ～. 動物園大学 7 in とべ ず～ぞなもし. (愛
媛県砥部町)
- 赤見理恵, 高野智, 江藤彩子, 小比賀正規. (2016) 学校で
霊長類を学ぶ～動物園の学習利用状況調査と事前学習
教材の開発～. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島
県鹿児島市)
- 荒木謙太, 奥村太基, 星野智紀, 綿貫宏史朗. (2016) サイ
クスモンキーとクチヒゲグエノンの異種混合飼育. 第
19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- Gao J, Su Y, 友永雅己, 松沢哲郎. (2016) The rock-paper-
scissors game in chimpanzees (*Pan troglodytes*). 第 32
回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- Gao J, Su Y, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2017) Learning
the rock-paper-scissors game rule in chimpanzees and
children. 50th anniversary symposium of Primate
Research Institute, Kyoto University, “Past, present,
and future of primatology”. (Inuyama, Japan)
- Gao J, Su Y, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2017) Learning
the rules of the rock-paper-scissors game: Comparison
between chimpanzees and human children. The 7th
International Symposium on Primatology and Wildlife
Science, Session “Equine Science”. (Kyoto, Japan)
- Gao J, Tomonaga M. (2017) Body inversion effect in
chimpanzees (*Pan troglodytes*). (京都府京都市)
- Gao J, Tomonaga M, Matsuzawa T, Su Y. (2016) The Rock-
Paper-Scissors game in chimpanzees (*Pan troglodytes*):
Test for intransitive inference using the computer
controlled discrimination task. 31st International
Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- Gao J, Tomonaga M, Matsuzawa T, Su Y. (2016) The
rock-paper-scissors game in chimpanzees (*Pan
troglodytes*): Testing for intransitive inference using a
computer-controlled discrimination task. Joint meeting
of the International Primatological Society and the
American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- 早川卓志, 星野智紀. (2016) 日本モンキーセンターでの屋
久島研修の取り組み. 第 4 回屋久島学ソサエティ. (鹿
児島県屋久島町)
- Hayakawa T, Inoue E, Toda Y, Matsuo H, Morimura N,
Inoue-Murayama M, Hashimoto C, Misaka T, Ohigashi
H, Matsuzawa T, Imai H. (2016) Genetic diversity of
bitter taste receptors and chemical ecology of bitter
plant foods in wild chimpanzees. 17th International
Symposium on Olfaction and Taste. (Yokohama, Japan)
- 早川卓志, 綿貫宏史朗, 新宅勇太, 大淵希郷, 赤見理恵,
高野智, 友永雅己. (2017) 公益財団法人日本モンキー
センターにおける連携研究受け入れの取り組み. 第 64
回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)

- Hayashi M. (2016) Development of object manipulation as a foundation of drawing behavior. The 31st International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan)
- Hayashi M. (2016) Support for mothering in chimpanzees and orangutans. The 31st International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan)
- Hayashi M. (2016) Cognitive development assessed by object-manipulation tasks in chimpanzees and bonobos. The 26th Congress of the International Primatological Society. (Chicago, USA)
- Hayashi M. (2016) Juvenile learning of stone-tool use in wild chimpanzees of Bossou, Guinea, West Africa. The 8th World Archaeological Congress. (Kyoto, Japan)
- Hayashi M. (2016) Ex-situ conservation efforts in Bukit Merah Orang Utan Island, Perak, Malaysia. The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 林美里. (2016) チンパンジーの母親による保育を「介助」する. 第 19 回 SAGA シンポジウム, (山口県宇部市)
- Hayashi M, Takeshita H. (2017) Studies on object manipulation and tool use in great apes and humans. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 廣澤麻里, 奥村文彦, 藤森唯, 星野智紀, 坂口真悟. (2016) 日本モンキーセンターのチンパンジー群れ管理. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- 伊谷原一, 岡安直比, 山本真也, 新宅勇太. (2016) サバンナ混交林への適応—西部コンゴ民主共和国における野生ボノボ研究の展開. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- Imura T, Masuda T, Wada Y, Tomonaga M, Okajima K. (2016) Chimpanzees (*Pan troglodytes*) can perceive the freshness of foods. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- 石田崇斗, 山田将也, 菊田恭介, 綿貫宏史朗, 打越万喜子, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一. (2016) テナガザルの福祉に配慮した異種ペア成立への取り組み. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- 石田崇斗, 山田将也, 菊田恭介, 綿貫宏史朗, 打越万喜子, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一. (2017) 福祉向上を目的としたテナガザル異種ペア成立の取り組み. 第 64 回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- 糸井川壮太, 早川卓志, 今井啓雄. (2016) 交尾期のワオキツネザルの臭腺分泌物利用. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 兼子明久, 林美里, 櫻庭陽子, 宮部貴子, 前田典彦, 山中淳史, ゴドジャリ静, 木下こづえ, 友永雅己. (2016) レオとともに歩んだ 10 年. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- Kawaguchi Y, Tomonaga M. (2017) Do chimpanzee also prefer baby to adult? : preliminary report. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science”. (Kyoto, Japan)
- 川口ゆり, 友永雅己. (2017) ヒト以外の動物も赤ちゃんが好き? : 経過報告. 京都大学こころの先端研究ユニット総会. (京都府京都市)
- 河本悠吾, 西栄美子, 鈴木 - 橋戸南美, 早川卓志, 赤尾大樹, 松村秀一, 田代靖子, 橋本千絵, 五百部裕, 今井啓雄. (2016) 同所的に生息するゲエノン類 3 種における苦味受容体 TAS2R16 の機能解析. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- Kim, Choe J, Rho J, Tomonaga M. (2016) Chimpanzees, but not orangutans display aversive reactions toward their partner receiving a superior reward. 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- Kim Y, Choe J, Rho J, Tomonaga M. (2016) Chimpanzees, but not orangutans, display aversive reactions toward their partner with a superior reward. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- 木村直人, 岡部直樹. (2016) 日本モンキーセンターにおける飼育霊長類の診療と死因分析、特に周産期新生仔期死亡について. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 木村直人, 岡部直樹. (2017) 飼育下霊長類における周産期および新生仔期死亡個体の死因分析. 第 64 回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- 木村直人, 寺尾由美子, 鏡味芳宏, 東峯万葉, 廣澤麻里, 岡部直樹, 新宅勇太, 伊谷原一. (2017) 飼育下霊長類におけるサル類の簡易で安易な体脂肪測定. 動物園大学 7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)
- 木下こづえ, 奥村文彦, 星野智紀, 廣澤麻里, 坂口真悟, 綿貫宏史朗, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一, 鶴殿敏史, 市野悦子, 高島友子, 林美里, 岡本宗裕. (2016) 飼育下チンパンジー (*Pan troglodytes*) の授乳期における発情回帰と性ステロイドホルモン濃度動態との関連性について. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- Lira Y, Tomonaga M. (2016) An experimental study on interactional synchrony in chimpanzees and humans. 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- 松田一希. (2016) コロブス類の重層社会—ヒヒ類と比較して—. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 松田一希. (2016) コロブス類の消化機構：テナガザルの反芻行動などを例に. 京都大学霊長類研究所共同利用研究会「霊長類の食性の進化」. (愛知県犬山市)
- Matsuda I, Abram NK, Stark DJ, Sha JCM, Ancrenaz M, Goossens B, Tuuga A, Kubo T. (2016) Demography and conservation of proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*) in the lower Kinabatangan, Sabah, Borneo, Malaysia. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- Matsuda I, Abram NK, Stark DJ, Sha JCM, Ancrenaz M, Goossens B, Tuuga A, Kubo T. (2016) Conservation of proboscis monkeys in the lower Kinabatangan, Sabah, Malaysia. 2nd Sabah's Ramsar Conference 2016. (Kota Kinabalu, Malaysia)
- 松田一希, Sha J, Osman I, Nathan S, Stark D, Goossens B, Ramirez D, 村井勅裕, 清野悟, 香田啓貴. (2016) 大きな鼻を持つテナガザルの雄はモテるのか? 第 32 回日本霊長類学会. (鹿児島県鹿児島市)

- Matsuda I, Tuuga A, Goossens B, Nathan S, Stark D, Ramirez D, Sipangkui R, Seino S, Murai T, Sha J, Osman I, Koda T. (2017) Larger noses are of important signal to attract females in proboscis monkeys. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- Mendonça R, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Matsuzawa T. (2016) Why orangutans develop slower than other great apes? A study on a Bornean population. The 31st International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan)
- Mendonça R, Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Matsuzawa T. (2016) Mother-offspring interactions before weaning and behavior of immature Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley, Borneo. The 26th Congress of the International Primatological Society. (Chicago, USA)
- Matsuda I, Tuuga A, Goossens B, Nathan S, Stark D, Ramirez D, Sipangkui R, Seino S, Murai T, Sha J, Osman I, Koda T. Larger noses are of important signal to attract females in proboscis monkeys. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- 三上章允, 今井啓雄, 辻大和, 西榮美子, 早川卓志, Widayati KA, Suryobroto B. (2016) インドネシア・バンガンダランのカニクイザルの色環境. 第32回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- Moriya-Ito K, Suzuki H, Hayakawa T, Hagino-Yamagishi K, Nikaido M. (2016) The molecular evolution and the expression of vomeronasal receptors 1 in common marmoset. 17th International Symposium on Olfaction and Taste. (Yokohama, Japan)
- 根本慧, 大島悠輝, 堀込亮意, 山梨裕美, 綿貫宏史朗, 寺尾由美子, 鏡味芳宏, 東峯万葉, 廣澤麻里. (2017) スローロリス保全センターの開設とレッサースローロリス飼育環境改善. 第64回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- Ochiai T, Watanuki K, Udono T, Morimura N, Hirata S, Tomonaga M, Idani G, Matsuzawa T. (2016) The early history of captive chimpanzees (*Pan troglodytes*) in Japan. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- Ohbuchi M. (2016) Research plan of water monitor in Thailand and Singapore. The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science and the 5th CCT-Bio International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation. (Kyoto, Japan)
- Ohbuchi M. (2017) Observation of water monitor lizards in urban area, central Thailand. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto Japan)
- 大瀨希郷. (2016) タイ都市部のミズオオトカゲについて. 第28回日本動物園水族館両生爬虫類会議. (神奈川県横浜市)
- 大瀨希郷. (2017) タイ都市部で観察されたミズオオトカゲの行動について. 動物園大学7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)
- 岡安直比, 伊谷原一, 武内進一, 木村大治, Lumbuenamo R. (2016) コンゴ民主共和国、バンドundu州北部のボノボ個体群 アフリカ熱帯雨林南西端、サバンナ生態系の生息環境と地域コミュニティ. 日本アフリカ学会 第53回学術大会. (神奈川県藤沢市)
- 奥村文彦. (2016) 中部地域における飼育チンパンジーの父系について実態調査. 第19回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- 奥村文彦, 廣澤麻里, 藤森唯, 星野智紀, 坂口真悟, 綿貫宏史朗, 木下こづえ, 岡部直樹, 木村直人, 伊谷原一. (2017) 飼育下チンパンジーの授乳期の性皮腫脹について. 第64回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- 奥村太基, 菊田恭介, 根本慧, 坂口真悟, 廣川類, 綿貫宏史朗, 打越万喜子, 松田一希, 伊谷原一. (2016) アビシニアコロブス新生児に対するオトナ個体の養育行動の変化. 第32回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 奥村太基, 松田一希, 菊田恭介, 根本慧, 坂口真悟, 打越万喜子, 綿貫宏史朗, 伊谷原一. (2016) アビシニアコロブス新生児に対するオトナ個体の養育行動の変化. 第19回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- Purba LHPS, Widayati KA, Nila S, Kei K, Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Suryobroto B, Imai H. (2016) Functional Characterization of TAS2R38 Bitter Taste Receptors to Phenylthiocarbamid (PTC) in Colobine Monkeys 17th International Symposium on Olfaction and Taste. (Yokohama, Japan)
- Saito A, Hayashi M, Takeshita H, Matsuzawa T. (2016) Evolution and development of representational drawing. The 31st International Congress of Psychology. (Yokohama, Japan)
- Sakuraba Y, Tomonaga M, Hayashi M. (2016) Walking rehabilitation of a physically disabled chimpanzee using cognitive tasks: a case study. 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- 澤田晶子, 栗原洋介, 早川卓志. (2016) 腸内細菌叢からみた屋久島のニホンザルの採食適応. 第32回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 新宅勇太, 木村直人, 山本真也, 岡安直比, 伊谷原一. (2016) コンゴ民主共和国マレボ地域におけるボノボの健康状態のモニタリング実施に向けた活動. 第32回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 新宅勇太, 木村直人, 山本真也, 岡安直比, 伊谷原一. (2016) 分布域南西端 Mbali 地域のボノボの保全に向けた日本モンキーセンターの取り組み. 第19回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- 新宅勇太, 高野智, 綿貫宏史朗, 赤見理恵, 早川卓志, 大瀨希郷, 岡部直樹, 木村直人. (2017) 動物由来の標本等資料の収集と保存, 活用状況. 第64回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- Shirasu M, Ito S, Hayakawa T, Kinoshita K, Munechika I, Imai H, Touhara K. (2016) A key male glandular odorant evoking female attractive behavior in *Lemur catta*. 17th International Symposium on Olfaction and Taste. (Yokohama, Japan)
- 杉浦直樹. (2016) 日本モンキーセンターにおけるワオキツネザルの個体数管理: 搬出と繁殖抑制. 日本動物園水族館協会中部ブロック第113回飼育技術者研修会. (静岡県静岡市)

- Suzuki-Hashido N, Hayakawa T, Matsui A, Go Y, Ishimaru Y, Misaka T, Abe K, Hirai H, Satta Y, Imai H. (2016) Rapid expansion of phenylthiocarbamide (PTC) non-tasters among Japanese macaques. 17th International Symposium on Olfaction and Taste. (Yokohama, Japan)
- 鈴木 - 橋戸南美, 早川卓志, 辻大和, Purba LHPS, Nila S, Widayati KA, Suryobroto B, 今井啓雄. (2016) 葉食適応を果たしたコロブス類の苦味受容体はどのように進化しているか. 第 32 回日本霊長類学会大会 (鹿児島県鹿児島市)
- 高野智, 赤見理恵. (2016) 日本モンキーセンターにおける学校と連携した人類学教育の実践. 第 70 回日本人類学会大会. (新潟県新潟市)
- Takeshita H, Takashio J, Yamada N, Takahashi I, Kawakami F, Fukuda K, Honda Y, Tataru N, Shimomoto Y, Hayashi M, Mizuno Y, Tomonaga M. (2016) Behavioral and cognitive development in an infant chimpanzee with cerebral palsy: An approach applying human childcare and therapy services. 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- 田中ちぐさ, 杉浦直樹, 坂口真悟, 早川卓志, 松田一希. (2017) 飼育下キツネザルの夜間行動. 動物園大学 7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)
- 寺尾由美子. (2017) JMC で実施している生息地研修. 日本動物園水族館協会中部ブロック第 112 回飼育技術者研修会. (富山県富山市)
- 寺尾由美子, 岡部直樹, 鏡味芳宏, 根本慧, 奥村文彦, 廣澤麻里, 大島悠輝, 東峯万葉, 藤森唯, 木村直人. (2017) レッサースローロリスの口内疾患の発生状況と対策について. 第 64 回動物園技術者研究会. (愛知県犬山市)
- Tomonaga M. (2016) How chimpanzees perceive faces: An update after nine years of investigation. Chimpanzees in Context (Understanding Chimpanzees IV). (Chicago, USA)
- Tomonaga M. (2016) How they see the world: Visual cognition compared among humans, chimpanzees, horses, and dolphins. 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Diversity in Harmony Symposia, "Evolutionary Perspectives in Psychology". (Yokohama, Japan)
- 友永雅己. (2016) チンパンジーにおける視線方向の弁別. 第 32 回日本霊長類学会大会. (鹿児島県鹿児島市)
- 友永雅己. (2016) 参照点としての大型類人猿、特異点としての大型類人猿. 日本社会心理学会第 57 回大会シンポジウム 02 「比較することの意味と意義：社会心理学と比較認知科学の新たな接点を求めて」. (兵庫県西宮市)
- Tomonaga M. (2017) How horses see the world: Comparative-cognitive perspective. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. (Kyoto, Japan)
- Tomonaga M. (2017) Cognition des équidés: Cognitive studies of horses in comparison with the other mammals. 1er SYMPOSIUM "Equitation, langage et cognition". (Paris, France)
- Tomonaga M. (2017) How horses see the world: Comparative-cognitive perspective. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session "Equine Science". (Kyoto, Japan)
- Tomonaga M, Imura T. (2016) Attention to inattention: Visual search for the other's gaze by chimpanzees. 日本動物心理学会第 76 回大会. (北海道札幌市)
- Tomonaga M, Kawakami F, Imura T. (2016) Eyes on face: how chimpanzees and humans perceive conspecific and heterospecific eyes. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists, Symposium "comparative study of chimpanzees and bonobos: 2 by 2 comparison to understand the evolutionary origin of human cognition and behavior". (Chicago, USA)
- Tomonaga M, Kumazaki K, Gonseth C, Haraguchi D, Sakurai N, Wilkinson A. (2017) How chimpanzees and other animals use "numbers": comparative study of relative numerosity judgments. 50th anniversary symposium of Primate Research Institute, Kyoto University, "Past, present, and future of primatology". (Inuyama, Japan)
- 友永雅己, 森村成樹. (2016) 「不当な人工保育に対する批判声明」についての意識調査報告. 第 19 回 SAGA シンポジウム、シンポジウム 2 「チンパンジーの人工保育問題を考える」. (山口県宇部市)
- 友永雅己, Wilson DA, 高橋康介. (2016) チンパンジーにおける「曲がり盲」. 日本基礎心理学会第 35 回大会. (東京都杉並区)
- 友永雅己, Wilson DA, 高橋康介. (2016) チンパンジーにおける「曲がり盲」. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- Uchikoshi M, Yamada M, Ishida S, Nemoto K, Kagami Y, Watanuki K, Horigome R, Kimura N, Idani G. (2016) A case report: reuniting a siamang (*Symphalangus syndactylus*) infant with the parents at Japan Monkey Centre. Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- 打越万喜子, 山田将也, 石田崇斗, 綿貫宏史朗. (2017) 飼育下テナガザルの社会的環境変化が歌行動におよぼす影響. 動物園大学 7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)
- Ushitani T, Fujii K, Katsube M, Hoshino Y, Goto K, Imura T, Tomonaga M. (2016) Object-based attention in evolution. 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Symposium "Ecological adaptation and the diversity of visual perception". (Yokohama, Japan)
- 綿貫宏史朗. (2017) 日本モンキーセンターにおける霊長類の混合飼育 4 例. 動物園大学 7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)
- Watanuki K, Okumura F, Uchikoshi M, Tomonaga M, Idani G, Matsuzawa T. (2016) Gathering and evaluating information on captive siamangs (*Symphalangus syndactylus*) in Japan for good population management. International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, Illinois, USA)
- 綿貫宏史朗, 岩原真利, 今井啓雄, 西村剛, 平田聡, 友永雅己, 松沢哲郎. (2016) 大型類人猿情報ネットワーク GAIN の 5 年：非侵襲的類人猿研究の推進. 第 22 回野生動物医学学会大会. (宮崎県宮崎市)
- 綿貫宏史朗, 岩原真利, 西村剛, 今井啓雄, 平田聡, 友永雅己, 松沢哲郎. (2016) 大型類人猿情報ネットワーク GAIN 第 3 期の 5 年間：非侵襲的類人猿研究の推進. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)

- Wilson D, Tomonaga M. (2016) Perceptual categorisation of primate faces by chimpanzees. The 6th International Symposium on Primatology and Wildlife Science and the 5th CCT-Bio International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation. (Kyoto, Japan)
- Wilson DA, Tomonaga M. (2016) Perceptual categorisation of primate faces by chimpanzees. 日本動物心理学会第 76 回大会. (北海道札幌市)
- Wilson D, Tomonaga M. (2017) How do chimpanzees discriminate primate species based on faces? 50th anniversary symposium of Primate Research Institute, Kyoto University, “Past, present, and future of primatology”. (Inuyama, Japan)
- Wilson D, Tomonaga M. (2017) How do chimpanzees discriminate primate species based on faces? The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science”. (Kyoto, Japan)
- Wilson DA, Tomonaga M., Vick SJ. (2016) Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (*Sapajus apella*). 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- Wilson DA, Tomonaga M., Vick SJ. (2016) Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (*Sapajus apella*). 50th International Society for Applied Ethology Congress. (Edinburgh, UK)
- Wilson DA, Tomonaga M., Vick SJ. (2016) Eye preferences in response to emotional stimuli in captive capuchin monkeys (*Sapajus apella*). Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- 山田将也, 鏡味芳宏, 石田崇斗, 綿貫宏史朗, 新宅勇太, 堀込亮意, 木村直人, 伊谷原一. (2016) 日本モンキーセンターでのヤクニホンザルのイモ洗い行動について. 第 32 回日本霊長類学会大会 (鹿児島県鹿児島市)
- 山本知里, 柏木伸幸, 大塚美加, 西村圭織, 酒井麻衣, 友永雅己. (2016) 飼育ハンドウイルカにおける協力行動に関する認知機能. 第 19 回 SAGA シンポジウム. (山口県宇部市)
- Yamamoto C, Kashiwagi N, Otsuka M, Tomonaga M. (2017) Visual size discrimination in bottlenose dolphins using computer-controlled monitor system. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Session “Equine Science”. (Kyoto, Japan)
- 山本知里, 二階堂梨沙, 柏木伸幸, 大塚美加, 友永雅己. (2017) ハンドウイルカのコードにおけるトリックの模倣学習. 第 7 回動物園大学「ず〜ぞなもし」(愛媛県砥部町)

9. 講演

- 伊谷原一. (2016) コンゴの熱帯雨林と野生ボノボの生態. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院東京フォーラム 2016「世界の熱帯林に霊長類を探る」.(東京都江東区)
- 伊谷原一. (2016) 霊長類学入門. 雲雀丘学園高等学校「One Day College 出張講義」.(兵庫県宝塚市)
- 石田崇斗. (2017) ひとりぼっちをなくそう! テナガザル異種ペア成立への取り組み. 動物園大学 7 in とべ ず〜ぞなもし. (愛媛県砥部町)

- 松田一希. (2016) マレーシア・サバ州における長期テナガザル研究: 森林開発とテナガザルの保全. バイオマス循環利用研究部会 (BRUF) バイオマス循環利用講演会. (福岡県福岡市)
- 松田一希. (2016) ボルネオの熱帯林とテナガザルの生態. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院東京フォーラム 2016「世界の熱帯林に霊長類を探る」.(東京都江東区)
- 松田一希. (2016) テナガザルの不思議ーボルネオのジャングルでフィールドワークー. ボルネオ保全トラストジャパン関西定例会. (大阪府大阪市)
- Matsuda I, Tuuga A, Goossens B, Nathan S, Stark D, Ramirez D, Sipangkui R, Seino S, Murai T, Sha J, Osman I, Koda T. (2016) Proboscis monkeys - the big noses and stomachs of Borneo. International Workshop on Proboscis Monkey Conservation in Sabah 2017. (Kota Kinabalu, Malaysia)
- Matsuda I. (2016) Proboscis monkey - mysterious monkey in Borneo. International seminar at the Universiti Kebangsaan Malaysia. (Bangi, Malaysia)
- Matsuzawa T. (2016) Invited Talk at Instituto Nacional de Pesquisas da Amazônia. (Manaus, Brazil)
- Matsuzawa T. (2016) Viewing the Human Mind Through the Study of Chimpanzees. Institute of Cognitive and Evolutionary Anthropology, Oxford University. (Oxford, UK)
- Matsuzawa T. (2016) Invited Talk at Primate Archaeology: An Evolutionary Context for the Emergence of Technology, University of Oxford. (Oxford, UK)
- Matsuzawa T. (2016) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. The 31st International Congress of Psychology (ICP2016). (Yokohama, Japan)
- Matsuzawa T. (2016) Chimpanzees in Context - Understanding Chimpanzees IV. (Chicago, USA)
- Matsuzawa T. (2016) Joint meeting of the International Primatological Society and the American Society of Primatologists. (Chicago, USA)
- Matsuzawa T. (2016) Invited talk at Japanese Chamber of Commerce and Industry of Chicago. (Chicago, USA)
- Matsuzawa T. (2016) 黒猩猩告诉我们, 什么是人类. 一席 YiXi. (Changsha, China)
- Matsuzawa T. (2016) 黒猩猩告诉我们什么是人. Kunming University of Science and Technology. (Kunming, China)
- Matsuzawa T. (2016) 想像力: 从黒猩猩研究看人类思. Yunnan University of Finance and Economics. (Yunnan, China)
- Matsuzawa T. (2016) Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees (想像力: 从黒猩猩研究看人类的思想). Kunming Institute of Zoology. (Yunnan, China)
- Matsuzawa T. (2016) Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees. New Oriental Training School, Yunnan Branch. (Yunnan, China)
- Matsuzawa T. (2016) Origins of the Human Mind [ONGOING] Open Online Course on edX. (Online)

- Matsuzawa T. (2016) Origin of the human mind viewed from the study of chimpanzees. "Kyoto Lectures in Strasbourg" At Institut de Science et d'Ingénierie Supramoléculaires (ISIS). (Strasbourg, France)
- Matsuzawa T. (2016) Invited talk at Strasbourg day of monkey 25 years. (Strasbourg, France)
- Matsuzawa T. (2017) Numerical abilities of chimpanzees "The origins of numerical abilities." The Royal Society, London. (London, UK)
- Matsuzawa T. (2017) Numerical abilities of chimpanzees "The origins of numerical abilities: the future." Kavli Royal Society Centre, The Royal Society at Chicheley Hall. (Buckinghamshire, UK)
- Matsuzawa T. (2017) Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees Scottish Primate Research Group. (Edzell, Scotland, UK)
- Matsuzawa T. (2017) SAGA: An attempt to promote the welfare of chimpanzees and other nonhuman primates in Japan. University of Stirling. (Stirling, Scotland, UK)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから ―チンパンジーが教えてくれた人間の心. 愛知県立明和高等学校・高大接続事業 (講演とJMC 現地実習). (愛知県犬山市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees. 盛和スカラーズソサエティ. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) 中部生産性本部 60 周年記念式典講演. (愛知県名古屋市中)
- 松沢哲郎. (2016) 静岡県高等学校等副校長・教頭会講演. (静岡県)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから～チンパンジーが教えてくれた人間の心. 浄土宗西山禅林寺派京都布教団記念講演会. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) 創造するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 19 回学習院大学生命科学シンポジウム「生命の秘密を解く鍵を求めて」. (東京都豊島区)
- 松沢哲郎. (2016) 人間とは何か：二足歩行、道具、言語、家族の起源を再考する. 第 53 回法然院夜の森の教室. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) チンパンジーが教えてくれた人間の心. 中部大学創設学術院開所記念講演会. (愛知県春日井市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 112 回日本精神神経学会学術総会特別講演. (千葉県千葉市)
- 松沢哲郎. (2016) 七社会. (愛知県名古屋市中)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. ことば・きずな. 第 17 回日本言語聴覚学会. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 39 回日本神経科学大会教育講演. (神奈川県横浜市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから～チンパンジーが教えてくれた人間の心～. 鶴岡致道大学第 3 講. (山形県鶴岡市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 50 回日本実験動物技術者協会全国総会. (埼玉県川越市)
- 松沢哲郎. (2016) チンパンジーが教えてくれた人間の老化と幸福. 第 12 回ひと・健康・未来シンポジウム 2016 春日井. (愛知県春日井市)
- 松沢哲郎. (2016) にんげんとチンパンジー. ありがとう淳風記念講演会. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 第 55 回全国自治体病院学会. (富山県富山市)
- 松沢哲郎. (2016) "想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心" ミニ・レクチャー + ディスカッション. 中山人間科学振興財団創立 25 周年記念シンポジウム. (東京都千代田区)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから ～チンパンジーが教えてくれた人間の心. 心の健康・文化フォーラム. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 京都成人血管病シンポジウム. (京都府京都市)
- 松沢哲郎. (2016) 互いを思いやる：人間性の霊長類的起源. 第 6 回日本マーモセット研究会大会. (東京都文京区)
- 松沢哲郎. (2017) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 福山大学教養講座. (広島県福山市)
- 松沢哲郎. (2017) 愛媛県医師会代行中予ブロック学会講演. (愛媛県松山市)
- 松沢哲郎. (2017) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 全国科学博物館協議会総会記念講演. (京都府京都市)
- 岡安直比. (2016) 野生ゴリラもイクメンがモテる？―チンパンジーとゴリラが共生するアフリカのジャングルから―. 第 25 回東山再生フォーラム. (愛知県名古屋市中)
- 岡安直比. (2016) アフリカのジャングルに暮らすゴリラと、生き物と、自分の来た道―. 東京都立八王子東高校講演. (東京都八王子市)
- 尾池和夫. (2016) 変動帯の日本列島と大学教育. 2016 年度新規採用職員の皆さんへ. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) ジオパークとは何か. 萩ジオパーク構想推進協議会. (山口県萩市)
- 尾池和夫. (2016) 第 23 期日本学術会議外部評価有識者会議報告. 第 171 回日本学術会議総会. (東京都港区)
- 尾池和夫. (2016) 金星夜会. 大阪藝術学舎. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 137 億年の宇宙の歴史から. 日本綿業倶楽部. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 21 世紀前半の地震. 大阪機械器具卸商協同組合. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 地球科学の日中交流 40 年. 京都府日中友好協会総会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 百年の愚行展トークイベント「愚行の時代の文化と芸術」127 億年の宇宙の歴史. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 京都の地球科学. 京一商西京文化サロン. 京都の地球科学. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 変動帯の日本列島と防災. 京都芸術デザイン専門学校ビジュアルデザインコースブランドニング科目. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 2038 年南海トラフの巨大地震. 公開シンポジウム「21 世紀型『ゆたかな社会』を求めて II」. (愛知県東海市)

- 尾池和夫. (2016) 日本のジオパークの現状と課題. 第2回東北ジオパーク学術研究者会議. 日本のジオパークの現状と課題. (山形県酒田市)
- 尾池和夫. (2016) 京都の活断層と地震. 京都大学吉田寮イベント. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 都を生み出した活断層. 京都府立図書館連続講座. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 美祢市教育振興大会, 日本のジオパークの現状と課題. 美祢市教育振興大会. (山口県美祢市)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 京都商工会議所女性会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) ジオパークで見る・食べる・学ぶ. 北海道博物館連続講演. (北海道札幌市)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 防災史研究会. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 南海トラフ巨大地震. 高大連携教育研究会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 中国人日本留学 120 周年記念「グローバル時代の人材育成と留学の役割」. 地球科学の日常交流. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 第 24 回日本消化器関連学会. (兵庫県神戸市)
- 尾池和夫. (2016) 地域の未来と公立大学の役割. 高知県立大学 70 周年記念行事. (高知県高知市)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 京都商工会議所建設産業部会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 日本列島大地を知る～巨大地震を直言する～. ちおん舎. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 熊本地震の仕組と背景. 通信教育部「秋の収穫祭」(公開講座). (熊本県熊本市)
- 尾池和夫. (2016) 熊本地震で学ぼう講演. 熊本地震から学ぼう. 熊本地震で学ぼう講演. (熊本県山鹿市)
- 尾池和夫. (2016) あっ! 地球が・・・漫画による宇宙の始まりから近未来の破局噴火まで. 応用科学研究所平成 28 年度定例研究会第 2 回. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 二十一世紀前半の地震活動. 第 53 回「実践人」京都研修会. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2016) 地震を知って震災に備える. 防災士研修 (大阪 12 月コース). (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2016) 京都府の地球科学. 京都教育研究会全体研修会京都府総合教育センター. (京都府京都市)
- 尾池和夫. (2017) 漫画でみる宇宙と地球—宇宙の成り立ちと地球の未来—, 大阪自由大学公開講演会. 上田安子服飾専門学校. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2017) 日本ジオパークの目指すところ. くにびきジオパーク推進協議会シンポジウム基調講演. (島根県松江市)
- 尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 防災士養成研修 (大阪狭山市 11 月コース). (大阪府狭山市)
- 尾池和夫. (2017) 漫画でたどる宇宙の始まりから地球の未来まで. 環境居都フォーラム. (大阪府大阪市)
- 尾池和夫. (2017) 日本列島の自然. 大分舞鶴高校 SSH 成果発表会での特別講演. (大分県大分市)
- 尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会. (滋賀県栗東市)
- 尾池和夫. (2017) 地震を知って震災に備える. 防災士研修会. (大阪府大阪市)
- 友永雅己. (2016) 学会で質問しよう. 日本動物心理学会第 76 回大会教育講演「初心者のための英語口頭発表」. (北海道札幌市)
- 友永雅己. (2016) 森のころ、草原のころ、海のころ. 行動生物学サイエンスカフェ 2016 —行動生物学への誘い—. (新潟県新潟市)
- 友永雅己. (2016) チンパンジーから探るヒトのころの進化. 関西実験動物研究会第 132 回研究会. (京都府京都市)
- 友永雅己. (2017) 海のころ —「イルカからみた世界」をさぐる旅—. 第 2 回水族館大学 in 京都、『イルカショーの可能性と未来』. (京都府京都市)
- Yamagiwa J. (2016) Human capital development to raise collaboration and competitiveness through innovation between ASEAN and Japan. ASEAN-Japan workshop in Thailand on innovation, science and technology for sustainable development. (Bangkok, Thailand)
- Yamagiwa J. (2016) University role in conservation of biodiversity. 2nd JASTIP Symposium “Bioresources and biodiversity studies in ASEAN: contribution to our sustainable future”. (Jakarta, Indonesia)
- Yamagiwa J. (2016) The 50-year history of African Studies. Symposium for 50th anniversary of promotion of science and technology cooperation between Africa and Japan. (Nairobi, Kenya)
- Yamagiwa J. (2016) Role of universities in human resource development in Africa. TICAD VI Pre-Event on Higher Education “Higher Education Breakthrough for Human Resource Development and Innovation in Africa”. (Nairobi, Kenya)
- Yamagiwa J. (2016) University’s role for human resource development in conservation of biodiversity and bioresources. Keynote speech at Kyoto-ASEAN Forum 2016. (Kuala Lumpur, Malaysia)
- Yamagiwa J. (2016) Evolution of human socialities. RU11 Special lecture. (Tokyo, Japan)
- Yamagiwa J. (2017) Comments and discussion on “Virunga” (Documentary Film), Conserv’ session: Conservation Documentary Nights. (Kyoto, Japan)
- Yamagiwa J. (2017) World Heritage and Conservation of Biodiversity in Japan. Kyoto University International Symposium “Frontiers of Innovative Research towards Sustainable Society in Asia. (Bangkok, Thailand)
- 山極壽一. (2016) 道徳の起源—共感から倫理へ. 国際ロータリー第 2650 地区 2015—16 年度地区大会特別講演. (京都府京都市)
- 山極壽一. (2016) ゴリラのベッドと眠り—睡眠進化論. 睡眠進化シンポジウム「新しい眠りに目を覚まそう—人類進化と眠りの多様性を求めて」. (京都府京都市)
- 山極壽一. (2016) 戦争の起源を考える. スペシャルトーク「愚行の時代の文化と芸術」. (京都府京都市)
- 山極壽一. (2016) ゴリラからみた人間のコミュニケーションと社会の進化. 第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会特別講演. (京都府京都市)
- 山極壽一. (2016) 言語以前のコミュニケーションと道徳の起源. 日本文化人類学会第 50 回研究大会記念シンポジウム「人類の道徳性と暴力性をめぐって—隣接諸科学との対話」. (愛知県名古屋)
- 山極壽一. (2016) 家族と病気の起源を探る. 芝蘭会岐阜支部学術講演会. (岐阜県岐阜市)

山極壽一. (2016) コミュニケーションの進化と次世代のコミュニティ. 京都スマートシティエキスポ 2016 基調講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) フィールドワークの発想と京都大学. 京都大学東京オフィス移設開設記念講演. (東京都千代田区)

山極壽一. (2016) リーダーシップとチームワーク. 京都学生祭典実行委員会研修会. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) 類人猿はなぜ熱帯雨林を出られなかったのか. 日本学術会議自然人類学分科会主催シンポジウム「人類 1000 万年史」. (東京都文京区)

山極壽一. (2016) 京都大学の教育体制を世界の大学のデータから展望する. 第 20 回全学教育シンポジウム、基調講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) 二人の恩師の夢、今西錦司先生と伊谷純一郎先生、上廣フォーラム～日本人の生き方「わが師・先人を語る」. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) 第 2 回京都こころ会議シンポジウム「こころの内と外」、討論者. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) 老いの美しさの秘密を探る. 第 12 回ひと・健康・未来シンポジウム「老いることの発見」. (愛知県春日井市)

山極壽一. (2016) ゴリラから学んだ人類の進化. 日本学術会議近畿支部公開シンポジウム「アフリカの進化と文化—われわれがアフリカから学ぶこと—」. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) 第 6 回京大おもしろトーク アートな京大を目指して「矛盾をはらんだ創造」、ディスカッサント. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) サルやゴリラと歩いた半世紀. 京都産業大学特別対談シリーズ「マイ・チャレンジ」. (京都府京都市)

山極壽一. (2016) コミュニケーションの進化と家族の起源. エンジニアリングシンポジウム 2016. (東京都千代田区)

山極壽一. (2016) サル化する人間社会. 第 88 回琉球大学 21 世紀フォーラム. (沖縄県那覇市)

山極壽一. (2016) 共感社会とコミュニケーションの進化. 第 30 回東京精神科病院協会学会特別講演. (東京都新宿区)

山極壽一. (2016) サル化する人間社会と人工知能. 日立製作所イノベーションフォーラム. (東京都千代田区)

山極壽一. (2016) ゴリラから学ぶ人間社会と教育. 神戸市医師会設立 60 周年記念講演. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2016) なぜ人間の赤ちゃんは泣くのか? 日本子どもの虐待防止学会第 22 回学術集会おおさか大会基調講演. (大阪府大阪市)

山極壽一. (2016) ゴリラの目で人間の子どもの不思議を考える. 日本乳幼児教育学会第 26 回大会基調講演. (兵庫県神戸市)

山極壽一. (2016) サル化する人間社会. 相山女学園大学創立 111 周年記念相山フォーラム「ヒト・ひと・人」人間性の起源とゆくえ—霊長類学と臨床哲学の対話—. (愛知県名古屋市中区)

山極壽一. (2016) ゴリラの世界から人間社会の本質を考える. 経団連フォーラム 21. (東京都千代田区)

山極壽一. (2016) 老いの進化. 第 20 回生命科学シンポジウム「高齢化社会を科学する」. (東京都豊島区)

山極壽一. (2017) 人類史 1000 万年を展望する. フォーラム新・地球学の世紀. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) 自然と文化をつなぐものづくり. 京都ものづくり協会新春講演. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) ゴリラは戦わない. 法然院森の夜の教室. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) 家族の危機. 第 1 回ともいきフォーラム「家族とは? ~わかち合いの心~」. (東京都港区)

山極壽一. (2017) パネリスト「知のループを広げるために」. シンポジウム「いま科学者の役割を考える 科学コミュニケーションのあり方」第 2 部. (東京都港区)

山極壽一. (2017) パネリスト「ひろげよう、フィールドの世界」. 京都大学フィールド科学教育センター公開シンポジウム. (京都府京都市)

山極壽一. (2017) ヒト以外の美意識～ゴリラから学ぶ. 連続講座「芸術は何処へ?」. (京都府京都市)

山極壽一, 内丸幸喜. (2017) 芸術と毒の微妙な関係. 第 7 回京大おもしろトーク「アートな京大を目指して」. (京都府京都市)

10. 連携研究の受入

2015019 (2016 年度実施分)

申請者: 酒井朋子 (慶應義塾大学)・畑純一 (理化学研究所)・太田裕貴 (東京慈恵会医科大学)・小川優樹 (東京慈恵会医科大学)

題目: 拡散スペクトラム MRI を用いた霊長類の神経回路構造の比較研究

本研究では、貴センターが所有するボリビアリスザル、シロガオオマキザル、ノドジロオマキザル、ボンネットモンキー、サイクスモンキー、クチヒゲグエノン、カニクイザル、アカオザルの死後脳標本を対象に、慈恵医科大学が所有する 9.4 テスラの高磁場 MRI 装置を用いて、脳解剖画像および拡散 MRI 画像を非侵襲的に撮像した (解像度 20 ~ 50 μ m)。さらに、これらの脳画像を、ヒトの脳画像と比較することで、海馬、扁桃体、脳幹、および鈎状束 (前頭眼窩皮質、前部島皮質、側頭極、扁桃体を結ぶ神経線維束) の解剖学的特徴について、予備的検討を行った。海馬は記憶・学習に、扁桃体は情動・価値判断に、脳幹は意識・覚醒および歩行制御、鈎状束は共感性において重要な役割を担うことが報告されていることから、本研究の知見は、ヒトの認知機能、社会性、運動機能の進化基盤の解明に貢献することが期待される。これらの研究成果について、学術論文および総説としての投稿に向けての準備を進めている。

2015020 (2016 年度実施分)

申請者: 矢野航 (朝日大学)・清水大輔 (京都大学)

題目: 単独性原猿類スローロリスにおける歯周病菌感染経路の解明

歯周病の広範な発症が見られた JMC で飼育中のレッサースローロリス (*Nicticebus pygmaeus*) の歯周病菌感染経路を解明するため、JMC で飼育されているレッサースローロリスの口腔内から歯垢 (上下顎 8 箇所)、唾液、舌苔の採取を行った。また、口腔外からは唾液接触のある上腕部の腺液、接触のない耳垢を採取した。申請者らはレッサースローロリスの歯周病菌の感染経路を検証することを目的として、これまで同試料に含まれる細菌群の DNA 抽出および次世代シーケンサー (霊長類研究所蔵) を用いた遺伝子配列解読を行うプロジェクトを進めてきた。これまでの研究で 12 個体 (の

べ20回)分の試料を採取しており、間もなく先行する6個体の細菌叢配列の解説がほぼ完了する見込みである。なお、得られた結果は国際英文誌に発表する予定である。

2016001

申請者：山梨裕美（京都大学）

題目：飼育下単独性霊長類における仲間の存在が

福祉に及ぼす影響～スローロリスを対象として～
社会性の強い動物にとって、飼育下でも仲間との暮らしは必須である。野生では単独性の強い動物においても、飼育下では同種他個体と生活する場合があるが、その効果はわかっていない。グループでの飼育が可能であれば環境改善にも幅が広がることから、飼育下での単独性動物の社会性についての検討は重要である。日本モンキーセンターでは2016年よりスローロリス保全センターの発足に向け、環境整備などをおこなってきた。その取組の中で、レッサースローロリスのオス同士での同居を複数組でおこなった。本年度はオスのロリスの行動モニタリングとホルモン測定用の糞採取をおこなった。行動モニタリングの結果から、ロリスのオス4グループのうち、3グループで巣箱の共有や親和的社会行動などがみられ、積極的な関わり合いが確認された。スローロリスの非血縁のオスは野生ではほとんど交渉しないと考えられているが、柔軟性が高いことがあきらかとなった。

2016002

申請者：菊池泰弘（佐賀大学）

題目：中期中新世・化石類人猿ナチョラピテクスの
上位胸椎の復元

1500万年前のアフリカ産化石類人猿・ナチョラピテクスの上位胸椎標本(KNM-BG 48094)は化石化の過程で変形しており、原型が不明のため現生種との比較が困難である。そこで比較分析を行う目的で、大型類人猿のチンパンジー(オス1頭、メス1頭)、および旧世界ザルのアヌビスヒビ(オス1頭、メス1頭)の第2～第5胸椎(合計16標本)を対象に、pQCT(XCT 2000Research+)を用いてCT撮像を行った。今後、得られたデータを三次元座標系に展開・サイズ補正した後、それぞれの標本における相同点を決定して、ナチョラピテクスと現生種との比較分析を行う。ナチョラピテクスと上記現生種2種のオス・メスの胸椎の抽出相同点の分析から、化石の塑性変形成分を選択的に除去することを試みる。そして、化石胸椎がチンパンジーあるいはアヌビスヒビのオス・メスどちらに近いのかを判定する予定である。

2016003

申請者：松田一希（中部大学）・Chua Physilia (Albert Ludwigs Universität)・Claire Ng (Albert Ludwigs Universität)

題目：昼行性霊長類の夜間行動に関する研究

私たちは、霊長類には認知できない赤外線投光器と夜間撮影用ビデオレコーダーを用いて、日本モンキーセンターで飼育している霊長類4種の行動を録画した(17:30～翌日の6:30)。行動録画の対象種は、アビシニアコロブス、チンパンジー、マンドリル、レッサースローロリスであった。夜間の睡眠時間は、アビシニ

アコロブスやチンパンジーが10時間を超えるのに対し、他の2種は8時間前後の睡眠時間であった。どの種においても、従来は寝ているだけだと考えられていた深夜時間帯に、活発な行動が観察されたのが興味深い結果であった。睡眠場所は、チンパンジーとマンドリルが特に地上を好む傾向が強かった。また、チンパンジーとマンドリルは、横向き、仰向け、うつ伏せ、垂直姿勢といった多様な姿勢で夜間を過ごすのに対し、他の2種は大半の時間を垂直姿勢で過ごしていることが明らかとなった。本成果をもとに、野生種との比較を通じて更なる種間比較を検討したい。

2016004

申請者：木下こづえ（京都大学）

題目：雌チンパンジーにおける授乳期間中の性皮腫脹
と尿中ホルモン動態について

チンパンジーでは通常、授乳期間中は発情が休止し、性皮の腫脹も見られない。しかし、日本モンキーセンターにて飼育されている雌(マルコ)は、出産後、授乳行動が見られているにもかかわらず、性皮の腫脹が観察され、交尾行動も見られた。これまでの研究結果から、マルコの授乳中の発情回帰は、性皮腫脹の周期も通常発情周期よりも長い間隔で観察されており、通常発情周期における性皮腫脹とは様子が異なっていた。授乳中の排卵を危惧して、2015年4月8日から避妊薬(ノアルテン)の投与を開始し、投与直後から性皮腫脹は見られなくなったが、依然として、交尾行動は数回見られたままであった。尿中性ステロイドホルモン濃度を測定したところ、避妊中は通常発情周期とは異なって発情および黄体ホルモンが一定の底値を維持し周期性が見られなくなっていたにもかかわらず、マルコが雄に対して交尾行動を促していたことが判明した。よって、避妊中に見られた交尾行動は、繁殖生理に関わるものではなく、雄との社会的関係による交尾行動であったことが示唆された。

2016005

申請者：平松千尋（九州大学）・山下友子（芝浦工業大学）・杉野強（九州大学）・飯田州人（九州大学）・友永雅己（京都大学）

題目：霊長類における音声コミュニケーションの進化
および発達過程の研究

これまでの連携研究において、テナガザル3種、ワオキツネザル、ダスキーティティ、ヤクニホンザル、チンパンジーなどから音声を録音してきた。それらの音声および、独自に録音したヒトの様々な発達段階の音声に対しケプストラム分析を行い、1/3オクターブバンドフィルタで分割した24帯域それぞれのパワーを変数として、帯域間の相関関係行列を算出した。そして、各音声間のユークリッド距離を求め、音声間の非類似度行列から、多次元尺度構成法で刺激布置を求めた。その結果、ヒトの成人とヒト以外の霊長類グループが分かれて布置され、その中間にヒトの乳幼児のグループが布置された。また、乳幼児の月齢が高いほど成人グループに、月齢が低いほどヒト以外の霊長類グループに近づくような傾向が得られた。このことは、ヒトを含めた霊長類の進化、発達に伴う声道構造の変化が音声にも反映されていることを示唆する。

2016006

申請者：林美里・川上文人・市野悦子・平栗明美・
川口ゆり・櫻庭陽子・Chloe Gonseth・
村松明穂・友永雅己（京都大学）

題目：飼育下チンパンジーにおける子どもの発達
および母子関係について

観察を開始した 2014 年 7 月時点で野外運動場を使用していたチンパンジー 3 個体（マモル、マルコ、ツトム）を対象に、ビデオカメラを用いた観察を 1 時間、週に 2 回行い、社会的な行動、特に笑顔を中心に分析した。生後 6 か月間で唯一笑顔が生じた、母親による「高い高い」場面に着目すると、1 回の「高い高い」で乳児の笑顔は 0.19 回であったのに対し、母親は一度も笑顔を見せなかった。これはヒト保育者の「高い高い」と異なる結果であった（乳児の笑顔：0.68 回、保育者：0.84 回）。チンパンジーでは母子間でも笑顔の伝染が少ないのかもしれない。

マモルは生後 2 歳を過ぎ、ひとり遊びが頻繁に見られるようになったが、同世代がおらず、個体数も少なかったことから社会的な遊びが顕著に増加することはなかった。2016 年度からチンパンジーの群れ構成を変更し、非血縁個体を含む群れの構築が目指されており、マモルの行動にも変化が期待される。

2016007

申請者：松島慶（京都大学）

題目：飼育レッサースローロリスを対象とした、
給餌の変化が腸内細菌叢に与える影響に関する
研究—動物福祉と保全に向けて—

レッサースローロリスは野生下において、植物ガムを摂食することが知られているが、飼育下において植物ガムを与えることは非常にまれである。植物ガムはアラビノガラクトンなどの難消化性の多糖を主成分としているが、その一方でアラビノガラクトンは哺乳類の腸内細菌によって代謝されることが報告されている。そこで、アフリカセンターの同一小屋にて飼育されているレッサースローロリスの 2 個体に植物ガムの給餌を行い、動物福祉の観点から評価することを目標に、腸内細菌叢構造の変化を検出することとした。

現在試料として植物ガム給餌前 15 日分、給餌後 18 日分（最大連続 16 日分）の新鮮なフンを飼育員の方々にも協力いただきながら採取し、凍結乾燥を行った後、DNA の抽出を行った。今後は DNA からの個体識別を進め、次世代シーケンサーを用いた網羅解析を実施予定である。

2016008

申請者：糸井川壮大（京都大学）

題目：ワオキツネザルにおける臭腺分泌物質の季節
変化の生物学的意味

2016 年 9 月から 2017 年 1 月にかけて、ワオランド寝室において、ワオキツネザルのオスの臭腺分泌物質由来の繁殖期特異的に分泌量が增大する 3 分子の単体と混合物をそれぞれメスに提示し、匂いに対する応答行動を観察した。その結果、単体に対しては、いずれの分子でもコントロールとの差を確認できなかったが、混合物に対してはコントロールに対して長く匂いを嗅ぐことが明らかになった。この結果から、これらの候補分子は混合物で機能し、メスを誘引するフェロ

モン様分子であり、繁殖期のオスのマーキングにメスが引き付けられる主な要因になっていることが示唆された。この結果は、第 61 回プリマーテス研究会で発表し、優秀口頭発表賞を獲得した。また、所属研究室のワオキツネザルの臭腺分泌物質解析の結果と合わせて学術論文を執筆中である。

2016009

申請者：Anna Wilkinson（リンカーン大学）・友永雅己
（京都大学）・川上文人（京都大学）・原口大希
（山口大学）

題目：リクガメ類（Testudinidae, Tortoises）を対象
とした総合的比較認知科学研究

爬虫類や両生類は哺乳類や鳥類に比べて、比較認知科学研究が遅れている。しかしながら、リクガメなど、複雑な社会を持たない爬虫類の物理的知性や社会的知性を調べることは、知性の多様性と取れん進化を考えるうえで極めて興味深い。今回は、霊長研の友永雅己、山口大学の原口大貴らを研究協力者として、KIDSZOO のケヅメリクガメ 2 個体を対象に、リング片の数の相対的大小判断のテストを実施した。その結果、2 個体とも数の比が大きくなるにつれて成績が良くなるという結果が得られた。一方で、全体のリング片の総数が多くなると、正答率がチャンスレベルに近づく（数の違いを気にしなくなる）という、他種によるコンピュータ課題の結果とは異なる知見も得られた。

2016010

申請者：糸井川壮大（京都大学）

題目：キツネザル類における苦味受容体遺伝子 TAS2R
の種間比較

今年度は、日本モンキーセンターで保管されている過去に飼育されていたキツネザル類の筋肉試料から抽出した DNA を用いて苦味受容体遺伝子の種間比較をするための準備を行った。具体的には、既に保有しているキツネザル類のサンプルを用いて、苦味受容体遺伝子の配列解析のための PCR 系の確立を行った。また、苦味物質に対する応答機能を調べるために、培養細胞を用いた機能解析系の構築を現在実施中である。

2016011

申請者：村松沙保（中部学院大学）

題目：サルは障がいのある個体とどうつきあうか

ヒト以外の霊長類において障がいをもつ個体の行動特性や、その個体に対する他個体の行動を明らかにするために、南米館で飼育されているフサオマキザルの左肘下欠損の個体 2 頭と健常個体 2 頭を観察し、行動を比較した。

利用する場所には欠損個体も健常個体も大差はなかった。欠損個体は健常個体と比べ採食にかかる時間が長かった。獲得した食物を食べるのに時間がかかったからだと考えられる。欠損個体は健常個体と比べ他個体との接触、覗き込み、遊びの頻度が低かった。観察中に欠損個体が他個体から毛づくろいをされていたが、欠損個体から他個体への毛づくろいは見られなかった。欠損個体が他個体に接近することは少なく、逆に他個体の接近を避ける行動が多かった。敵対的交渉の頻度は欠損個体も健常個体ともに低かった。以上から、フサオマキザルの欠損個体は生活上のハンディはある

ものの、他個体から健常個体と区別した扱いを受けてはいないと示唆された。

2016012

申請者：小池田聡・鷺津欣也・結城健介（天野エンザイム株式会社）

題目：霊長類からの微生物分離と酵素供給源としての可能性評価に関する研究

日本モンキーセンターが飼育する葉食性コロブス類、アジア原産3種（ハヌマンランゲール、シルバールトン、フランソワルトン）、アフリカ原産2種（アビシニアコロブス、アングラコロブス）の糞便から各種乳酸菌用培地（MRS、BL、TOS、GAM 培地）を用いて嫌気条件・37℃で菌を分離した。また参考条件として同時に、一般的な細菌用培地（SCD 培地）を用いて好気条件・37℃で菌を分離した。最終的にコロブス類5種9頭からサンプリングした12サンプルから霊長類の腸内細菌126株が分離された。分離した菌株は16S rRNA 遺伝子領域を部分解析し、属・種を推測した。既知の報告と類似性が高い株は約15種40株と見積もられ、逆に類似性が低く新種である可能性が示唆される株が6種6株分離されている。また乳酸菌類が約5種20株ほど分離され、同時に大腸菌群、セレウス菌も約50株分離された。

2016013

申請者：加賀谷美幸（広島大学）

題目：霊長類の胸郭形状と前肢帯プロポーションの分析
背腹に扁平な胸郭と外側へ突出した肩関節位置は類人猿やヒトに特徴的で、クモザルにも平行進化しているとされる。このようなプロポーションをもたらず骨格の特徴を明らかにするため、肋骨や椎骨、前肢帯骨標本の計測と観察を、新世界ザル5種、旧世界ザル3種、類人猿3種、原猿類2種を対象に行った。

骨格に基づいて算出した体重値で基準化すると、類人猿の第1肋骨が長く、アジア類人猿では最長肋骨（第5－7肋骨）も長い。しかしながら、クモザルの相対肋骨長や相対鎖骨長はオマキザルなどの伏位型の霊長類とほとんど同じで、むしろウーリーモンキーやホエザルの肋骨が比較的長い傾向がみられた。肋骨体の弧長と弦長の比をみると、クモザルの肋骨はウーリーモンキーやウアカリと同様かわずかに弯曲が強い程度であった。クモザルが類人猿と一見類似した胸郭形状や肩関節位置を持つとしても、異なる形質の組み合わせによってそれを実現している可能性がある。

2016014

申請者：佐々木智彦（東京大学）

題目：オナガザル科の進化と多様性に関する研究

エチオピア・チョローラ地区出土のオナガザル科上顎臼歯化石の系統分析に資するため、日本モンキーセンター所蔵の現生オナガザル科標本との形態比較を行った。アレングモンキー・アングラコロブス・アカオザル・タラポアン の歯牙の型取りをおこなった。化石標本は、フレアの小ささや近遠心径の長さなどからマンガベイ属のものにその形態的類似性が認められた。しかし、その系統評価には型取りを行った標本などを含めた更なる精査が必要である。

2016015

申請者：勝部元紀（京都大学）

題目：胎児期の鼻中隔および前鼻棘成長過程についての比較解剖学的研究

6体（カニクイザル5体、ボンネットモンキー1体）の胎児標本について7 Tesla MRI を撮像し、データを取得した。内1体については、保存期間が原因と思われるアーチファクトを認めたが、その他の標本については概ね良好な画像データを取得出来ている。これらを元に鼻中隔や前鼻棘をはじめとした顔面骨格、頭蓋底の成長について解析中である。解析方法としてはランドマーク座標を元に解析を行う Geometric morphometrics を適応することで、それぞれの形態形成、そして相互作用などを検証中である。また、今後はヒト胎児標本に対して撮像した7 Tesla MRI 画像と比較検討して比較解剖学的見地から胎児期の頭蓋顔面の成長を解析、検証する予定である。

2016016

申請者：林美里（京都大学）・André Gonçalves（コインブラ大学）

題目：胎児期の鼻中隔および前鼻棘成長過程についての比較解剖学的研究

日本モンキーセンターのモンキーバレイにくらすヤクニホンザルでおきた、2例の母親による死児の運搬について行動観察をおこなった。2017年1月12日に死亡した8か月齢の子どもの母親254タンク♀（5810）、および1月22日に死亡した7か月齢の子どもの母親385ノリ♀（6725）が死児を運搬する行動を見せた。1例目では3日間、2例目では4日間、母親が死児を運搬していた。1例目の子どもは発育不良の傾向があり、母親は死児をもちあげて胸に抱く形で運搬をおこなった。2例目では、母親が子どもの手足をもって地面の上を引きずる形で運搬がおこなわれたが、体から死児をはなして放置する時間は2例目の母親のほうが短かった。死児の運搬行動については、チンパンジーやニホンザルなどで報告されているが、ヤクニホンザルではまだ報告がなされていない。一方、モンキーバレイでは過去にも同様の事例がおこっており、今後は所内研究として、より広範な種を対象として過去の事例も含めてデータを収集する。

2016017

申請者：今井啓雄（京都大学）

題目：Huntingtin 遺伝子の進化に関する研究

本研究は、霊長類研究所共同利用研究（イタリアミラノ大学・Giulio Paolo Formenti 修士、Elena Cattaneo 教授）の一環として実施したものである。これまで、霊長研のニホンザル等の様々な霊長類を用いてHuntingtin (Htt) 遺伝子の多型を解析してきたが、その課程でコモンマーマセットおよびタマリンでは、Htt 遺伝子が一部重複し、短い断片が偽遺伝子（偽Htt）として存在していることが判明した。そこで、JMC 所有の様々な新世界ザルの保存組織片からDNAを抽出し、Htt と偽Htt（があるかどうか）についてエクソン1を中心に比較解析を実施することを試みた。いくつかの種の保存サンプルから数個体ずつ合計21サンプルからDNAを抽出し、解析した結果、ほとんどの個体でPCR産物を得ることができた。すなわち、新世

界ザルから *Huntingtin* 遺伝子を PCR 増幅する系を確立することができたため、既に保管されている JMC のサンプルを使用する準備ができた。

2016018

申請者：Adrian A. Barnett (国立アマゾン研究所)

題目：Gape size and canine diameter in *Cacajao* spp.:
Factors limiting the range of fruits

Members of the genus *Cacajao* are specialists in unripe seeds of hard-husked fruits and, to deal with such a challenging diet, have some of the most extreme dental specializations of any Neotropical primate. However, the limitations imposed by such dental morphology and how this interacts with diet choice have been little explored. My student Renann da Paiva is looking at the influence of gape size and canine diameter as factors limiting the range of fruits that *Cacajao* spp. can exploit. We are assembling a data set that includes the diameter of the upper left canines at the tip, and 2, 4 and 6 mm from the tip, as well as width of the upper incisal row and maximum distance between the tips of the upper canines. We are also measuring maximum gaps, using a measure between the tips of the upper and lower canines and upper and lower incisors when the lower jaw is at three different angles relative to the cranium. These measurements were collected on three specimens of *Cacajao calvus* at Japan Monkey Centre. With these measures we hope to be able to compliment the field-derived studies that have told us what the animals are eating, by testing for the possibility of mechanical limitations to some aspects of foraging and so gain an insight into why *Cacajao* spp. do not eat the fruits of some of the other species that are present in the forests which they inhabit.

2016019

申請者：平井啓久 (京都大学)

題目：ヨザルの Y 染色体の進化にかかわる研究

対応キュレーターと協力して、ハイアシヨザル (*Aotus griseimembra*) のヨシズの検診時に、血液から細胞培養をおこない、染色体標本を作製する準備が整った。今後、染色体顕微切断法を用いて Y 染色体プローブを作成し、ヨザルを基盤とした新世界ザル類の Y 染色体の変異機序について解析する。

11. 標本資料の貸出 (連携研究)

連携研究番号：2015019

貸出標本：トクモンキー、ヨザルほか、脳標本 4 点、
全身液浸標本 1 点

貸出日：2016 年 2 月 15 日

貸出標本：ポリビアリスザルほか、脳標本 8 点

貸出日：2016 年 9 月 27 日

貸出標本：脳標本 4 点

貸出日：2017 年 1 月 30 日～

連携研究番号：2016002

貸出標本：チンパンジー、キイロヒヒ 胸椎 4 体分

貸出日：2016 年 5 月 26 日

貸出標本：アヌビスヒヒ 胸椎 2 体分

貸出日：2016 年 6 月 6 日

連携研究番号：2016015

貸出標本：胎児液浸標本 6 点

貸出日：2017 年 1 月 27 日

12. 研究活動ミーティングの開催

第 1 回：2016 年 12 月 1 日

内容：研究進捗報告

コア発表

糸魚川壮大 (京都大学霊長類研究所)

「ワオキツネザルのオス由来の匂い物質に

対するメスの応答行動研究」

第 2 回：2016 年 12 月 21 日

内容：プリマーテス研究会に向けた発表計画の共有

コア発表

友永雅己 (日本モンキーセンター・京都大学

霊長類研究所)

第 3 回：2017 年 2 月 24 日

内容：研究進捗報告

コア発表

村松沙保 (中部学院大学)

「サルは障がいのある個体とどうつきあうか」

田中ちぐさ (日本モンキーセンター)

「飼育下キツネザルの夜間行動」

13. セミナーの開催

(1) 職員向け「霊長類基礎セミナー」

第 2 回：2016 年 4 月 12 日

内容：動物系統分類学

新宅勇太

第 3 回：2016 年 4 月 26 日

内容：データ収集法

早川卓志

第 4 回：2016 年 5 月 17 日

内容：ロコモーション観察

高野智

第 5 回：2016 年 5 月 31 日

内容：骨学実習

高野智

第 6 回：2016 年 6 月 14 日

内容：展示学概論

綿貫宏史朗

第 7 回：2016 年 6 月 28 日

内容：野外調査・行動生態学

早川卓志

第 8 回：2016 年 7 月 12 日

内容：動物園教育概論

赤見理恵

第 9 回：2016 年 9 月 13 日

内容：博物館学校連携

高野智

第 10 回：2016 年 11 月 8 日

内容：動物地理学概論

新宅勇太

第 11 回：2016 年 11 月 29 日

内容：博物館概論

新宅勇太

第 12 回：2016 年 12 月 13 日

内容：獣医学概論①

綿貫宏史朗

第 13 回：2016 年 12 月 27 日

内容：霊長類遺伝学・分子生物学

早川卓志

第 14 回：2017 年 1 月 17 日

内容：科学コミュニケーション

大淵希郷

第 15 回：2017 年 2 月 21 日

内容：獣医学概論② 繁殖生理学

綿貫宏史朗

第 16 回：2017 年 3 月 14 日

内容：アンケート調査法

赤見理恵

14. 生息地・施設研修

(1) 幸島 (京都大学野生動物研究センター幸島観察所)

第 11 班 2016 年 11 月 7 日～ 11 月 10 日 藤森唯、東峯万葉、杉本直人、



本研修では、天候に恵まれず、残念ながら幸島に渡ることができなかった。しかし、他のフィールドや施設を見る中で、ニホンザルや御崎馬から見た自然との関わり、そして人間との関わりの一部をのぞくことができた。(藤森)



幸島の海岸に生息する海浜植物を数種調べました。また幸島のサルたちを思いながら、動物に対するひとの餌付けについて観察所の書籍などをみながら様々な意見があることに気づきました。雄大な自然を久しぶりに眺めることができ、何か新しい気持ちになり帰宅しました。(杉本)



今回初めて幸島へ渡れない班として、幸島研修の歴史に残ったと思います。風が強く波が高い、天気はいいのに海を船で渡れない条件が揃うという、島を目の前に自然に左右されるフィールドワークの厳しさを目の当たりにしました。島には渡れませんでした。宮崎県内にある様々な施設を回り、動物園部にも生かせる工夫を学ぶ、よい機会となりました。(東峯)

第 12 班 2017 年 2 月 20 日～ 23 日

阪倉若菜、浅沼龍希、半田希、大淵希郷



野生のサルやウマを間近で観察するのは初めての経験で、大変感動しましたし勉強になりました。幸島のサルたちは闘争もほとんどなく穏やかに過ごしており、子ザルたちが親から離れて遊びまわっているのが印象的でした。(阪倉)



自分たちの班はあまり天候に恵まれず幸島には半日しかいられていませんでしたが、幸島の中の散策ができ、倒れていましたが巨木を見れたりタチバナなど珍しい植物も見れたり、とても貴重な体験でした。(浅沼)



幸島研修では、初めて野生のニホンザルを目にしました。食後のグルーミング、仲間と戯れる様子からは、穏やかな雰囲気包まれている印象を受けました。(半田)



幸島のサル観察が主な研修でしたが、天候の関係で都井岬の半野生馬の観察もおこないませんでした。写真は、馬の白骨。岬では、生きている馬の健康診断は行いますが、死んだ馬は自然のままに土に還すそうです。適度に人が自然に手を入れている、そんな関係性を感じ入るものがありました。(大淵)

2. 京都大学野生動物研究センター 熊本サントリアリ

第13班 2016年10月24日～10月26日 藤森唯、東峯万葉、杉本直人、大淵希郷



チンパンジーの健康診断を見学させていただき、獣医も飼育スタッフも、みんなで「寄ってたかって」検査する手法に驚いた。また安全かつ円滑に作業できるよう、そしてチンパンジーのためになるようにと、各所に散りばめられた配慮の数々大変勉強になった。(藤森)



今回の研修は、獣医の仕事やチンパンジーの健康診断の観察がメインでしたが、私の中では初めてのボノボとの出会いが印象的でした。研修での鶴殿獣医師とボノボとの信頼関係や接し方、サントリアリの在り方などと接し、今後飼育員として、また獣医師と一番近くで働く上でいかに考え動くべきか、色々な事を考えさせられる研修となりました。(東峯)



この研修では、チンパンジーの健康診断に立ち会うことができました。麻酔がかかった状態のチンパンジーをゼロ距離で観察できましたが、間近で見れば見るほど、ヒトにそっくりだと感じました。(大淵)



チンパンジーの定期健康診断の内容は、脳の検査を除けば詳しい人間ドックに値するものであり、職員一丸となって数十年も継続してきたことに何故ここまでという疑問が浮かびました。獣医の責任として実施しており、幸せに余生をすごしてもらったことが目的ときき頭が下がりました。(杉本)



熊本サンクチュアリではチンパンジーやボノボが日々幸せに過ごせるように職員の方々は努めていました。この研修を通してたくさんのチンパンジーやボノボを観察したことで、彼らのことがもっと好きになりました。(阪倉)



自分にとって初めての生息地研修だったので正直造園の自分に何ができるのだろうと不安をもちながらの研修でしたが、普段からJMCでもやっている枝打ちや植栽などが多くしっかり働くことができ、飼育の体験もできていい経験になりました。(浅沼)



KS研修では、50人以上のチンパンジー、5人のボノボたちと対面しました。ディスプレイや顔の動き、鳴き声と様々な方法で自らの感情を相手に伝えている姿に魅了されました。(半田)

3. 屋久島

第4班 2016年4月4日～4月7日

堀込亮意、高野智、早川卓志、根本慧、石田崇斗、菊田恭介



島の中心にそびえ立つ山々と、周囲の雄大な自然を肌で感じたことに感動しました。また白谷雲水峡では、林内の珍しい地床植物を見ながら白谷川の清流、重なり合った巨岩、切り立った溪谷が身近に味わえた事が魅力的でした。改めて屋久島の自然環境の豊かさを強く感じました。(堀込)



長年にわたって霊長類に関わっていながら、屋久島を訪れるのは初めてのことでした。琵琶湖よりも小さな面積の島なのに2,000メートル近い高低差があり、豊富な降水量に支えられた多様な植生が見られる自然はとても雄大でした。西部林道ではサルとシカが共存する様子をつぶさに観察することができました。低地のみならず、標高の高い屋久杉の森でもたくさんのサルに出会ったのが印象に残っています。また、カヌーに乗って安房川をさかのぼりながら森を観察し、サルの声を聞いたのも貴重な体験でした。(高野)



春のニホンザルが採食する植物の植生調査を目的として、新葉の季節である4月4-7日に屋久島の西部林道をたずねた。生息地研修を兼ね、附属動物園のスタッフらと同行した。ちょうど展葉の時期であり、柔らかいハドノキなどの新葉を採食するニホンザルの姿を観察することができた。また、降雨の多い時期であったが、新葉樹林帯などでも雨に打たれるニホンザルの姿を観察した。安房川でカヌーを漕ぎながらニホンザルを探すという試みもおこなった。安房川での経験が、リスザルの島でのカヌー導入につながっている。(早川)



川辺でのヤクニホンザルとヤクシカの観察、カヤック体験、高層湿原帯で大量のヒキガエルとの遭遇など、「1か月に35日間雨が降る」といわれるほど水に恵まれた屋久島で様々な貴重な体験をすることができました。(石田)



初めての屋久島では感動することばかりでした。雄大な自然の中でヤクニホンザルやヤクシカなどを観察することができました。トレッキングやカヌーを体験し、屋久島の素晴らしさをいろんな角度から実感できる研修でした。(根本)

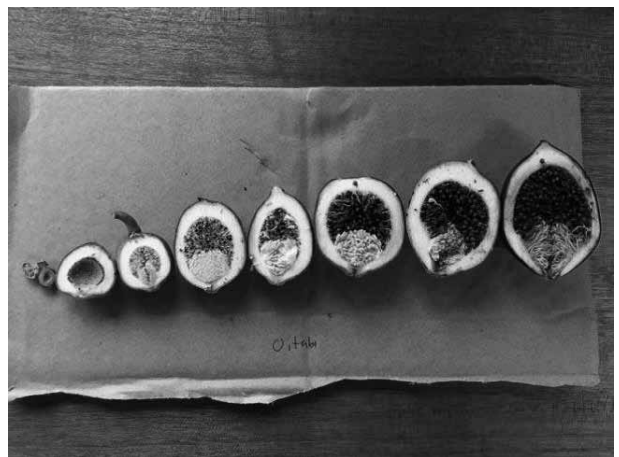


4月4日～7日までの4日間屋久島研修で印象に残ったのは、西部林道の人の手が入ってない環境で暮らすヤクニホンザルでした。担当者として野生の環境を見ることができたのはとても良い経験になりました。(菊田)

第5班 2016年5月19日～5月24日 早川卓志、奥村文彦、藤森唯



PWSリーディング大学院の屋久島実習の講師として、ヤマモモの結実期である5月19-25日に屋久島の西部林道をたずねた。附属動物園部のスタッフも実習に参加し、リーディング大学院の履修生らとの相互交流する場ともなった。実習は、霊長類研究所の湯本貴和教授、岡本宗裕教授とともに、屋久島で自生する7種のイチジク果と共生するイチジクコバチの遺伝試料を採取し、分子系統解析を通じて屋久島でのイチジクとイチジクコバチの共進化を明らかにするという実践的な内容をおこなった。(早川)



PWS実習へ参加し、イチジクとコバチの共進化を学び、実際に採取・計測しました。西部林道でのサルの糞分析では、イチジクの種子が含まれており、屋久島での昆虫とイチジク、サルとの繋がりを実体験できました。(奥村)



屋久島はそれほど大きい島ではないが、場所によって見える景色も、気候も、植生も、驚くほど違っていた。ヤクニホンザルが棲んでいる環境、そしてサルとシカや昆虫、植物とのつながりを自分の目で見ることができ、大変良い経験となった。(藤森)

第6班 2016年5月19日～5月24日

木村直人、新宅勇太、大瀨希郷、山田将也、奥村太基



研修最終日に豪雨に見舞われた。「屋久島は月のうち、三十五日は雨」。白いかたまりとなって流れ迫る絶対的な水量を白谷雲水峡で体験できた。西部林道で出会ったヤクシカのペアも強く印象に残る。島でともに暮らすサルとシカの相互関係に興味が残る。(木村)



すでに何回も屋久島は訪れているが、夏に訪ねたのは今回が初めてであった。磯散策、ウミガメの産卵の観察、豊富な水量が流れる滝など、この時期ならではの光景に出会えた。(新宅)



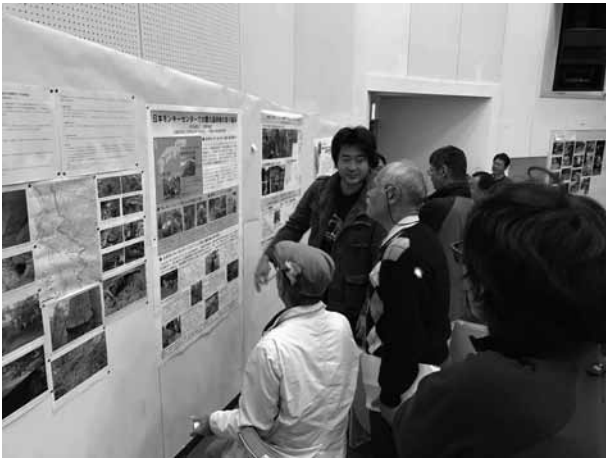
はじめて観る野生のヤクザル、ヤクシカ。シカにも人間にも車にも動かないヤクザルに、驚きを隠せませんでした。また、屋久島の雄大な自然、森林の深さや海の青さに感動するとともに、自然の仕組みを肌で感じられる研修でした。(大瀨)



実際に野生下のヤクニホンザルを観察することができ、飼育下との違いや共通点などを垣間見ることができました。屋久島特有の自然環境を体験することができ、貴重な体験になりました。(山田)



屋久島ではヤクニホンザルやヤクシカの他に、ウミガメなど多くの動物を見ることができた。写真は大川の滝。梅雨の時期だったためか水量が多く、その迫力に圧倒された。(奥村)



2014年の第1回屋久島研修から数えて7回目となる11月24-26日の研修では、これまでの研修の取り組みを紹介するポスターを、同時期に開催された屋久島学ソサエティで発表し、島民のみなさまと交流した。ヤクシマザルを半世紀にわたって飼育するモンキーセンターと屋久島の関係について再認識した。また霊長類研究所の技術職員やナショナルジオグラフィック・リサーチの川端裕人氏も同行して、モンキーセンターだけでは得られない視点を実地でもつことができた。(早川)



モンキーバレイのヤクニホンザルとの違いは、屋久島では複数頭でグルーミングしあい、交代が速く感じました。また屋久島学ソサエティでは、野生のヤクニホンザルと身近に暮らす島の方々からお話を聞くことができました。(星野)

4. 北海道羅臼

2016年6月29日～7月4日

大淵希郷、江藤彩子、鏡味芳宏



船上では10度以下にもなる寒さの中、知床の海でシャチの調査実習に参加した。船のすぐ側でシャチを観察することができ、シャチの巨大な群れ、巨体が水中を悠々と泳ぐ姿、勢いよく水上に飛び上がる迫力など、シャチという大きな野生動物に圧倒されっぱなしの実習だった。(江藤)



写真は、シャチが背面泳ぎで尾びれを打ち付けながら、近寄ってきたところ。本当に数多くのシャチを観察することができ、貴重な体験となりました。とりまとめ下さった故・山本友紀子氏(京大研究員)に感謝いたします。(大淵)



京都大学野生動物研究センターが北海道 羅臼町にておこなっているシャチの野外調査に同行させていただきました。出港後は双眼鏡を用いて海棲哺乳類の探索の補助をおこない、シャチを発見した場合は接近し、個体識別用の写真撮影と観察をおこないました。(鏡味)

5. タンザニア（ゴンベ国立公園・セルー動物保護区）

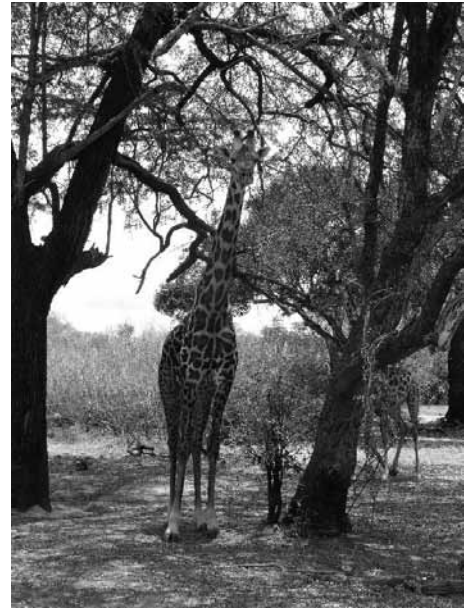
第4班 2016年9月21日～9月30日 田中ちぐさ、荒木謙太



ゴンベ国立公園ではトレッキングへいざ行かんとしているときに、宿泊施設の目の前に生っているマンゴーを食べに、チンパンジーが現れたのがとても印象的でした。先に来ていたアヌビスヒヒも距離を保ちながら遊んでおり、野生での共生・共存を垣間見えた貴重な体験となりました。（田中）



“野生”を知る、観る、感じるということの重要性を改めて感じた10日間となった。チンパンジーとアヌビスヒヒの関係性、アカコロボスとアカオザルの混群などの野生の姿を観ることができた。野生の姿を観た時の感動や経験は今後も動物飼育に携わる中での私自身の大きな財産になると強く感じた。（荒木）



セルー動物保護区では、大好きなキリンに魅了され、カバの多さに圧倒され、ゾウの雄大さに感動しました。アフリカの色やにおいは今でも記憶に残っています。（田中）

6. タイ（バンコク・ロップリー）・シンガポール

2016年11月18日～12月1日

寺尾由美子



タイの生息地研修ではロップリーという街を訪れました。街の中では野生のカニクイザルと人が当たり前のよう同じ空間で生活をしています。タイの人々は仏教の教えである徳を積む行為をするためサルに食べ物を与え、その集まったサルたちを見ることが外国人観光客に人気の観光スポットにもなっています。タイでは日本とは違う野生動物との共存の形を見ることができました。（寺尾）

(2) 保全活動

1. コンゴ民主共和国 Mbali 地域におけるボノボ保全

(1) 現地調査の実施

2016 年 5 月 21 日～6 月 13 日 大瀨希郷
2016 年 8 月 18 日～9 月 17 日 伊谷原一、岡安直比

(2) 三井物産環境基金活動助成

案件名：コンゴ民主共和国の稀少大型類人猿ボノボ
保全のための感染症モニタリングと普及啓発活動
申請代表者：木村直人
期間：2015 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日
金額：総額 13,998,000 円

現地調査：2016 年 5 月 21 日～6 月 13 日 新宅勇太
2016 年 8 月 26 日～9 月 17 日 新宅勇太
2017 年 3 月 4 日～3 月 21 日 新宅勇太

2. カメルーン ロベケ国立公園における生物多様性保全

(1) WWF カメルーンとの Project Agreement の締結

期間：2016 年 10 月～2017 年 9 月

(2) 現地調査の実施

期間：2017 年 3 月 29 日～4 月 岡安直比

3. ブータン マナス多国間保護区構想

(1) WWF ブータンとの Project Agreement の締結

期間：2017 年 2 月～2017 年 12 月

4. 国際保全事業部ウェブサイトの立ち上げ

2016 年 12 月 12 日より運用開始

5. スローロリス保全センター

(1) 南米館旧夜行性飼育室の改装と運用開始

(2) キュレーターズガイド等を通じた PR



ワイルドサマーキャンプでのロリス保全センター見学
(2016 年 7 月 26 日)

(3) 環境教育並びに社会普及活動

1. 特別展・特集展示の開催

(1) ワイルドライフアート展

会期：2016 年 3 月 20 日～4 月 11 日
場所：ビジターセンター内 企画展示室
協力：ジオアートワークス

(2) 特別展 霊長類の新常識！

会期：2016 年 3 月 19 日～11 月 8 日
場所：ビジターセンター内 特別展示室

(3) 身近な自然 ～犬山の生き物たち～

会期：2016 年 8 月 27 日～11 月 8 日
場所：ビジターセンター内 企画展示室
協力：NPO 法人 犬山里山学研究所

(4) 民俗資料展示 猿二郎館のサルグッズ

会期：2016 年 10 月 13 日～12 月 11 日
場所：ビジターセンター内 企画展示室

(5) 民俗資料展示 七福猿と三賢人

会期：2016 年 12 月 19 日～2017 年 2 月 5 日
場所：ビジターセンター内 企画展示室

(6) 民俗資料展示 「見ざる・聞かざる・言わざる」世界の三猿

会期：2017 年 2 月 11 日～開催中
場所：ビジターセンター内 企画展示室

(7) 生息地研修パネル展

会期：2017 年 2 月 11 日～開催中
場所：ビジターセンター内

(8) パネル展示 霊長類のくらす日本と世界のユネスコ・エコパーク

会期：2017 年 3 月 25 日～開催中
場所：ビジターセンター内 企画展示室・園内各所
協力：木下こづえ（京都大学霊長類研究所）

(9) 特別展 ZOO シミュレーション

～あなたが選ぶ動物園の未来～

会期：2017 年 3 月 18 日～開催中
場所：ビジターセンター内 特別展示室

2. 2016 年度京大モンキーキャンパスの開講

共催：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院

後援：愛知県、岐阜県、愛知県教育委員会、岐阜県
教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会

受講費：15,000 円（全 6 回分、日本モンキーセンター
友の会年会費 3,000 円を含む）

受講者数：101 名



京大モンキーキャンパス（7月10日）



京大モンキー日曜サロン（7月24日）

プログラム：

- 第1回 2016年6月12日
講師：松沢哲郎（（公財）日本モンキーセンター・
京都大学高等研究院）
「人間とは何か：チンパンジーの研究から」
- 第2回 2016年7月10日
講師：西田睦（琉球大学）
「生物多様性を生み出す大元としての種分化」
- 第3回 2016年8月7日
講師：伊谷原一（（公財）日本モンキーセンター・
京都大学野生動物研究センター）
「分布域東限のチンパンジー」
- 第4回 2016年9月11日
講師：中道正之（大阪大学大学院人間科学研究科）
「サルの子育てと社会ーサルの間人科学ー」
- 第5回 2016年10月9日
講師：友永雅己（（公財）日本モンキーセンター・
京都大学霊長類研究所）
「動物たちの心の世界」
- 第6回 2016年11月13日
講師：諏訪元（東京大学総合研究博物館）
「アフリカの地溝帯で化石人類をもとめて30年」

3. 京大モンキーキャンパスサークル活動の実施

京大モンキーキャンパス受講者をメンバーとして活動
募集型サークル

- ①資料サークル（担当キュレーター：高野、新宅、綿貫）
- ②行動観察サークル（担当キュレーター：赤見、早川）

自主活動型サークル

- ①エンリッチメントサークル
- ②記録サークル
- ③畑サークル
- ④視察サークル

浜松市動物園の視察 2016年11月26日
岡安直比、綿貫宏史朗

4. 京大モンキー日曜サロンの開催

主催：公益財団法人日本モンキーセンター
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院
京都大学霊長類研究所

- 第23回 2016年4月10日
講師：戸田和弥（京都大学霊長類研究所）
「ボノボのコドモたちの日々
～見て、ふれて、育つ～」
- 第24回 2016年4月24日
講師：横塚彩（京都大学大学院アジア・
アフリカ地域研究研究科）
「ボノボが住む森を使う人々に聞いてみた」
- 第25回 2016年5月15日
講師：鈴木-橋戸南美（京都大学霊長類研究所）
「味の感じ方ってみんなおなじ？
～遺伝子からわかったニホンザルの味覚～」
- 第26回 2016年6月5日
講師：柳興鎮（京都大学霊長類研究所）
「熱帯雨林でボノボの恋を見つめる：
だますか、だまされるか」
- 第27回 2016年6月26日
講師：岡本宗裕（京都大学霊長類研究所）
「ヒトの寄生虫とサルの寄生虫
～寄生虫って本当に怖いのか？」
- 第28回 2016年7月24日
講師：榊原香鈴美
（京都大学野生動物研究センター）
「水中で野生のイルカが大接近」
- 第29回 2016年8月14日
講師：田島知之（京都大学大学院理学研究科）
「デカイ顔した森の人、オランウータンの
謎おしえます」
- 第30回 2016年8月28日
講師：伊藤毅（京都大学霊長類研究所）
「サルの骨のかたち」
- 第31回 2016年9月18日
講師：田島夏子
（京都大学野生動物研究センター）
「息を合わせて1,2,3！：イルカの親子関係の変化」
- 第32回 2016年10月23日
講師：山梨裕美
（京都大学野生動物研究センター）
「ただいま進行中！スローロリス保全センター
プロジェクト：ロリスのくらしから
動物園の裏側まで」

第33回 2017年3月26日

講師：木下こづえ（京都大学霊長類研究所）
「ユネスコのエコパークを知っていますか？」
霊長類がくらす日本と世界のエコパークについて」

5. アニマルフォトコンテストの開催

(1) 第11回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト 優秀作品展の開催

期間：2015年12月5日～2016年11月29日
場所：ビジターセンター内 企画展示室

(2) 第12回モンキーセンターアニマルフォトコンテストの開催

後援：文部科学省、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、
犬山市、犬山市教育委員会、(公社)愛知県獣医師会、
(公社)岐阜県獣医師会、(公社)名古屋市獣医師会、
朝日新聞社、全日本写真連盟中部本部

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社、
サンディスク株式会社

部門：一般部門、学生部門、組み写真部門

募集期間：2016年6月1日～9月30日

応募点数：1,520点（応募者数748名）

入選点数：37点（特別賞17点、入選20点）

表彰式：2016年12月3日

場所：ビジターセンターホール

参加者：受賞者およびその家族等、44名

来賓：前川貴行（動物写真家）

日置康夫（全日本写真連盟中部本部事務局長）

(3) 第12回モンキーセンターアニマルフォトコンテスト 優秀作品展の開催

期間：2016年12月3日～開催中

場所：ビジターセンター内 企画展示室

6. 写生大会の開催

(1) 第60回中部ブロック動物園水族館協会写生コンクール参加 日本モンキーセンター写生大会 優秀作品展の開催

期間：2015年7月24日～2016年7月22日

場所：アフリカセンター内室内観覧通路

(2) 第61回日本モンキーセンター写生大会の開催

後援：文部科学省、愛知県、愛知県教育委員会、
岐阜県教育委員会、犬山市、犬山市教育委員会、
京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院

募集期間：2016年4月1日～6月5日

応募点数：241点

入選点数：45点（特別賞14点、特選10点、入選21点）

表彰式：2016年7月23日

場所：ビジターセンターホール

参加者：受賞者およびその家族、68名

(3) 第61回日本モンキーセンター写生大会

優秀作品展の開催

期間：2016年7月23日～開催中

場所：アフリカセンター内室内観覧通路

7. ホームページの充実

Webサイトの更新件数：303件

主な更新：国際保全事業部ページの設置
トップページ写真、ニュース、飼育室、
獣医室等の定期的な更新

8. メールマガジン「新JMC通信」の発行

2017年3月31日時点の登録数：4,553件

2016年4月号（2016年4月21日配信）

コラム：新生モンキーセンター満2歳 松沢哲郎

2016年5月号（2016年5月19日配信）

コラム：白山の冬と春 赤見理恵

雑誌「モンキー」復刊 臨時号（2016年5月31日配信）

2016年6月号（2016年6月16日配信）

コラム：KIDSZOOの仲間たち 友永雅己

2016年7月号（2016年7月21日配信）

コラム：突然のアフリカ出張、驚きの毎日

大淵希郷

夏休みイベント 臨時号（2016年8月10日配信）

2016年8月号（2016年8月18日配信）

コラム：思いを繋ぎ、命を繋ぐ 今井由香

2016年9月号（2016年9月22日配信）

コラム：さあ、チンパンジーを観察しよう！

廣澤麻里

60周年 臨時号（2016年10月10日配信）

2016年10月号（2016年10月20日配信）

コラム：飲水思源：創立60周年を祝して 松沢哲郎

2016年11月号（2016年11月17日配信）

コラム：私たちの暮らし、サルたちの暮らし

ーグローバルゼーションと野生動物

岡安直比

たき火にあたるサル 臨時号（2016年12月16日配信）

2016年12月号（2016年12月22日配信）

コラム：屋久島と日本モンキーセンター 早川卓志

2017年1月号（2017年1月19日配信）

コラム：アフリカで迎える新年 伊谷原一

2017年2月号（2017年2月16日配信）

コラム：ヒビ好きの飼育員 荒木謙太

2017年3月号（2017年3月16日配信）

コラム：JMCで働きはじめて 阪倉若菜

9. Facebookを通じた情報発信

投稿数：153件

10. Twitterを通じた情報発信

2016年6月より運用開始

投稿数：1,026件

11. YouTube公式チャンネルからの配信

（動画・スライドショー）

2016年度新規配信：22件

協力：中村美穂（京都大学野生動物研究センター）

12. マスメディアへの情報提供

(1) プレスリリース

「金色の赤ちゃんも誕生！「申年生まれ」のベビー

ラッシュです！！」 2016年4月26日配信

「創立 60 周年を記念して、雑誌「モンキー」が復刊
します！」 2016 年 6 月 18 日配信
「チンパンジーのマモル 2 才の誕生日をみなさまと
お祝いします！」 2016 年 7 月 18 日配信
「日本モンキーセンターは 10 月 17 日に創立 60 周年を
迎えます！」 2016 年 10 月 7 日配信
「10/17（月）に、創立 60 周年記念式典と動物慰霊祭を
執りおこないます」 2016 年 10 月 14 日配信
「世界キツネザルフェスティバル in JMC を 10/29（土）
に開催します」 2016 年 10 月 25 日配信
「サル団子”や”日光浴するサル”など冬的话题に
ほっこりするサルの姿はいかがですか？」

2016 年 12 月 3 日配信
「大型類人猿の脱出を想定した対応訓練を実施します」
2016 年 12 月 5 日配信
「冬の風物詩「たき火にあたるサル」今年も 12 月 21 日
（冬至）より開催します」

2016 年 12 月 11 日配信
「縁起物「奇跡のみかん」の摘み取り（12/27）、配布
（1/1～3）、年末年始の特別イベント（12/31～1/9）
のお知らせ」 2016 年 12 月 22 日配信
「第 64 回動物園技術者研究会開催に係る秋篠宮殿下の
お成りについて」 2017 年 2 月 10 日配信
「ワオキツネザルのしっぽにそっくり！ワオしっぽ
（携帯ストラップ）発売!!」

2017 年 2 月 17 日配信

(2) 新聞記事掲載 47 件

(3) テレビ 37 件

取材同行：NHK「ダーウィンが来た！」

日程：11 月 4 日～12 月 7 日 大瀬希郷

11 月 18 日～12 月 1 日 寺尾由美子

渡航先：11 月 4 日～11 月 28 日（タイ）

11 月 28 日～12 月 7 日（シンガポール）

(4) ラジオ 1 件

(5) 雑誌等掲載 31 件

(6) Web サイト 19 件

※確認できたもののみ

13. 学習利用

幼稚園・保育園・学校・社会教育団体等向けのレクチャー
や特別イベントの実施

(1) 団体入園者数 276 件・17,717 名

内訳：	幼稚園・保育園	66 件	7,367 名
	小学校	67 件	5,652 名
	中学校	9 件	350 名
	高等学校	20 件	823 名
	大学・専門学校	25 件	1,166 名
	特別支援・養護学校	4 件	45 名
	福祉・介護施設	31 件	705 名
	一般・その他	54 件	1,609 名

(2) 教育プログラム利用状況 総数 186 件・13,102 名

レクチャー：	168 件
スポットガイド団体利用：	143 件
KIDSZOO 団体利用：	73 件
紙芝居：	15 件
キュレーター等によるガイドツアー：	23 件
バックヤード見学：	13 件
その他、標本を活用した実習、行動観察、 ワークシート学習、特別撮影等	32 件



犬山市立東部中学校モンキーワーク（8 月 5 日）

14. 教員研修会の誘致

(1) 尾張科学教育研究会研修会

日程：2016 年 8 月 5 日

参加者：愛知県内の小中学校教員 60 名

内容：レクチャー、ガイドツアー、博学連携事例紹介、
バックヤード見学

講師：高野智

(2) 愛知県理科教育研究会 生物地学部会 生物研究委員会

日程：2016 年 8 月 21 日

参加者：25 名

内容：レクチャー、ワークシート学習、ガイドツアー、
博学連携事例紹介、バックヤード見学

講師：赤見理恵

(3) 犬山市理科授業づくり委員会

日程：2016 年 8 月 25 日

内容：レクチャー、ガイドツアー、博学連携事例紹介、
バックヤード見学

講師：高野智

15. 教育普及活動の充実につながる各種ツールの開発

(1) 学校団体向け利用の手引き

(2) ワークシートの開発

(3) オリジナルカンパジ（新作）

(4) 霊長類ガイドブックの改訂

(5) 標本等を活用した教材開発

16. アウトリーチ活動

(1) 教育活動の実践における職員の講師派遣

① 金城学院大学

日程：2016年5月12日

対象：現代子ども学科1年生 131名

内容：母子を中心とした行動観察実習の事前指導

赤見理恵

② 犬山市立城東中学校

日程：2016年6月16日

対象：1年生生徒 約200名

内容：「霊長類と植物の関係」（1年生理科「花のつくりとはたらき」の発展学習として）

赤見理恵

③ 金沢大学

日程：2016年6月24日

対象：博物館展示論受講生

内容：博物館展示論特別講義

「動物園の飼育展示係から、科学館・科学コミュニケーター、博物館・キュレーター／大学教員へと進んで」

大瀬希郷

④ 帝京科学大学

日程：2016年6月28日

対象：アニマルサイエンス学科1年生 約150名

内容：「アニマルサイエンストピックス」授業

講演「動物園の学芸員という仕事」

赤見理恵

⑤ 犬山市立犬山北小学校

日程：2016年7月6日

対象：6年生児童 3クラス75名

内容：理科授業「体のつくりとはたらき
サルの消化管の観察」

高野智

⑥ 犬山市立城東中学校

日程：2016年7月8日

対象：2年生生徒 5クラス192名

内容：理科授業「草食動物と肉食動物そしてサル」

高野智

⑦ 犬山市立楽田小学校

日程：2016年7月13日

対象：6年生児童 4クラス125名

内容：理科授業「体のつくりとはたらき
サルの消化管の観察」

高野智

⑧ 犬山市立楽田小学校

日程：2016年9月7日

対象：5年生児童 4クラス110名

内容：理科授業「人とサルの胎児の様子や
骨盤の違いの観察」

赤見理恵

⑨ 犬山市立城東小学校

日程：2016年9月14日

対象：5年生児童 5クラス149名

内容：理科授業「ひとの誕生」

赤見理恵

⑩ 犬山市立城東小学校

日程：2016年9月21日

対象：4年生児童 5クラス140名

内容：理科授業「サルの骨を見くらべて、
ちがいを調べよう」

高野智

⑨ 犬山市立犬山南小学校

日程：2016年9月28日

対象：5年生児童 82名

内容：理科授業「子宮内での胎児の様子
骨格を元にしたサルとヒトの出産の違い」

赤見理恵

⑩ 犬山市立楽田小学校

日程：2016年9月28日

対象：4年生児童 4クラス129名

内容：理科授業「ヒトとサルの骨格の違いとその特徴」

高野智

⑪ 犬山市立犬山東小学校

日程：2016年9月29日

対象：2年生児童 54名

内容：国語授業「どうぶつ園のじゅうい」の発展学習

木村直人、赤見理恵

⑫ 犬山市立東部中学校

日程：2016年10月5日

対象：2年生生徒 約120名

内容：理科授業「骨パズル ～ヒトとチンパンジーの
骨格をくらべてみよう～」

高野智

⑬ 犬山市立犬山西小学校

日程：2016年10月18日

対象：4年生児童 104名

内容：理科授業「生き物の骨格と生活様式の関係」

高野智

⑭ 多治見西高等学校附属中学校

日程：2016年10月19日

対象：2年生生徒 38名

内容：「サルについて学ぶとは」
「ヒトとチンパンジーの骨格標本からわかること」

高野智

⑮ 岐阜県立岐阜農林高等学校

日程：2016年10月24日

対象：生徒120名

内容：講演「動物園飼育員の仕事とは、動物園の役割
について、先輩から後輩へのメッセージ」

坂口真悟

⑯ 犬山市立犬山北小学校

日程：2016年10月25日

対象：2年生児童 93名

内容：国語授業「どうぶつ園のじゅうい」

木村直人、赤見理恵

⑰ 美濃加茂市立東中学校

日程：2016年10月28日

対象：全校生徒および保護者 約800名

内容：教育講演会「霊長類の進化と多様性
～サルたちが教えてくれること～」

高野智

⑱ 犬山市立城東小学校

日程：2016年11月17日

対象：2年生児童 142名

内容：国語授業「どうぶつ園のじゅうい」

木村直人、赤見理恵

⑲ 犬山市立犬山東小学校

日程：2017年2月9日

対象：1年生児童 75名

内容：国語授業「どうぶつ園の赤ちゃん」の発展学習

赤見理恵

⑳ 江南市立古知野北小学校
日程：2017 年 2 月 23 日
対象：1 年生児童 88 名
内容：国語授業「どうぶつの赤ちゃん」の発展学習
赤見理恵

㉑ 犬山市立犬山北小学校
日程：2017 年 2 月 27 日
対象：1 年生児童 94 名
内容：国語授業「どうぶつの赤ちゃん」の発展学習
赤見理恵

(2) 職員の派遣

① 京都市動物園「野生動物学のすすめ」出展
日程：2016 年 4 月 16 日～4 月 17 日
場所：京都市動物園（京都府京都市）
内容：JMC 紹介パネル展、標本等を用いたガイド、
オリジナルグッズ販売
山極壽一、伊谷原一、赤見理恵、
新宅勇太、大淵希郷

② 各務原市 平成 28 年度「ライフカレッジ蘇原」
日程：2016 年 5 月 25 日
場所：蘇原コミュニティーセンター（岐阜県各務原市）
内容：講演「サルを知る、ヒトを知る」 高野智

③ ユニー（株）「エコ博」への出展協力
日程：2016 年 6 月 4 日
場所：リーフウォーク稲沢（愛知県稲沢市）
内容：講演「サルのおはなしと動物クイズ」、
JMC 活動紹介パネル展&野生霊長類の写真展、
出張 KIDSZOO
赤見理恵、三井桃依、藤森唯

④ ユニー（株）「エコ博」への出展協力
日程：2016 年 6 月 25 日
場所：アクアウォーク大垣（岐阜県大垣市）
内容：講演「サルのおはなしと動物クイズ」、
JMC 活動紹介パネル展&野生霊長類の写真展、
出張 KIDSZOO
赤見理恵、大淵希郷、三井桃依、藤森唯

⑤ 熱田神宮 緑陰教室
日程：2016 年 7 月 25 日
場所：熱田神宮（愛知県名古屋市中区）
対象：小学 1 年生～3 年生 約 500 名
内容：講演「サルのおはなし」 赤見理恵

⑥ 帝京科学大学
日程：2016 年 8 月 9 日～8 月 10 日
場所：帝京科学大学上野原キャンパス（山梨県上野原市）
対象：学芸員課程履修学生 30 名
内容：博物館実習集中講義
「生態系と科学コミュニケーション」 大淵希郷

⑦ 愛知県理科教育研究会 生物地学部会生物研究委員会
日程：2016 年 8 月 20 日
場所：犬山国際ユースホテル（愛知県犬山市）
対象：理科教員 23 名
内容：講演「霊長類の多様性と進化」
「日本モンキーセンターの歴史と活動」
赤見理恵

⑧ 丸の内キッズジャンボリー 2016
日程：2016 年 8 月 16 日～8 月 18 日
場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）
内容：京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院と共同で
「山の教室」2016 を出展
JMC パネル展示・標本展示
新宅勇太、大淵希郷、藤森唯、安倍由里香

⑨ 東岡崎ロータリークラブ例会卓話
日程：2016 年 9 月 1 日
場所：奄美ヶ丘会館（愛知県岡崎市）
対象：ロータリークラブ会員 約 50 名
内容：講演「サルを知ることはヒトを知ること」
赤見理恵

⑩ 岳都・松本 山岳フォーラム 2016
日程：2016 年 11 月 25 日～11 月 27 日
場所：まつもと市民芸術館（長野県松本市）
内容：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・
リーディング大学院と共同でフィールドワーク
の学校」を出展、JMC パネル展示・標本展示
新宅勇太

⑪ 動物園講演会
日程：2016 年 11 月 29 日
場所：武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）
内容：講演「動物園展示を考える～レキシとキホン～」
綿貫宏史朗

⑫ サイエンスピクニック出展
日程：2017 年 2 月 4 日～2 月 5 日
場所：静岡科学館・く・る（静岡県静岡市）
内容：ブース展示「ワイルドライフサイエンス
～野生動物を知ること～」
ミニトーク「野生動物学は何の役に立つ？」
大淵希郷

(3) シンポジウム等の共催

① 中部学院大学 公開講座「比較認知発達論」
2016 年 7 月 21 日
「知の探検 さまざまなサル類の暮らしから人間を
考える」 松沢哲郎
2016 年度第 2 回：2017 年 1 月 26 日
「互いを思いやる 人間性の霊長類的起源」
松沢哲郎

(4) 地元、近隣の学校訪問（誘致・広報活動）
犬山市を中心に、出前授業等の機会も利用して誘致の
呼びかけ

(5) 社会貢献

① あいちサイエンスフェスティバル 実行委員 高野智
② 愛知県尾張北部地域生態系ネットワーク 幹事 高野智
③ 日本動物園水族館教育研究会 運営委員 赤見理恵
④ 愛知県高等学校キャリア教育推進事業地域推進会議 赤見理恵
⑤ NPO 法人市民 ZOO ネットワーク 理事 綿貫宏史朗
⑥ （公社）日本動物園水族館協会 総務委員会倫理福祉部員 木村直人

- ⑦(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
フクロテナガザル種別計画管理者および
テナガザル類専門技術員 綿貫宏史朗
- ⑧(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
クロシロエリマキキツネザル種別計画管理者および
クロキツネザル個体群管理者 鏡味芳宏
- ⑨(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会
チンパンジーおよびマンドリル専門技術員
奥村文彦

17. キュレーターによるレクチャー、ガイドツアーの実施

(1) 春季キュレーターズガイド

- 「アマゾンの新常識！」
2016年4月2日、4月17日、5月8日、5月21日
赤見理恵
- 「テナガザルの新常識！」
2016年4月9日、5月4日、5月28日、6月18日
綿貫宏史朗
- 「標本庫を探検してみよう」
2016年4月16日
高野智
- 「しっぽのヒミツを見にいこう！」
2016年4月23日、4月30日、5月14日
新宅勇太
- 「学ぼう、霊長類の新常識！」
2016年4月29日、5月1日、6月11日、6月25日
早川卓志
- 「ヘビの体を観察してみよう！」
2016年5月3日
大淵希郷
- 「人類進化の新常識！」
2016年5月5日、5月22日、5月29日、6月4日
高野智

(2) 夏季キュレーターズトーク

- 「人類発祥の地、アフリカに暮らす霊長類のはなし」
2016年7月2日
早川卓志
- 「アフリカ・コンゴの森にボノボを追う」
2016年7月3日、8月6日
新宅勇太
- 「ホネホネ探偵団 ～骨からさぐる動物のくらし」
2016年7月9日、8月11日、8月27日、9月17日、
9月22日
高野智
- 「モンキーセンターの動物展示の歴史」
2016年7月16日、7月17日、7月30日、9月10日、
9月24日
綿貫宏史朗
- 「フィールド調査のはなし」
2016年7月23日、7月31日、9月3日
大淵希郷
- 「自分も入ったオリジナル霊長類図鑑をつくろう！」
2016年8月13日、8月20日、8月21日、9月4日、
9月19日
赤見理恵

(3) 秋季キュレーターズガイド・トーク

- 「マダガスカル&南米ツアー」
2016年10月1日、11月3日、11月12日、
11月23日
赤見理恵
- 「サル毛皮にさわってみよう！」
2016年10月2日
新宅勇太
- 「もっと知りたい動物のからだ」
2016年10月8日、10月10日
大淵希郷
- 「アマゾンのジャングルを探検しよう」
2016年10月15日、10月30日
綿貫宏史朗

- 「樹の上のリスザルを観察しよう
～フィールド研究入門～」
2016年10月22日、10月29日、11月6日

早川卓志

- 「歯にかくされたサルの秘密を見てみよう」
2016年11月5日
新宅勇太
- 「標本庫を探検してみよう」
2016年11月19日、11月20日
高野智

(4) 冬季キュレーターズガイド・トーク

- 「インド洋の真珠：スリランカのサルたち」
2016年12月4日、12月17日、2017年1月1日、
1月21日
赤見理恵
- 「サル毛皮にさわってみよう！」
2016年12月10日、12月18日、2017年1月7日、
1月15日
新宅勇太
- 「骨からさぐる動物のくらし」
2016年12月11日、12月24日、2017年1月3日、
1月9日、2月5日
高野智
- 「スローロリスの、のんびりできない話」
2016年12月23日、12月31日、2017年1月2日、
1月8日
綿貫宏史朗
- 「雪国のサル、ニホンザルの暮らし」
2016年12月25日
早川卓志
- 「シナントロップ：タイ王国で生きるサルとオオトカゲ」
2017年1月14日、1月22日、2月12日、2月26日
大淵希郷
- 「あったか室内でサルを見よう！」
2017年2月11日、2月18日
赤見理恵
- 「たくさんの標本から探る動物の歴史」
2017年2月4日、2月19日
新宅勇太
- 「本物から学ぶ骨と筋肉のはたらき」
2017年2月25日
高野智

(5) 2017年度春季キュレーターズガイド・トーク (2016年度開催分)

- 「スローロリスの、のんびりできない話」
2017年3月4日、3月12日
綿貫宏史朗
- 「標本庫を探検してみよう」
2017年3月5日、3月19日、3月20日
高野智
- 「マダガスカル&南米ツアー」
2017年3月11日、3月18日
赤見理恵
- 「シナントロップ：タイ王国で生きるサルとオオトカゲ」
2017年3月25日
大淵希郷

19. 動物園イベント

(1) 常時受け付けの体験イベント

- ① ペーパークラフト「Wao キャップ」

(2) 通年イベント

- ① 飼育員と一緒におやつを作ろう
土曜・日曜・祝日に有料にて開催
不定期に誕生会など特別バージョンを開催
- ② スポットガイド 毎日数回開催
- ③ 飼育員と行動観察 不定期開催
- ④ 類人猿のディナータイム
アフリカセンターにて毎日夕方開催(～2016年5月)
- ⑤ ニシローランドゴリラ・タロウさんのお食事タイム
アフリカセンターにて毎日夕方開催(2016年6月～)

⑥ 飼育員と森の中のチンパンジーを観察しよう！

日程：2016年10月～2017年9月の第3土曜日、
全12回

内容：双眼鏡を使ったチンパンジーの観察

⑦ トウクトウギボンガイドツアー

日程：2016年8月15日～29日の平日、9月の土曜日、
10月1日～12月11日までの土・日・祝日、
2017年3月の土・日・祝日（一部不催行日あり）

内容：トウクトウギボンに乗りながらの飼育員による
テナガザルガイドツアー

(3) 冬の風物詩 たき火にあたるサル

期間：2016年12月21日～2017年2月26日の
土・日・祝

（12月21日、1月2日、1月3日は開催）

時間：11:30～14:00

ホカホカおイモタイム

時間：たき火にあたるサルの開催日 14:00～

(4) 年末年始イベント

① リレーガイド「ゆく年サル年」

園内8か所の連続ガイド

② 夜猿神社 七福猿と三賢人めぐり

七福猿（ヨザル・ヤクニホンザル・マントヒヒ・
ゴールデンマンガベイ・ハヌマンラングール・
トクモンキー・ワオキツネザル）

三賢人（フクロテナガザル・ニシローランドゴリラ・
チンパンジー）を紹介

③ サルおせち ～一頭一頭に小さな幸せ～

飼育員作成の「サルおせち」を与えてガイド

1月1日 アフリカセンター（チンパンジー）

1月2日 Waoランド

1月3日 ギボンハウス・ビッグループ

1月4日 リスザルの島

1月5日 アフリカ館

1月6日 マダガスカル館

1月7日 ヒヒの城

1月8日 アフリカセンター（ニシローランドゴリラ）

④ 二十歳のお祝い

日程：2017年1月9日

アフリカ館・南米館の20才になるサルにプレゼント
を与えながらのガイド

⑤ サルみくじ

⑥ 縁起物「奇跡のミカン」の配布

日時：2017年1月1日～1月3日

場所：ビジターセンター前

10:00より各日先着60個を配布

⑦ モンキーセンターからのお年玉♪

末尾「36」「8936」の年賀葉書持参者にプレゼント

(5) 特定日開催

① 公益財団法人化記念 無料開放日

2016年4月1日

② KIDSZOO ○×クイズ

2016年4月2日、3日、9日、
10日、30日、5月1日



世界キツネザルフェスティバル（10月29日）

③ アフリカンビアガーデン

アフリカでの生息地研修・フィールドワークの紹介
参加者との交流（アフリカ館前）

2016年8月11日～8月15日、
9月17日、9月25日

④ 世界キツネザルフェスティバル in JMC

ペットボトルキャップでワオしっぽをつくろう！

キツネザルいっぱい！マダガスカルのおはなし

（担当：赤見理恵） 2016年10月29日

⑤ 悩メエ～るヤギの名前投票会

～わたしの名前を決メエ～て～

投票期間：2016年12月21日～2017年3月24日

子ヤギのメエ～メエ～式：2017年3月25日

(6) 募集型イベント

① ワイルドサマーキャンプ（参加費 12,000 円）

日程：2016年7月26日～27日 1泊2日

参加者：小学校4年生～中学校2年生 24名

内容：レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
園内でのテント宿泊・早朝動物観察・
エンリッチメントワークショップなど

② ユニー&モンキーセンター モンキーサマースクール
（株）ユニーとの共催

日程：2016年8月8日～8月9日 1泊2日

参加者：小学校4年生～6年生 23名

内容：レクチャー・ガイドツアー・飼育体験・
エンリッチメントワークショップ・
石器作り体験など



ワイルドサマーキャンプ エンリッチメントワークショップ

(4) 図書及び学術誌の刊行

1. 英文学術雑誌「PRIMATES」の発行

PRIMATES 編集委員会 (2017 年 3 月 31 日時点)

編集長

松沢哲郎 (京都大学、日本モンキーセンター)

副編集長

James R. Anderson (京都大学)

編集委員

Augustin K. Basabose

(Centre de Recherche en Sciences Naturelles de Lwiro,
コンゴ民主共和国)

Fred Bercovitch (京都大学)

Warren Y. Brockelman (Mahidol University, タイ)

Susana Carvalho (University of Oxford, イギリス)

古市剛史 (京都大学)

半谷吾郎 (京都大学)

Alexander H. Harcourt (University of California, Davis, アメリカ)

Brian Hare (Duke University, アメリカ)

Eckhard W. Heymann (German Primate Center, ドイツ)

平田聡 (京都大学)

Michael A. Huffman (京都大学)

村山美穂 (京都大学)

石田貴文 (東京大学)

Patrícia Izar (University of São Paulo, ブラジル)

川本芳 (京都大学)

河村正二 (東京大学)

Phyllis Lee (University of Stirling, イギリス)

William C. McGrew (University of St Andrews, イギリス)

John C. Mitani (University of Michigan, アメリカ)

中川尚史 (京都大学)

中道正之 (大阪大学)

中村美知夫 (京都大学)

中村紳一朗 (滋賀医科大学)

中務真人 (京都大学)

清水慶子 (岡山理科大学)

David S. Sprague (農業・食品産業技術総合研究機構)

Karen B. Strier (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

高畑由起夫 (関西学院大学)

友永雅己 (京都大学、日本モンキーセンター)

Peter S. Ungar (University of Arkansas, アメリカ)

Linda Vigilant

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

山極壽一 (京都大学、日本モンキーセンター)

アドバイザーボード

Kim A. Bard (University of Portsmouth, イギリス)

Josep Call (University of St. Andrews, イギリス)

Júlio César Bicca-Marques

(Pontifical Catholic University of Rio Grande do Sul, ブラジル)

Mukesh K. Chalise (Tribhuvan University, ネパール)

Frans B. M. de Waal (Emory University, アメリカ)

Dorothy M. Fragaszy (University of Georgia, アメリカ)

藤田志歩 (鹿児島大学)

Gottfried Hohmann

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

William D. Hopkins

(Yerkes Regional Primate Research Center, アメリカ)

五百部裕 (椋山女学園大学)

井上英治 (東邦大学)

Charles Janson (University of Montana, アメリカ)

Andreas Koenig (Stony Brook University, アメリカ)

Amanda Korstjens (Bournemouth University, イギリス)

杵掛展之 (総合研究大学院大学)

松田一希 (京都大学、日本モンキーセンター)

松本晶子 (琉球大学)

Katharine Milton (University of California, Berkeley, アメリカ)

室山泰之 (東洋大学)

John F. Oates (City University of New York, アメリカ)

萩原直道 (慶應義塾大学)

岡本宗裕 (京都大学)

Elisabetta Palagi (University of Pisa, イタリア)

Ryne A. Palombit (Rutgers University, アメリカ)

Mary S. M. Pavelka (University of Calgary, カナダ)

Andrew J. Plumptre (Wildlife Conservation Society, アメリカ)

Martha M. Robbins

(Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology, ドイツ)

Crickette Sanz (Washington University in St. Louis, アメリカ)

Gabriele Schino

(Institute of Cognitive Sciences and Technologies, CNR, イタリア)

Robert M. Seyfarth (University of Pennsylvania, アメリカ)

下岡ゆき子 (帝京科学大学)

Pascale Sicotte (University of Calgary, カナダ)

Joan Silk (Arizona State University, アメリカ)

David Glenn Smith (University of California, Davis, アメリカ)

Charles T. Snowdon (University of Wisconsin, Madison, アメリカ)

Joseph M. Soltis (Disney's Animal Kingdom, アメリカ)

Volker Sommer (University College London, イギリス)

Craig B. Stanford (University of Southern California, アメリカ)

杉浦秀紀 (京都大学)

高井正成 (京都大学)

竹ノ下佑二 (中部学院大学)

田中伊知郎 (四日市大学)

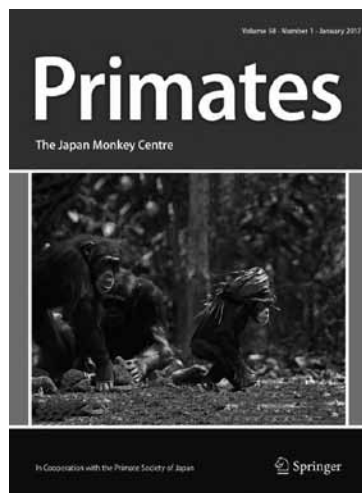
田中正之 (京都市動物園)

辻大和 (京都大学)

David Watts (Yale University, アメリカ)

山越言 (京都大学)

山本真也 (神戸大学)



Vol. 58 表紙

CONTENTS

Volume 57, Number 2, April 2016

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: From four hands to two feet: human evolution in the context of primate evolution. pp. 137-139.

News and Perspectives

Amanda W. Y. Tan, Lydia Luncz, Michael Haslam, Suchinda Malaivijitnond, Michael D. Gumert: Complex processing of prickly pear cactus (*Opuntia* sp.) by free-ranging long-tailed macaques: preliminary analysis for hierarchical organisation. pp. 141-147.

Yamato Tsuji, Bambang Prayitno, Bambang Suryobroto: Report on the observed response of Javan lutungs (*Trachypithecus auratus mauritius*) upon encountering a reticulated python (*Python reticulatus*). pp. 149-153.

Bin Yang, Peng Zhang, Kang Huang, Paul A. Garber, Bao-Guo Li: Daytime birth and postbirth behavior of wild Rhinopithecus roxellana in the Qinling Mountains of China. pp. 155-160.

José Eduardo Reynoso-Cruz, Ariadna Rangel-Negrín, Alejandro Coyohua-Fuentes, Domingo Canales-Espinosa, Pedro Américo D. Dias: Measures of food intake in mantled howling monkeys. pp. 161-166.

Timothy M. Eppley, Giuseppe Donati, Jörg U. Ganzhorn: Unusual sleeping site selection by southern bamboo lemurs. pp. 167-173.

Original Article

Michiko Fujisawa, Kimberley J. Hockings, Aly Gaspard Soumah, Tetsuro Matsuzawa: Placentophagy in wild chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) at Bossou, Guinea. pp. 175-180.

Lira Yu, Masaki Tomonaga: Unidirectional adaptation in tempo in pairs of chimpanzees during simultaneous tapping movement: an examination under face-to-face setup. pp. 181-185.

Noah Thomas Dunham, Paul Otieno Opere: A unique case of extra-group infant adoption in free-ranging Angola black and white colobus monkeys (*Colobus angolensis palliatus*). pp. 187-194.

Erin P. Riley, Tiffany W. Wade: Adapting to Florida's riverine woodlands: the population status and feeding ecology of the Silver River rhesus macaques and their interface with humans. pp. 195-210.

Trudy R. Turner, Jennifer Danzy Cramer, Alexis Nisbett, J. Patrick Gray: A comparison of adult body size between captive and wild vervet monkeys (*Chlorocebus aethiops sabaues*) on the island of St. Kitts. pp. 211-220.

M. Kamrul Hasan, M. Mostafa Feeroz, Lisa Jones-Engel, Gregory A. Engel, Sharmin Akhtar, Sree Kanthaswamy, David Glenn Smith: Performing monkeys of Bangladesh: characterizing their source and genetic variation. pp. 221-230.

Luciana Massaro, Fabrizio Massa, Kathy Simpson, Dorothy Fragaszy, Elisabetta Visalberghi: The strategic role of the tail in maintaining balance while carrying a load bipedally in wild capuchins (*Sapajus libidinosus*): a pilot study. pp. 231-239.

Marcos Gonzalez, Laura Clavijo, Julio Betancur, Pablo R. Stevenson: Fruits eaten by woolly monkeys (*Lagothrix lagothricha*) at local and regional scales. pp. 241-251.

Katharine Milton, David A. Nolin, Kelsey Ellis, Jeffrey Lozier, Brody Sandel, Eileen A. Lacey: Genetic, spatial, and social relationships among adults in a group of howler monkeys (*Alouatta palliata*) from Barro Colorado Island, Panama. pp. 253-265.

Jason D. Wark, Laura Amendolagine, Kristen E. Lukas, Christopher W. Kuhar, Patricia M. Dennis, Charles T. Snowdon, Tad Schoffner, Mandi W. Schook: Fecal glucocorticoid metabolite responses to management stressors and social change in four species of callitrichine monkeys. pp. 257-277.

Mariana Portugal Mattioli, Juliana dos Santos Batista, Marlon Ferrari, Giane Regina Paludo, Cecília Azevedo Dias, Estevam G. L. Hoppe, Gino Chaves da Rocha, Rafael Verissimo Monteiro: Clinical, hematological, biochemical, and ultrasonographic aspects of *Platynosomum* sp. (Trematoda: Dicrocoeliidae) infection of captive *Callithrix penicillata*. pp. 279-287.

Book Review

Vernon Reynolds: Michio Nakamura, Kazuhiko Hosaka, Noriko Itoh, Koichiro Zamma (eds). Mahale Chimpanzees: 50 years of research. pp. 289-290.

Volume 57, Number 3, July 2016

Including Special Features on "French-Japanese Collaborations in Primatology"

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Euthanasia is not an option: 10 years' care of a chimpanzee with acute tetraparesis. pp. 291-293.

News and Perspectives

Tetsuya Sakamaki, Ulrich Maloueki, Batuafe Bakaa, Lingomo Bongoli, Phila Kasalevo, Saeko Terada, Takeshi Furuichi: Mammals consumed by bonobos (*Pan paniscus*): new data from the Iyondji forest, Tshuapa, Democratic Republic of the Congo. pp. 298-301.

Masaki Takasu, Natsumi Morita, Shunichiro Tajima, Julio Almunia, Masami Maeda, Takashi Kamiguchi: Cryopreservation of lar gibbon semen collected by manual stimulation. pp. 303-307.

Liz A. D. Campbell, Patrick J. Tkaczynski, Mohamed Mouna, Mohamed Qarro, James Waterman, Bonaventura Majolo: Behavioral responses to injury and death in wild Barbary macaques (*Macaca sylvanus*). pp. 309-315.

Marco Antônio Ribeiro-Júnior, Stephen Francis Ferrari, Janaina Reis Ferreira Lima, Claudia Regina da Silva, Jucivaldo Dias Lima: Predation of a squirrel monkey (*Saimiri sciureus*) by an Amazon tree boa (*Corallus hortulanus*): even small boids may be a potential threat to small-bodied platyrrhines. pp. 317-322.

Erratum

Marco Antônio Ribeiro-Júnior, Stephen Francis Ferrari, Janaina Reis Ferreira Lima, Claudia Regina da Silva, Jucivaldo Dias Lima: Erratum to: Predation of a squirrel monkey (*Saimiri sciureus*) by an Amazon tree boa (*Corallus hortulanus*): even small boids may be a potential threat to small-bodied platyrrhines. pp. 323.

Editorial

James Anderson, Tetsuro Matsuzawa: Editorial to the special feature: Franco-Japanese collaboration in primatology. pp. 325-326.

Special Feature: News and Perspectives

Cédric Sueur, Marie Pelé: Social network and decision-making in primates: a report on Franco-Japanese research collaborations. pp. 327-332.

Special Feature: Review Article

Jean-Baptiste Leca, Noëlle Gunst, Amanda N. Pelletier, Paul L. Vasey, Charmalie A. D. Nahallage, Kunio Watanabe, Michael A. Huffman: A multidisciplinary view on cultural primatology: behavioral innovations and traditions in Japanese macaques. pp. 333-338.

Tatyana Humle: Franco-Japanese and other collaborative contributions to understanding chimpanzee culture at Bossou and the Nimba Mountains. pp. 339-348.

Special Feature: Original Article

Nicolas Granier: Chimpanzee research and conservation in Bossou and the Nimba Mountains: a long-term international collaborative effort in West Africa. pp. 349-357.

Vincent Leblan: Territorial and land-use rights perspectives on human-chimpanzee-elephant coexistence in West Africa (Guinea, Guinea-Bissau, Senegal, nineteenth to twenty-first centuries). pp. 359-366.

Original Article

Lucas G. Goldstone, Volker Sommer, Niina Nurmi, Colleen Stephens, Barbara Fruth: Food begging and sharing in wild bonobos (*Pan paniscus*): assessing relationship quality? pp. 367-376.

Matthew R. McLennan, Caroline Asimwe: Cars kill chimpanzees: case report of a wild chimpanzee killed on a road at Bulindi, Uganda. pp. 377-388.

Steven Mugisha, Klaus Zuberbühler, Catherine Hobaiter: First observation of Dorylus ant feeding in Budongo chimpanzees supports absence of stick-tool culture. pp. 389-394.

Stephen R. Ross, Marisa A. Shender Pages: Daily travel distances of zoo-housed chimpanzees and gorillas: implications for welfare assessments and space requirements. pp. 395-401.

Yoko Sakuraba, Masaki Tomonaga, Misato Hayashi: A new method of walking rehabilitation using cognitive tasks in an adult chimpanzee (*Pan troglodytes*) with a disability: a case study. pp. 403-412.

Ming-Xu Zhang, Hong-Yi Zheng, Jin Jiang, Wei Pang, Gao-Hong Zhang, Yong-Tang Zheng: Viral seroprevalence in northern pig-tailed macaques (*Macaca leonina*) derived from Ho Chi Minh City, Vietnam. pp. 413-419.

Ana Cecília de Menezes Galvão, Renata Gonçalves Ferreira, Maria Bernardete Cordeiro de Sousa, Nicole Leite Galvão-Coelho: Physiological and behavioral responses to routine procedures in captive common marmosets (*Callithrix jacchus*). 421-431.

Duncan A. Wilson, Masaki Tomonaga, Sarah-Jane Vick: Eye preferences in capuchin monkeys (*Sapajus apella*) . pp. 433-440.

Volume 57, Number 4, October 2016

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: Mountain day: isomorphism of mountaineering and science. pp. 441-444.

News and Perspectives

Michal Hradec, Petra Bolechová, Ivona Svobodová: Production of a female-specific great call in an immature male gibbon, the *Nomascus* genus. pp. 445-448.

Andie Ang, Amrita Srivathsan, Rudolf Meier, Tuong Bach Luu, Quyet Khac Le, Herbert Covert: No evidence for mitochondrial genetic variability in the largest population of critically endangered Tonkin snub-nosed monkeys in Vietnam. pp. 449-453.

Derek Engelbrecht: Galagos as avian nest predators in South Africa. pp. 455-458.

Original Article

Brianne A. Beisner, Krishna N. Balasubramaniam, Kristine Fernandez, Allison Heagerty, Shannon K. Seil, Edward R. Atwill, Brij K. Gupta, P. C. Tyagi, Netrapal. P. S. Chauhan, Bishan S. Bonal, Priya. R. Sinha, Brenda McCowan: Prevalence of enteric bacterial parasites with respect to anthropogenic factors among commensal rhesus macaques in Dehradun, India. pp. 459-469.

Daekee Kwon, Ok-Jae Koo, Min-Jung Kim, Goo Jang, Byeong Chun Lee: Nuclear-mitochondrial incompatibility in interorder rhesus monkey–cow embryos derived from somatic cell nuclear transfer. pp. 471-478.

Xuecong Liu, Fang Li, Jun Jiang, Xiaoju Wang, Yiming Li: Age-sex analysis for the diet of Sichuan snub-nosed monkeys (*Rhinopithecus roxellana*) in Shennongjia National Nature Reserve, China. pp. 479-487.

Xiaoyue Song, Pei Zhang, Kang Huang, Dan Chen, Songtao Guo, Xiaoguang Qi, Gang He, Ruliang Pan, Baoguo Li: The influence of positive selection and trans-species evolution on DPB diversity in the golden snub-nosed monkeys (*Rhinopithecus roxellana*). pp. 489-499.

Mewa Singh, Honnavalli N. Kumara, T. S. Kavana, Joseph J. Erinjery, Shanthala Kumar: Demography and reproductive output in langurs of the Western Ghats, India. pp. 501-508.

J. V. Vayro, L. M. Fedigan, T. E. Ziegler, A. Crotty, R. Ataman, R. Clendenning, E. Potvin-Rosselet, E. C. Wikberg, P. Sicotte: Hormonal correlates of life history characteristics in wild female *Colobus vellerosus*. pp. 509-519.

Romina Pavé, Martín M. Kowalewski, Gabriel E. Zunino, Steven R. Leigh: Sex differences in the behavior of wild *Alouatta caraya* infants. pp. 521-532.

Tiago Falótico, Agumi Inaba, William C. McGrew, Eduardo B. Ottoni: Vertical bipedal locomotion in wild bearded capuchin monkeys (*Sapajus libidinosus*). pp. 533-540.

Rachel L. Jacobs, Amanda N. Spriggs, Tammie S. MacFie, Andrea L. Baden, Mitchell T. Irwin, Patricia C. Wright, Edward E. Louis Jr., Richard R. Lawler, Nicholas I. Mundy, Brenda J. Bradley: Primate genotyping via high resolution melt analysis: rapid and reliable identification of color vision status in wild lemurs. pp. 541-547.

Announcement

The Primates 2016 Most-Cited Paper Award is conferred upon the following authors: M. F. Jaman and M. A. Huffman, G. Hanya et al., and M. LaFleur et al. pp. 549.

Acknowledgement pp. 551-553.

Books received pp. 555.

Volume 58, Number 1, January 2017

Including Special Features on “Research and Conservation of Orangutans (*Pongo* sp.) in Malaysia”

Editorial

Tetsuro Matsuzawa: The Nimba Mountains in Guinea. pp. 1-3.

Tetsuro Matsuzawa: Primates Social Impact Award 2016. pp. 5.

News and Perspectives

Nahoko Tokuyama, Deborah Lynn Moore, Kirsty Emma Graham, Albert Lokasola, Takeshi Furuichi: Cases of maternal cannibalism in wild bonobos (*Pan paniscus*) from two different field sites, Wamba and Kokolopori, Democratic Republic of the Congo. pp. 7-12.

Michio Nakamura, Tetsuya Sakamaki, Koichiro Zamma: What volume of seeds can a chimpanzee carry in its body? pp. 13-17.

Kosuke Tsugo, Tomoe Kinoshita, Ko Kadowaki, Go Sugahara, Emiko Saito, Shigehisa Kawakami, Yumi Une: Subcutaneous malignant mast cell tumor in a Japanese macaque (*Macaca fuscata*). pp. 19-23.

Fernando G. Soley, Iria S. Chacón, Mariano Soley-Guardia: Extraction of hermit crabs from their shells by white-faced capuchin monkeys (*Cebus capucinus*). pp. 25-29.

Marina B. Blanco, Andon'ny A. Andriantsalohimisantatra, Tahiry V. Rivoharison, Jean-Basile Andriambeloson: Evidence of prolonged torpor in Goodman's mouse lemurs at Ankafobe forest, central Madagascar. pp. 31-37.

Original Article

Aaron A. Sandel, Rachna B. Reddy, John C. Mitani: Adolescent male chimpanzees do not form a dominance hierarchy with their peers. pp. 39-49.

James R. Anderson, Xavier Hubert-Brierre, William C. McGrew: Reflections in the rainforest: full-length mirrors facilitate behavioral observations of unhabituated, wild chimpanzees. pp. 51-61.

Changyong Ma, Jiancun Liao, Pengfei Fan: Food selection in relation to nutritional chemistry of Cao Vit gibbons in Jingxi, China. pp. 63-74.

Penglai Fan, Chanyuan Liu, Hongyi Chen, Xuefeng Liu, Dapeng Zhao, Jinguo Zhang, Dingzhen Liu: Preliminary study on hand preference in captive northern white-cheeked gibbons (*Nomascus leucogenys*). pp. 75-82.

Lucie Rigai, Andrew J. J. MacIntosh, James P. Higham, Sandra Winters, Keiko Shimizu, Keiko Mouri, Takafumi Suzumura, Takeshi Furuichi, Cécile Garcia: Testing for links between face color and age, dominance status, parity, weight, and intestinal nematode infection in a sample of female Japanese macaques. pp. 83-91.

Fumito Kawakami, Masaki Tomonaga, Juri Suzuki: The first smile: spontaneous smiles in newborn Japanese macaques (*Macaca fuscata*). pp. 93-101.

Coline M. Arnaud, Takafumi Suzumura, Eiji Inoue, Mark J. Adams, Alexander Weiss, Miho Inoue-Murayama: Genes, social transmission, but not maternal effects influence responses of wild Japanese macaques (*Macaca fuscata*) to novel-object and novel-food tests. pp. 103-113.

Yasuyuki Muroyama: Variations in within-group inter-individual distances between birth- and non-birth seasons in wild female patas monkeys. pp. 115-119.

Lynne A. Isbell, Stephanie F. Etting: Scales drive detection, attention, and memory of snakes in wild vervet monkeys (*Chlorocebus pygerythrus*). pp. 121-129.

Thiago Silvestre, Eveline S. Zanetti, José M. B. Duarte, Fernando G. Barriento, Zelinda M. B. Hirano, Júlio C. Souza Jr., Fernando C. Passos: Ovarian cycle of southern brown howler monkey (*Alouatta guariba clamitans*) through fecal progesterone measurement. pp. 131-139.

Priscila Suscke, Michele Verderane, Robson Santos de Oliveira, Irene Delval, Marcelo Fernández-Bolaños, Patricia Izar: Predatory threat of harpy eagles for yellow-breasted capuchin monkeys in the Atlantic Forest. pp. 141-147.

Mariana B. Nagy-Reis, Eleonore Z. F. Setz: Foraging strategies of black-fronted titi monkeys (*Callicebus nigrifrons*) in relation to food availability in a seasonal tropical forest. pp. 149-158.

José Eduardo Serrano-Villavicencio, Rafaela Lumi Vendramel, Guilherme Siniciato Terra Garbino: Species, subspecies, or color morphs? Reconsidering the taxonomy of *Callicebus* Thomas, 1903 in the Purus–Madeira interfluvium. pp. 159-167.

Marco Lucarelli, Elisabetta Visalberghi, Walter Adriani, Elsa Addessi, Silvia Pierandrei, Arianna Manciocco, Francesca Zoratto, Andrea Tamellini, Augusto Vitale, Giovanni Laviola, Jessica Lynch Alfaro, Esterina Pascale: Polymorphism of the 3'-UTR of the dopamine transporter gene (*DAT*) in New World monkeys. pp. 169-178.

Leonardo de Carvalho Oliveira, Juliana Monteiro de Almeida Rocha, Paula Pedreira dos Reis, James Dietz: Preliminary findings on social and ecological correlates of a polyspecific association between a golden-headed lion tamarin (*Leontopithecus chrysomelas*) and Wied's marmosets (*Callithrix kuhlii*). pp. 179-186.

Rachel Mary Sawyer, Zo Samuel Ella Fenosoa, Aristide Andrianarimisa, Giuseppe Donati: The effect of habitat disturbance on the abundance of nocturnal lemur species on the Masoala Peninsula, northeastern Madagascar. pp. 187-197.

Erica M. Tennenhouse, Sarah Putman, Nicole P. Boisseau, Janine L. Brown: Relationships between steroid hormones in hair and social behaviour in ring-tailed lemurs (*Lemur catta*) pp. 199-209.

Special Features: Original Article

Renata S. Mendonça, Tomoko Kanamori, Noko Kuze, Misato Hayashi, Henry Bernard, Tetsuro Matsuzawa: Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley. pp. 211-224.

Tomoko Kanamori, Noko Kuze, Henry Bernard, Titol Peter Malim, Shiro Kohshima: Fluctuations of population density in Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) related to fruit availability in the Danum Valley, Sabah, Malaysia: a 10-year record including two mast fruitings and three other peak fruitings. pp. 225-235.

Review Article

William C. McGrew: Field studies of *Pan troglodytes* reviewed and comprehensively mapped, focussing on Japan's contribution to cultural primatology. pp. 237-258.

Book Review

Kimberley J. Hockings: An Introduction to Primate Conservation, edited by Serge A. Wich and Andrew J. Marshall: a review. pp. 259-260.

2. 和文誌 「モンキー 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ」の発行

モンキー編集委員会 (2017 年 3 月 31 日現在)

編集長

伊谷原一 (京都大学、日本モンキーセンター)

副編集長

友永雅己 (京都大学、日本モンキーセンター)

編集委員

赤見理恵 (日本モンキーセンター)

秋山未来 (京都大学)

今井由香 (日本モンキーセンター)

江藤彩子 (日本モンキーセンター)

大淵希郷 (京都大学、日本モンキーセンター)

木村直人 (日本モンキーセンター)

幸島司郎 (京都大学)

齋藤亜矢 (京都造形芸術大学)

左海陽子 (京都大学)

新宅勇太 (京都大学、日本モンキーセンター)

高野智 (日本モンキーセンター)

早川卓志 (京都大学、日本モンキーセンター)

林美里 (京都大学、日本モンキーセンター)

平田加奈子 (京都大学)

平田聡 (京都大学)

松沢哲郎 (京都大学、日本モンキーセンター)

松田一希 (中部大学、日本モンキーセンター)

湯本貴和 (京都大学)

綿貫宏史朗 (京都大学、日本モンキーセンター)

協力

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・

リーディング大学院

中部大学創発学術院

京都造形芸術大学文明哲学研究所

目次

1 巻 1 号 (2016 年 6 月 8 日発行)

表紙の言葉：松沢哲郎	表紙裏
巻頭言：山極壽一	1
日本モンキーセンターの改革：伊谷原一	2
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 (PWS)：動物園は社会への窓：左海陽子	4
連載「大型類人猿探訪」第 1 回	
チンパンジーに魅せられて：林美里	6
連載「サルに住む森」第 1 回	
熱帯雨林への招待：松田一希	8
連載「ウマ学ことはじめ」第 1 回	
ポルトガルの野生ウマ：平田聡	10
連載「海外生息地研修」第 1 回	
タンザニア・ゴンベ国立公園：高野智	12
連載「環境教育実践」第 1 回	
犬山 4 中学校への「出前授業」2 年間の記録：赤見理恵	14
変化を遂げる野生サル研究：ヤクニホンザル、芋焼酎、次世代シークエンサー：阿形清和	16
日本モンキーセンターのヤクニホンザル群で観察される文化的行動：山田将也	18
日本モンキーセンターだより	
モンキーセンター事務局、サルの生息地へ：安倍由里香	
緑のなかで生活するチンパンジー：廣澤麻里	
コンゴ民主共和国での野生ボノボ調査：新宅勇太	20
第 59 回・第 60 回プリマーテス研究会報告：学術部	22

表紙の言葉：松沢哲郎	表紙裏
巻頭言：尾池和夫	25
霊長類学とわたし（前編）：湯本貴和	26
チンパンジー、イルカ、そしてウマからみた世界： 友永雅己	28
ジェーン・グドールからのメッセージ：左海陽子	30
連載「大型類人猿探訪」第 2 回 野生チンパンジーのすむアフリカへ：林美里	32
連載「サルに住む森」第 2 回 いつか戻れる日を夢見て：松田一希	34
連載「ウマ学ことはじめ」第 2 回 アルガ山で調査開始：平田聡	36
連載「海外生息地研修」第 2 回 ボルネオ・ダナムバレイ森林保護区：木村直人	38
連載「環境教育実践」第 2 回 「未来の研究者」高校生の体験学習：新宅勇太	40
孤高の王者・野生のユキヒョウに会う：木下こづえ	42
地獄谷・小豆島・高崎山のニホンザル： サユリ タケシタ（川口ゆり 訳）	44
日本モンキーセンターだより 大型類人猿情報ネットワークの取り組みと モンキーセンターとの連携：綿貫宏史朗 野生から学ぶ未来の動物園：今井由香 アビシニアコロブスのちょっと変わった子育て： 奥村太基	46

表紙の言葉：山極壽一	表紙裏
巻頭言：伊谷原一	49
霊長類学とわたし（中編）：湯本貴和	50
アマゾンのフィールドミュージアム・プロジェクト： 幸島司郎	52
動物園・水族館のキュレーター（博士学芸員）育成： 左海陽子	54
連載「大型類人猿探訪」第 3 回 チンパンジーの心を読む：林美里	56
連載「サルに住む森」第 3 回 新たな挑戦：松田一希	58
連載「ウマ学ことはじめ」第 3 回 ウマに名前をつける：平田聡	60
連載「海外生息地研修」第 3 回 アマゾン研修：赤見理恵	62
連載「環境教育実践」第 3 回 大学生による「授業」霊長類学初歩実習の取り組み： 川口ゆり・瀧山拓哉	64
アマゾン川でピンクのカワイルカを追う：山本友紀子	66
困ったときの友こそ真の友？ —金華山のサルとシカー— 辻大和	68
日本モンキーセンターだより 園内のデザイン：江藤彩子 カヌーを利用した新イベントへの挑戦：堀込亮意 継鹿尾山から見たモンキーセンター：今井由香	70

表紙の言葉：伊谷原一	表紙裏
巻頭言：松沢哲郎	73
霊長類学とわたし（後編）：湯本貴和	74
連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 1 回 子ども時代の残像：山極壽一	76
連載「自然と芸術」第 1 回 円山応挙のフィールドノート：齋藤亜矢	78
連載「大型類人猿探訪」第 4 回 アジアにくらすオランウータン：林美里	80
連載「サルに住む森」第 4 回 テングザルへの道のり：松田一希	82
連載「ウマ学ことはじめ」第 4 回 中国でウマに乗る：平田聡	84
連載「海外生息地研修」第 4 回 車でめぐるタンザニア研修：寺尾由美子	86
連載「環境教育実践」第 4 回 猿の字のつくジオサイト：尾池和夫	88
霊長類の衛生学：どうやって清潔を保っている？： セシル サラビアン（峠明杜 訳）	90
キリンの子育てからみえる母親たちの社会関係： 齋藤美保	92
山の写真展と講演会：松本市との連携 3 年間の記録： 左海陽子	94

3. 平成 27 年度財団法人日本モンキーセンター年報の発行

2016 年 12 月 20 日発行

4. 第 61 回プリマーテス研究会記録集の発行

2017 年 3 月 1 日発行



モンキー Vol. 1-1 表紙

(5) 標本等の資試料の収集・管理及び展示

1. 骨格・液浸・剥製・毛皮標本

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	4	7	7	1	4	0
<i>Microcebus murinus</i>	チビネズミキツネザル	4	7	7	1	4	0
Lemuridae	キツネザル科	63	61	50	69	9	6
<i>Eulemur fulvus</i>	ブラウンキツネザル	0	0	0	2	0	0
<i>Eulemur macaco</i>	クロキツネザル	7	8	6	8	0	1
<i>Eulemur mongoz</i>	マンガースキツネザル	6	7	4	0	3	2
<i>Lemur catta</i>	ワオキツネザル	33	29	23	32	4	3
<i>Varecia variegata</i>	エリマキキツネザル	16	17	17	27	2	0
Lemuridae sp.		1	0	0	0	0	0
Galagidae	ギャラゴ科	32	40	24	23	7	4
<i>Galago senegalensis</i>	ショウギャラゴ	26	28	20	17	4	3
<i>Galago demidoff</i>	コビトギャラゴ	0	2	0	0	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオギャラゴ	5	9	4	6	3	1
Galagidae sp.		1	1	0	0	0	0
Lorisidae	ロリス科	65	76	54	35	9	4
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	7	9	6	1	3	0
<i>Nycticebus bengalensis</i>	ベンガルスローロリス	1	3	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スローロリス	41	32	13	4	3	3
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	10	23	24	28	0	0
<i>Perodicticus potto</i>	ポト	5	9	8	2	3	1
Lorisidae sp.		1	0	0	0	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	2	5	5	2	3	4
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	2	5	5	2	3	4
Cebidae	オマキザル科	852	819	675	484	58	47
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルジモンキー	15	18	13	13	2	3
<i>Callithrix argentata</i>	シルバーマーモセット	25	27	19	4	3	2
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	29	37	33	11	3	0
<i>Callithrix humeralifera</i>	サンタレムマーモセット	9	12	12	17	0	1
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	137	115	90	65	2	7
<i>Callithrix penicillata</i>	クロミミマーモセット	35	43	42	35	2	3
<i>Callithrix</i> sp.		5	0	0	0	0	0
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	81	87	80	78	7	7
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールデンライオンタマリン	17	16	9	6	7	3
<i>Saguinus bicolor</i>	フタイロタマリン	2	2	2	0	1	0
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	7	5	1	3	1	0
<i>Saguinus geoffroyi</i>	ジェフロイタマリン	11	11	10	0	1	0
<i>Saguinus imperator</i>	エンペラータマリン	5	6	5	5	2	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	35	36	31	18	3	1
<i>Saguinus leucopus</i>	シロアシタマリン	8	9	6	0	3	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	13	15	15	6	2	0
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	30	33	31	23	2	2
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	62	53	47	22	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシパンシェ	101	93	80	50	2	4
<i>Saguinus weddelli</i>	ウェッデルタマリン	11	9	9	9	2	2
<i>Saguinus</i> sp.		8	0	0	0	0	0
<i>Cebus albifrons</i>	シロガオオマキザル	8	8	9	8	1	1
<i>Cebus apella</i>	フサオマキザル	17	16	9	20	2	0
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	10	12	16	9	1	1
<i>Cebus nigrivittatus</i>	ナキガオオマキザル	1	2	1	5	0	0
<i>Cebus</i> sp.		4	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Saimiri boliviensis</i>	ボリビアリスザル	3	6	6	9	0	1
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	88	77	59	26	3	2
<i>Aotus trivirgatus</i>	ヨザル	72	71	40	42	5	7
<i>Cebidae</i> sp.		3	0	0	0	0	0
Atelidae	クモザル科	87	88	59	44	18	11
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	11	12	12	1	4	0
<i>Alouatta fusca</i>	カッシュクホエザル	1	1	1	0	2	0
<i>Alouatta seniculus</i>	アカホエザル	5	2	2	1	0	0
<i>Alouatta</i> sp.		6	1	1	0	0	0
<i>Ateles belzebuth</i>	ケナガクモザル	3	9	4	2	2	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	20	30	19	28	4	4
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	12	17	8	0	3	1
<i>Ateles</i> sp.		14	0	0	0	0	0
<i>Lagothrix lagotricha</i>	コモンウーリーモンキー	13	17	10	12	3	6
<i>Lagothrix cana</i>	ハイイロウーリーモンキー	1	1	2	0	0	0
<i>Lagothrix</i> sp.		1	0	0	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	36	34	32	16	15	0
<i>Callicebus cupreus</i>	レッドティティ	2	1	2	0	2	0
<i>Callicebus donacophilus</i>	ドナコフィルスティティ	4	4	3	0	2	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	13	13	14	8	2	0
<i>Callicebus torquatus</i>	エリマキティティ	1	1	0	0	0	0
<i>Callicebus</i> sp.		2	1	1	0	1	0
<i>Cacajao calvus rubicundus</i>	アカウアカリ	3	2	1	0	2	0
<i>Chiropotes satanas</i>	ヒゲサキ	2	0	0	0	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	マンクサキ	5	6	5	0	4	0
<i>Pithecia pithecia</i>	シロガオサキ	4	6	6	8	2	0
Cercopithecidae	オナガザル科	2789	1910	1415	774	92	140
<i>Macaca arctoides</i>	ベニガオザル	10	12	7	5	0	0
<i>Macaca assamensis</i>	アッサムモンキー	5	6	4	1	0	0
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	64	62	50	26	2	2
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	653	284	174	123	1	70
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	685	506	381	186	11	18
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクニホンザル	400	298	205	115	3	2
<i>Macaca fuscata</i>	(ニホンザル)	10	1	1	0	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	9	11	5	1	1	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	143	117	108	17	0	0
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	33	32	29	23	1	0
<i>Macaca nigra</i>	クロザル	9	7	7	0	0	0
<i>Macaca ochreata brunescens</i>	ブトンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	60	56	38	37	2	2
<i>Macaca silenus</i>	シシオザル	12	14	14	8	2	0
<i>Macaca sinica</i>	トクモンキー	8	10	8	12	0	1
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	13	16	13	9	2	2
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	3	3	3	1	0	0
<i>Macaca tonkeana</i>	トンケアンモンキー	2	0	0	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		2	1	0	0	3	0
<i>Macaca</i> sp.		94	0	0	0	0	0
<i>Cercocebus atys</i>	スーティマンガベイ	5	5	3	2	1	1
<i>Cercocebus atys lunulatus</i>	シロカンムリマンガベイ	7	9	8	5	2	1
<i>Cercocebus agilis</i>	アジルマンガベイ	2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus agilis chrysogaster</i>	ゴールデンマンガベイ	2	4	4	1	0	0
<i>Cercocebus torquatus torquatus</i>	シロエリマンガベイ	4	5	2	1	1	0
<i>Cercocebus hybrid</i>		2	1	2	0	0	0
<i>Cercocebus</i> sp.		3	0	0	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Lophocebus albigena</i>	ホオジロマンガベイ	2	2	1	0	2	0
<i>Mandrillus leucophaeus</i>	ドリル	12	12	3	5	3	1
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	16	11	9	14	1	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	55	41	32	55	1	1
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	17	15	6	0	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	5	4	5	16	0	1
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	6	6	6	0	0	0
<i>Papio sp.</i>		14	0	0	0	0	1
<i>Theropithecus gelada</i>	ゲラダヒヒ	5	5	2	2	1	0
<i>Allenopithecus nigroviridis</i>	アレンズモンキー	1	1	1	1	1	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	7	10	9	1	2	1
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	10	9	7	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius schmidt</i>	シュミットグエノン	4	3	3	0	1	0
<i>Cercopithecus cephus</i>	クチヒゲグエノン	5	6	4	0	1	0
<i>Cercopithecus diana</i>	ダイアナモンキー	2	3	2	0	1	0
<i>Cercopithecus doggetti</i>	シルバーモンキー	2	1	0	0	1	0
<i>Cercopithecus hamlyni</i>	フクロウグエノン	1	3	2	0	2	1
<i>Cercopithecus lhoesti</i>	ロエストグエノン	3	5	5	1	1	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	カンムリグエノン	2	2	1	0	0	1
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	12	13	9	10	1	1
<i>Cercopithecus neglectus</i>	ブラッサグエノン	12	15	12	3	1	2
<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	バッティコファーグエノン	10	11	7	3	1	2
<i>Cercopithecus sp.</i>		3	1	1	0	0	1
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	16	11	8	5	4	0
<i>Chlorocebus pygerythrus cynosuros</i>	マルブラウクモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポワン	13	14	12	2	4	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスモンキー	124	80	66	21	2	5
<i>Cercopithecinae sp.</i>		21	0	0	0	0	0
<i>Colobus angolensis</i>	アンゴラコロブス	15	23	22	5	3	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	10	19	18	4	2	4
<i>Colobus polykomos</i>	キングコロブス	6	1	0	0	0	1
<i>Ptilocolobus badius</i>	アカコロブス	3	3	0	0	3	1
<i>Presbytis melalophos</i>	クロカンムリリーフモンキー	0	1	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンラングール	48	52	37	17	4	11
<i>Trachypithecus cristatus</i>	シルバールトン	23	29	29	27	2	1
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	10	7	7	5	3	1
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	11	10	7	0	1	1
<i>Trachypithecus pileatus</i>	ボウシラングール	6	7	4	2	3	0
<i>Trachypithecus vetulus</i>	カオムラサキラングール	3	3	2	0	1	1
<i>Trachypithecus vetulus vetulus</i>	ニシカオムラサキラングール	1	1	0	0	1	1
<i>Presbytis sp.</i>		4	0	0	0	0	0
<i>Nasalis larvatus</i>	テングザル	6	7	6	2	5	1
<i>Pygathrix nemaeus</i>	ドゥ克蘭グール	1	0	0	0	1	0
<i>Colobinae sp.</i>		1	1	0	0	0	0
<i>Cercopithecidae sp.</i>		19	0	0	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	81	50	39	9	12	17
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	9	8	6	2	2	0
<i>Hylobates klossii</i>	クロステナガザル	2	2	0	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	41	17	14	1	4	2
<i>Hylobates moloch</i>	ワウワウテナガザル	3	4	3	2	1	0
<i>Hylobates pileatus</i>	ボウシテナガザル	4	1	0	0	1	2
<i>Hylobates (moloch + lar)</i>		1	1	1	0	0	0
<i>Hylobates sp.</i>		8	0	0	0	0	13
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	2	2	2	0	0	0

学名	和名	骨格	臓器 液浸	脳 液浸	全身 液浸	剥製	毛皮・ 仮剥製
<i>Nomascus concolor</i>	クロテナガザル	3	2	4	0	1	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	8	12	8	4	3	0
Hominidae	ヒト科	24	30	19	10	16	0
<i>Pongo pygmaeus</i>	ボルネオオランウータン	7	6	3	1	3	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	11	19	11	9	5	0
<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	ニシローランドゴリラ	6	3	3	0	6	0
<i>Gorilla beringei beringei</i>	マウンテンゴリラ	0	2	2	0	2	0
Primates 科不明	霊長目 科不明	1	0	0	0	0	0
misc. Primates		1	0	0	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	24	21	10	2	5	5
<i>Dendrogale melanura</i>	ミナミホソオツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia glis</i>	コモンツパイ	10	13	8	2	1	5
<i>Tupaia gracilis</i>	ホソツパイ	1	0	0	0	0	0
<i>Tupaia minor</i>	ショウツパイ	1	0	0	0	0	0
Tupaiaidae sp.		10	8	2	0	4	0
<i>Ptilocercus lowii</i>	ハネオツパイ	1	0	0	0	0	0
Other mammals	その他の哺乳類	217	2	0	0	0	0
Artidactyla	偶蹄目	80	0	0	0	0	0
Carnivora	食肉目	67	0	0	0	0	0
Chiroptera	翼手目	1	0	0	0	0	0
Diprodontia	双前歯目	18	0	0	0	0	0
Dermoptera	皮翼目	1	0	0	0	0	0
Lagomorpha	兔形目	4	0	0	0	0	0
Perissodactyla	奇蹄目	4	0	0	0	0	0
Pilosa	有毛目	1	0	0	0	0	0
Rodentia	齧歯目	31	2	0	0	0	0
Soricomorpha	トガリネズミ形目	10	0	0	0	0	0
Others	その他	27	0	0	2	6	0
Aves	鳥類	19	0	0	0	6	0
Reptilia	爬虫類	8	0	0	1	0	0
Actinopterygii	硬骨魚類	0	0	0	1	0	0
霊長類 計		4035	3120	2379	1467	243	229
霊長類以外 計		268	23	10	4	11	5
総計		4303	3143	2389	1471	254	234
2016 年度 収集数		19	27	26	28	0	4

2. 寄生虫標本

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
Cheirogaleidae	コビトキツネザル科	0	1	0	0
<i>Microcebus murinus</i>	チビネズミキツネザル	0	1	0	0
Galagidae	ギャラゴ科	5	3	0	1
<i>Galago senegalensis</i>	ショウギャラゴ	2	1	0	0
<i>Otolemur crassicaudatus</i>	オオギャラゴ	3	2	0	1
Lorisidae	ロリス科	9	5	1	1
<i>Loris tardigradus</i>	スレンダーロリス	3	0	0	0
<i>Nycticebus coucang</i>	スローロリス	6	4	1	1
<i>Nycticebus pygmaeus</i>	レッサースローロリス	0	1	0	0
Tarsiidae	メガネザル科	0	1	0	0
<i>Tarsius syrichta</i>	フィリピンメガネザル	0	1	0	0
Cebidae	オマキザル科	109	5	1	6
<i>Callimico goeldii</i>	ゲルジモンキー	0	1	0	0
<i>Callithrix argentata</i>	シルバーマーモセット	4	0	0	1
<i>Callithrix geoffroyi</i>	シロガオマーモセット	3	0	0	0
<i>Callithrix jacchus</i>	コモンマーモセット	45	0	0	1
<i>Cebuella pygmaea</i>	ピグミーマーモセット	2	0	0	0
<i>Leontopithecus rosalia</i>	ゴールドデンライオンタマリン	0	0	0	2
<i>Saguinus fuscicollis</i>	サドルバックタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus labiatus</i>	ムネアカタマリン	2	0	0	0
<i>Saguinus leucopus</i>	シロアシタマリン	1	0	0	0
<i>Saguinus midas</i>	アカテタマリン	2	0	0	1
<i>Saguinus mystax</i>	クチヒゲタマリン	9	0	0	0
<i>Saguinus nigricollis</i>	クロクビタマリン	20	1	1	0
<i>Saguinus oedipus</i>	ワタボウシパンシェ	4	0	0	1
<i>Cebus capucinus</i>	ノドジロオマキザル	0	1	0	0
<i>Saimiri sciureus</i>	コモンリスザル	15	2	0	0
<i>Aotus trivirgatus</i>	ヨザル	1	0	0	0
Atelidae	クモザル科	11	3	0	1
<i>Alouatta caraya</i>	クロホエザル	0	2	0	0
<i>Alouatta sp.</i>		0	1	0	0
<i>Ateles geoffroyi</i>	ジェフロイクモザル	1	0	0	0
<i>Ateles paniscus</i>	クロクモザル	8	0	0	1
<i>Lagothrix lagotricha</i>	コモンウーリーモンキー	2	0	0	0
Pitheciidae	サキ科	2	2	0	0
<i>Callicebus cupreus</i>	レッドティティ	1	0	0	0
<i>Callicebus moloch</i>	ダスキーティティ	0	2	0	0
<i>Pithecia monachus</i>	マンクサキ	1	0	0	0
Cercopithecidae	オナガザル科	243	14	11	8
<i>Macaca cyclopis</i>	タイワンザル	5	1	0	0
<i>Macaca fascicularis</i>	カニクイザル	51	1	8	3
<i>Macaca fuscata fuscata</i>	ニホンザル	76	7	0	0
<i>Macaca fuscata yakui</i>	ヤクニホンザル	33	2	0	0
<i>Macaca maura</i>	ムーアモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca mulatta</i>	アカゲザル	26	1	0	2
<i>Macaca nemestrina</i>	ブタオザル	1	0	0	1
<i>Macaca radiata</i>	ボンネットモンキー	2	0	0	0
<i>Macaca sylvanus</i>	バーバリーマカク	1	0	0	0
<i>Macaca thibetana</i>	チベットモンキー	1	0	0	0
<i>Macaca hybrid</i>		1	0	0	0
<i>Mandrillus sphinx</i>	マンドリル	1	0	0	0
<i>Papio anubis</i>	アヌビスヒヒ	1	0	0	0

宿主		寄生虫			
学名	和名	線虫	条虫	吸虫	その他
<i>Papio cynocephalus</i>	キイロヒヒ	6	1	0	0
<i>Papio hamadryas</i>	マントヒヒ	1	0	0	0
<i>Papio papio</i>	ギニアヒヒ	1	0	0	0
<i>Cercopithecus albogularis</i>	サイクスモンキー	1	0	0	0
<i>Cercopithecus ascanius</i>	アカオザル	0	1	0	0
<i>Cercopithecus mitis</i>	カンムリグエノン	1	0	0	0
<i>Cercopithecus mona</i>	モナモンキー	1	0	0	0
<i>Chlorocebus aethiops</i>	サバンナモンキー	1	0	0	0
<i>Miopithecus talapoin</i>	タラポアン	2	0	0	0
<i>Erythrocebus patas</i>	パタスザル	24	0	1	0
<i>Colobus guereza</i>	アビシニアコロブス	0	0	1	0
<i>Piliocolobus badius</i>	アカコロブス	1	0	0	0
<i>Semnopithecus entellus</i>	ハヌマンランゲール	2	0	0	2
<i>Trachypithecus francoisi</i>	フランソワルトン	0	0	1	0
<i>Trachypithecus obscurus</i>	ダスキールトン	1	0	0	0
Hylobatidae	テナガザル科	8	2	0	0
<i>Hylobates agilis</i>	アジルテナガザル	1	0	0	0
<i>Hylobates lar</i>	シロテナガザル	3	2	0	0
<i>Hoolock hoolock</i>	フーロックテナガザル	1	0	0	0
<i>Symphalangus syndactylus</i>	フクロテナガザル	3	0	0	0
Hominidae	ヒト科	15	0	0	0
<i>Pan troglodytes</i>	チンパンジー	15	0	0	0
Scandentia	ツパイ目	4	0	0	0
Tupaiaidae sp.		4	0	0	0
Others	その他	1	0	0	1
Aves	鳥類	1	0	0	1
霊長類 計		402	36	13	17
総計		407	36	13	18
2016 年度 収集数		0	0	0	0

3. 複製資料

標本番号	学名	性別・部位等
KNM-CA 380	<i>Micropithecus clarki</i>	下顎骨
KNM-SO 700	<i>Rangwapithecus gordonii</i>	上顎骨
KNM-RU 1850	<i>Dendropithecus macinnesi</i>	上下顎骨
KNM-RU 2087	<i>Proconsul nyanzae</i>	下顎骨
KNM-RU 7290	<i>Proconsul heseloni</i>	頭骨
KNM-SO 396	<i>Proconsul major</i>	下顎骨
KNM-FT 46	<i>Kenyapithecus wickeri</i>	上顎骨片と犬歯
KNM-KP 29281, 29283, 28285B, 28285A	<i>Australopithecus anamensis</i>	上下顎, 脛骨
KNM-WT 40000	<i>Kenyanthropus platyops</i>	頭骨
KNM-WT 17000	<i>Paranthropus aethiopicus</i>	頭骨
KNM-ER 406	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 729	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
KNM-CA 732	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
KNM-ER 999	<i>Homo habilis</i>	大腿骨
KNM-ER 1470	<i>Homo rudolfensis</i>	頭骨
KNM-ER 1472	<i>Homo habilis</i>	右大腿骨
KNM-CA 1802	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
KNM-ER 1813	<i>Homo habilis</i>	頭骨
KNM-ER 3733	<i>Homo ergaster</i>	頭骨
KNM-WT 15000	<i>Homo ergaster</i>	全身骨格
KNM-WT 16999	<i>Afropithecus turkanensis</i>	頭骨
OH-2	<i>Australopithecus afarensis</i>	下顎骨
OH-5	<i>Paranthropus boisei</i>	頭骨
OH-7	<i>Homo habilis</i>	下顎骨
OH-8	<i>Homo habilis</i>	足骨
OH-13	<i>Australopithecus africanus</i>	上下顎骨
OH-24	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
WN-64 (Peninj-160)	<i>Paranthropus boisei</i>	下顎骨
SK 48	<i>Paranthropus robustus</i>	頭骨
STS 5	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Taung Child	<i>Australopithecus africanus</i>	頭骨
Peking Man	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Sangiran 17	<i>Homo erectus</i>	頭骨
Kabwe Skull	<i>Homo heidelbergensis</i>	頭骨
La Ferrassie 1	<i>Homo neanderthalensis</i>	頭骨
LB-1	<i>Homo floresiensis</i>	頭骨
CGM 40237	<i>Aegyptopithecus zeuxis</i>	頭骨
PIN 3381-236	<i>Parapresbytis eohuman</i>	下顎骨
GSP 15000	<i>Sivapithecus indicus</i>	頭骨
<i>A. afarensis</i> 復元頭蓋	<i>Australopithecus afarensis</i>	頭骨
Zos 50	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
Zos 53	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
SH-10	<i>Homo sapiens</i>	男性の頭骨
JMC-Re-1	<i>Homo sapiens</i>	男性の全身骨格
JMC-Re-2	<i>Pan troglodytes</i>	オスの全身骨格
JMC-Re-3	<i>Homo sapiens</i>	アジア人男性の頭骨
JMC-Re-4	<i>Pan troglodytes</i>	オスの頭骨
JMC-Re-5	<i>Gorilla gorilla</i>	オスの頭骨
JMC-Re-6	<i>Homo sapiens</i>	女性の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-7	<i>Homo sapiens</i>	子供（5歳）の頭骨、骨盤、右上腕骨、右大腿骨
JMC-Re-8	<i>Panthera leo</i>	頭骨
JMC-Re-9	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	頭骨
JMC-Re-10	<i>Daubentonia madagascariensis</i>	右前肢

標本番号	学名	性別・部位等
JMC-Re-11	<i>Tarsius</i> sp.	頭骨
JMC-Re-12	<i>Cynocephalus volans</i>	頭骨
JMC-Re-13	<i>Castor canadensis</i>	頭骨
JMC-Re-14	<i>Phascogaleus cinereus</i>	頭骨
JMC-Re-15	<i>Homo sapiens</i>	胎児頭骨
JMC-Re-16	<i>Pan troglodytes</i>	胎児頭骨
JMC-Re-17	<i>Pan troglodytes</i>	骨盤

2016 年度収集数 0 点

4. 分野別民俗資料点数 (猿二郎コレクション)

分類番号	種別	点数
00		
050	逐次刊行物	16
070	洋書	25
090	和書	9
200		
288.9	旗	1
300		
336.94	暖簾、看板	20
337.32	銀貨	1
337.4	補助貨幣 (銅貨など)	1
348.6	紙幣	2
375.9	タバコ関係	23
380	教科書	7
383.3	風俗、習慣、民俗	24
383.55	アクセサリー、マスコット、根付	118
383.9	髪飾、小間物 (くし、こうがい、かんざし)	3
386	居住、民具	6
386.8	祭礼	2
387.1	信仰、民間信仰と迷信	199
400		
458	岩石	11
470	植物	13
470.8	菌類	7
489.9	霊長類	1
499.88	薬用植物	1
500		
524.86	出入口 (窓、戸)	3
535.2	時計	2
545.28	電灯支持具、照明	4
545.5	灯具 (行燈、提灯、ランプ)	3
573.38	タイル	5
576.4	蠟燭	1
581	金属製品	4
581.1	鋳物製品	32
581.7	刃物類 (スプーン、 フォーク、ナイフ、鉄)	6
583	木製品	13
583.92	竹製品	3
583.94	蔓製品 (藤、籐、あけび)	3
583.96	藁製品	2
583.97	縄製品	1

分類番号	種別	点数
586.27	綿製品 (たおる、てぬぐい)	14
586.37	麻製品	4
586.78	織機	1
588.38	飴菓子	5
588.39	雑菓子	5
588.55	果実酒 (容器)	8
589.211	和服	5
589.215	子供服、T シャツ	2
589.224	ネクタイ	5
589.225	ハンカチ	6
589.23	靴下、足袋	4
589.24	マフラー、ネックチーフ	2
589.253	靴、スリッパ	1
589.27	ハンドバック、袋物 (財布)	17
589.28	ボタン、タイピン、カフス	3
589.3	傘、扇、団扇	14
589.4	洋傘	1
589.49	杖、ステッキ	1
589.5	ブラシ	1
589.7	文房具、運動具、貯金箱	85
594.1	モール	4
596.5	厨房具、食器	48
597	住居、家具、調度	37
597.2	カーテン、簾、タペストリー	16
597.7	床飾、インテリア	2
599.8	絵本	3
600		
629.61	灯籠	9
674.7	宣伝広告用印刷物、新聞、PR 誌、 シール、チラシ、案内状、シオリ	117
674.71	千社札	43
674.72	ポスター	123
674.73	カレンダー	15
675.18	包装、ラベル、容器	39
688.181	マッチラベル	275
693.5	観光みやげ物	199
693.8	切手、葉書、スタンプ	220
699.67	ラジオ、テレビ、演劇、娯楽	1
700		
711.9	仮面 (郷土玩具を除く)	14
713	木彫	149
714	石彫	61

分類番号	種別	点数
717	粘土彫刻、テラコッタ、蠟、石鹼	5
718.4	石仏、仏像	5
720	絵画	7
721.2	大和絵、絵巻物	23
721.3	水墨画	10
721.6	写生画	15
721.7	文人画、南画、俳画、色紙	63
721.8	浮世絵、錦絵、大津絵	48
724.8	ガラス絵	1
726.58	絵葉書	93
726.7	児童画	1
726.8	影絵（シュリエット）	1
728.8	書跡	8
729.3	墨	3
729.5	硯	7
729.6	文鎮	8
729.7	水差し	5
733	木版画、版木	26
739.1	印章材料	10
745	陽画（写真）	33
751.3	陶磁器（皿、絵皿）	405
751.31	灰皿	19
751.32	徳利、杯	15
751.33	急須、湯呑	17
751.4	埴輪、古瓦	16
751.5	ガラス工芸	17
751.9	プラスチック	43
752	漆工芸	1
753.7	刺繍	11
753.8	染物	1
754	木工芸	92

分類番号	種別	点数
754.7	竹工芸	36
754.9	紙工芸（折り紙、せん紙、ペーパークラフト）	38
755.4	牙角細工	12
755.5	革細工	3
755.6	貝細工	6
756.14	鍍金	12
756.6	刀剣、鐔	4
756.7	甲冑	1
759	人形、玩具	308
759.9	郷土玩具、郷土人形	16
759.91	土人形、土笛、土面	493
759.92	首人形	14
759.93	土鈴、陶鈴、鈴	122
759.94	張り子	95
759.95	凧	5
759.96	張り子面、土面子	159
759.97	紙塑	5
759.98	練り物	6
759.99	木、竹、その他	159
774	歌舞伎	2
777.1	人形浄瑠璃	6
777.8	影絵芝居、ギニョール、マリオネット	30
791.5	茶器、菓子器	20
792.6	香合、香炉	14
793.5	花器	7
900		
909.3	童話	10
合計		4,723 点
2017 年度	収集数	0 点

5. 音響・映像資料

2017 年 3 月 31 日現在、42 点の映像資料、および以下の映像機器が登録されている。

ビデオデッキ		液晶プロジェクター	
SONY VHS SLV-F6	1	東芝 TLP781J	1
カラービデオカメラ		EPSON EMP1710	1
SONY CCD-G5	1	EPSON EH-TW5200	1 (PWS)
デジタルビデオカメラ		CD/DVD プレーヤー / レコーダー	
Panasonic NV-GS50	1	SONY DVP-NS53P	1
SONY DCR-PC5	1	Panasonic DVD-S39	1
SONY DCR-HC62	1	Victor SR-DVM700	1
デジタルハイビジョンビデオカメラ		CCD-001	1
Panasonic HDC-HS100	2	テレビモニター	
8mm 映写機		TOSHIBA REGZA 37C7000	1
エルモ E80	1	By D:sign d:4222GJV3	1
16mm 映写機		Panasonic VIERA TH-37TX50	1
BELL & HOWELL	1	I・O Data LCD-MF223FBR-T	1 (PWS)
スライドプロジェクター		Panasonic TH-42AS600	1 (PWS)
ファミリーキャビン	1	TV 会議システム	
Master Lux	1	Polycom HDX6000-720	1 (PWS)
オーバーヘッドプロジェクター	1		

6. 図書資料

2016 年度に受け入れた資料は、次のとおりである。

図書	10 点
定期刊行物（雑誌類等）	636 点

2017 年 3 月 31 日現在、保有する登録図書資料（製本分を含む）は、次のとおりである。

和書	5,944 点
洋書	3,738 点
計	9,682 点

逐次刊行物を受贈した機関は次のとおりである。

〈一般および研究関係等〉

Bombay Natural History Society	環境省自然環境局生物多様性センター	日本学術振興会
Elsevier	京都学園大学人間文化学会	日本自然保護協会
Montbell	京都大学	日本心理学会
Oxford Brookes University	京都大学アフリカ地域研究センター	日本人類学会
Springer	京都大学生態学研究センター	日本動物愛護協会
WWF ジャパン	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	日本動物心理学会
愛銀教育文化財団	京都大学霊長類研究所	日本ユネスコ協会連盟
愛知学院大学歯学会	公益財団法人山山会	日本霊長類学会
愛知県	國學院大学博物館学研究室	農林水産省動物検疫所
愛知県生涯学習推進センター	国立感染症研究所	ヒトと動物の関係学会
石川県白山自然保護センター	国立極地研究所	日吉大社
稲盛財団	市民 ZOO ネットワーク	文一総合出版
犬山城白帝文庫	全日本写真連盟	フィード・ワン株式会社
岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	地球規模生物多様性情報機構日本ノード	三重県林業研究所
岩波書店	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	三井物産環境基金
栄研化学株式会社	東京農業大学学術情報通信課程	美濃加茂市民ミュージアム
大阪自然環境保全協会	同志社大学博物館学芸員課程	武庫川女子大学附属中学校・高等学校
大阪大学大学院人間科学研究科	東洋大学	明治大学学芸員養成課程
科学技術振興機構	名古屋国際センター	百瀬製作所
神奈川大学日本常民文化研究所	名古屋市立大学医学部	野生生物保全論研究会
可児市ひとづくり課	成田山名古屋別院大聖寺	野生動物保護管理事務所
川村学園女子大学		山階鳥類研究所
		立教大学学校・社会教育講座

〈博物館等〉

American Museum of Natural History	神奈川県立生命の星・地球博物館	トヨタ博物館
Museu de Zoologia da Universidade de Sao Paulo	蟹江町歴史民俗資料館	豊橋市視聴覚教育センター
愛知県陶磁美術館	刈谷市美術館	豊橋市地下資源館
秋吉台科学博物館	京都大学総合博物館	豊橋市美術博物館
熱田神宮宝物館	群馬県立自然史博物館	名古屋市博物館
伊丹市昆虫館	国立科学博物館	日本博物館協会
伊丹市昆虫館友の会	国立民族学博物館	半田市立博物館
岩手県立博物館	杉本美術館	平塚市博物館
江戸東京博物館	たばこと塩の博物館	福井市自然史博物館
大阪市立自然史博物館	田原市博物館	鳳来寺山自然科学博物館
大阪歴史博物館	知多市歴史民俗博物館	北海道博物館
大府市歴史民俗資料館	千葉県立中央博物館	瑞浪市化石博物館
大町山岳博物館	東海大学博物館	ミュージアムパーク茨城県自然博物館
岡崎市美術館	藤村記念館	山口県立山口博物館
岡崎市美術博物館	徳島県立博物館	陸前高田市立博物館
帯広百年記念館	富山市科学博物館	和歌山県立自然博物館
	豊田市郷土資料館	

〈動物園・水族館等〉

NIFREL	京都市動物園	東京動物園ボランティアーズ
秋田市大森山動物園	釧路市動物園	鳥羽水族館
アクアマリンふくしま	熊本市動植物園	豊橋総合動植物公園
アクアワールド茨城県大洗水族館	高知県立のいち動物公園	長崎ペンギン水族館
旭川市旭山動物園	神戸市立王子動物園	長野市茶臼山動物園
熱川バナナワニ園熱帯動植物友の会	神戸市立須磨海浜水族園	名古屋港水族館
アドベンチャーワールド	こどもどうぶつえん	名古屋市東山動植物園・東山の森
いしかわ動物園	札幌市円山動物園	日本動物園水族館協会
魚津水族博物館	静岡市立日本平動物園	のとじま水族館
大分マリーナパレスうみたまご	しまね海洋館アクアス	浜松市動物園
大阪・海遊館	周南市徳山動物園	姫路市立動物園
岡崎市東公園動物園・岡崎市動物総合センター	新江ノ島水族館	福山市立動物園
葛西臨海水族園	仙台市八木山動物公園	碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館
鴨川シーワールド	高崎山自然動物園	宮崎市フェニックス自然動物園
鹿児島市平川動物公園	多摩動物公園	宮島水族館
岐阜県世界淡水魚園水族館	天王寺動物園	横浜市動物園友の会
アクア・トリート ぎふ	東京動物園協会	横浜市立よこはま動物園

(6) 霊長類の福祉に配慮した動物園の設置及び経営

1. 飼育動物一覧（2017年3月31日現在）

(1) サル類

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	63	32	31	0
エリマキキツネザル	<i>Varecia variegata</i>	5	2	3	0
クロキツネザル	<i>Eulemur macaco</i>	1	0	1	0
ブラウンキツネザル	<i>Eulemur fulvus</i>	2	1	1	0
レッサースローロリス	<i>Nycticebus pygmaeus</i>	20	12	8	0
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	5	3	2	0
ショウギャラゴ	<i>Galago senegalensis</i>	1	1	0	0
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	6	3	1	2
クロミミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	15	9	4	2
シロガオマーモセット	<i>Callithrix geoffroyi</i>	2	0	2	0
ビグミーマーモセット	<i>Cebuella pygmaea</i>	4	2	2	0
アカテタマリン	<i>Saguinus midas</i>	10	4	4	2
ムネアカタマリン	<i>Saguinus labiatus</i>	1	0	1	0
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	5	1	1	3
ヨザル	<i>Aotus trivirgatus</i>	11	4	6	1
ダスキーティティ	<i>Callicebus moloch</i>	1	1	0	0
シロガオサキ	<i>Pithecia pithecia</i>	1	1	0	0
クロヒゲサキ	<i>Chiropotes satanas</i>	2	1	1	0
ノドジロオマキザル	<i>Cebus capucinus</i>	5	2	2	1
シロガオオマキザル	<i>Cebus albifrons</i>	5	3	2	0
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	25	10	11	4
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	27	11	15	1
クロクモザル	<i>Ateles paniscus</i>	2	1	1	0
ケナガクモザル	<i>Ateles belzebuth</i>	8	5	3	0
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	7	1	5	1
コモンウーリーモンキー	<i>Lagothrix lagotrica</i>	5	3	2	0
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	19	9	10	0
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	31	11	20	0
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	15	6	8	1
シシオザル	<i>Macaca silenus</i>	9	3	6	0
ブタオザル	<i>Macaca nemestrina</i>	14	5	9	0
カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>	99	39	60	0
アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>	5	1	4	0
タイワンザル	<i>Macaca cyclopis</i>	5	4	1	0
チベットモンキー	<i>Macaca thibetana</i>	7	2	5	0
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	124	56	67	1
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	157	81	76	0
ゴールデンマンガベイ	<i>Cercocebus agilis chrysogaster</i>	1	1	0	0
アヌビスヒヒ	<i>Papio anubis</i>	85	32	51	2
ギニアヒヒ	<i>Papio papio</i>	1	1	0	0
マントヒヒ	<i>Papio hamadryas</i>	7	4	3	0
マンドリル	<i>Mandrillus sphinx</i>	14	7	7	0
クチヒゲグエノン	<i>Cercopithecus cephus</i>	1	0	1	0
サイクスモンキー	<i>Cercopithecus mitis albogularis</i>	1	0	1	0
ブラッサグエノン	<i>Cercopithecus neglectus</i>	2	1	1	0
シュミットグエノン	<i>Cercopithecus ascanius schmidtii</i>	5	0	5	0
バッチィコファークグエノン	<i>Cercopithecus petaurista buettikoferi</i>	1	0	1	0
マルブラウクモンキー	<i>Chlorocebus pygerythrus cynosuros</i>	1	0	1	0
サバンナモンキー	<i>Chlorocebus aethiops</i>	8	3	5	0
タラポアン	<i>Miopithecus talapoin</i>	4	2	2	0
パタスモンキー	<i>Erythrocebus patas</i>	9	5	4	0

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ハヌマンラングール	<i>Semnopithecus entellus</i>	2	1	1	0
シルバールトン	<i>Trachypithecus cristatus</i>	2	2	0	0
フランソワルトン	<i>Trachypithecus francoisi</i>	3	0	3	0
アビシニアコロブス	<i>Colobus guereza</i>	5	1	4	0
アンゴラコロブス	<i>Colobus angolensis</i>	1	1	0	0
シロテテナガザル	<i>Hylobates lar</i>	7	5	2	0
ボウシテナガザル	<i>Hylobates pileatus</i>	4	3	1	0
アジルテナガザル	<i>Hylobates agilis</i>	2	0	2	0
ミュラーテナガザル	<i>Hylobates muelleri</i>	1	0	1	0
フクロテナガザル	<i>Symphalangus syndactylus</i>	11	6	5	0
ニシゴリラ	<i>Gorilla gorilla gorilla</i>	1	1	0	0
チンパンジー	<i>Pan troglodytes</i>	8	5	3	0
計		911	411	479	21

(2) その他動物

種名	学名	合計	オス	メス	不明
ウサギ	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	5	2	3	0
ジャンガリアンハムスター	<i>Phodopus sungorus</i>	1	0	1	0
デグー	<i>Octodon degus</i>	12	6	6	0
モルモット	<i>Cavia porcellus</i>	7	0	7	0
カイロキンイロトゲマウス	<i>Acomys cahirinus</i>	10	6	4	0
イヌ	<i>Canis familiaris</i>	2	0	2	0
シバヤギ	<i>Capra hircus</i>	3	1	2	0
ケヅメリクガメ	<i>Geochelone sulcata</i>	2	2	0	0
スペンダラーヤマガメ	<i>Geoemyda spengleri</i>	2	1	1	0
パンケーキリクガメ	<i>Malacochersus tomieri</i>	1	0	1	0
ヒョウモンガメ	<i>Stigmochelys pardalis</i>	1	0	1	0
ホウシャガメ	<i>Astrochelys radiata</i>	2	2	0	0
ミツユビハコガメ	<i>Terrapene carolina triunguis</i>	1	0	1	0
ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>	2	1	1	0
オオアオジタカゲ	<i>Tiliqua gigas</i>	1	0	1	0
アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	24	0	0	24
デンキウナギ	<i>Electrophorus electricus</i>	1	0	0	1
レッドコロソマ	<i>Piaractus brachipomum</i>	1	0	0	1
ガラ・ルフア	<i>Garra rufa</i>	20	0	0	20
マダガスカルオオゴキブリ	<i>Gromphadorrhina portentosa</i>	52	29	23	0
ダイオウサソリ	<i>Pandinus imperator</i>	1	0	0	1
チリアンコモン	<i>Grammostola rosea</i>	1	0	0	1
総 計		153	50	54	49

2. プリーディングローン動物一覧（2017 年 3 月 31 日現在）

(1) 貸付動物

種名	個体数	出園日 / 出生日	現飼育施設
ボルネオオランウータン <i>Pongo pygmaeus</i>	オス 1	1988 年 2 月 9 日 (横浜市野毛山動物園で出生)	千葉市動物公園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1998 年 1 月 7 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
コモンウーリーモンキー <i>Lagothrix lagotricha</i>	オス 1	1999 年 2 月 18 日 (横浜市立よこはま動物園で出生)	横浜市立よこはま動物園
シシオザル <i>Macaca silenus</i>	メス 1	2005 年 11 月 12 日 (出園)	東武動物公園
チベットモンキー <i>Macaca thibetana</i>	オス 1	2011 年 10 月 20 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
ブラッサグエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2003 年 5 月 4 日 (広島市安佐動物公園にて出生)	神戸市立王子動物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2013 年 3 月 14 日 (出園)	静岡市立日本平動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2 メス 2	2014 年 7 月 23 日 (出園)	旭川市旭山動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 7 メス 4	2014 年 10 月 21 日 (出園)	神戸どうぶつ王国
ブラッサグエノン <i>Cercopithecus neglectus</i>	メス 1	2014 年 10 月 23 日 (神戸市立王子動物園で出生)	神戸市立王子動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 2	2014 年 11 月 16 日 (出園)	熊本市動植物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
ボリビアリスザル <i>Saimiri boliviensis</i>	メス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
フサオマキザル <i>Cebus apella</i>	メス 3	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
アビシニアコロブス <i>Colobus guereza</i>	メス 1	2014 年 11 月 27 日 (出園)	鹿児島市平川動物公園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015 年 6 月 23 日 (出園)	おびひろ動物園
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	オス 1	2015 年 6 月 23 日 (出園)	札幌市円山動物園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1	2015 年 10 月 13 日 (出園)	浜松市動物園
ワオキツネザル <i>Lemur catta</i>	オス 10	2015 年 10 月 19 日 (出園)	NIFREL
マンドリル <i>Mandrillus sphinx</i>	メス 1	2015 年 11 月 24 日 (出園)	浜松市動物園
アカタマリン <i>Saguinus midas</i>	オス 1	2016 年 3 月 29 日 (出園)	市川市動物園
ビグミーマーモセット <i>Cebuella pygmaea</i>	メス 1	2016 年 3 月 31 日 (出園)	千葉市動物公園
シロテテナガザル <i>Hylobates lar</i>	オス 1	2016 年 6 月 30 日 (出園)	伊豆シャボテン公園
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	オス 1	2016 年 6 月 30 日 (出園)	伊豆シャボテン公園
コモンマーモセット <i>Callithrix jacchus</i>	オス 1 メス 1	2016 年 9 月 10 日 (出園)	上野動物園
ヨザル <i>Aotus trivirgatus</i>	メス 1	2016 年 9 月 10 日 (出園)	上野動物園
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	メス 1	2016 年 12 月 9 日 (出園)	横浜市立よこはま動物園
エリマキキツネザル <i>Varecia variegata</i>	メス 1	2016 年 12 月 20 日 (出園)	川崎市夢見ヶ先動物公園

(2) 借受動物

種名	個体数	来園日	来園元
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス 1	1994 年 5 月 19 日	横浜市立野毛山動物園 (帰属は横浜市立よこはま動物園)
ポト <i>Perodicticus potto</i>	メス 1	2009 年 2 月 10 日	那須ワールドモンキーパーク
クロクモザル <i>Ateles paniscus</i>	メス 1	2010 年 12 月 16 日	愛媛県立とべ動物園
フランソワルトン <i>Trachypithecus francoisi</i>	オス 1	2010 年 10 月 30 日	到津の森公園 (帰属は西山動物園)
チンパンジー <i>Pan troglodytes</i>	メス 1	2013 年 6 月 6 日	豊橋市総合動植物公園

3. 動物の異動

(1) 出園

① サル類

ブリーディングローン 6 種 9 頭

内訳：伊豆シャボテン公園

大森山動物園

上野動物園

横浜市立よこはま動物園

川崎市夢見ヶ崎動物公園

無償譲渡 2 種 7 頭

内訳：鹿児島市平川動物公園

千葉市動物公園

コモンマーモセット *Callithrix jacchus*

1 頭

ヨザル *Aotus trivirgatus*

1 頭

シロテナガザル *Hylobates lar*

1 頭

ノドジロオマキザル *Cebus capucinus*

1 頭

コモンマーモセット *Callithrix jacchus*

2 頭

ヨザル *Aotus trivirgatus*

1 頭

ボウシテナガザル *Hylobates pileatus*

1 頭

エリマキキツネザル *Varecia variegata*

1 頭

ヤクニホンザル *Macaca fuscata yakui*

5 頭

アカタマリン *Saguinus midas*

2 頭

(2) 来園

① サル類

引き取り 1 種 2 頭

内訳：広島県 宮島

ニホンザル *Macaca fuscata fuscata*

2 頭

(3) 出産

種名	学名	出産	現存	死亡	流産	繁殖区分
ワオキツネザル	<i>Lemur catta</i>	9	9	0	0	自然哺育
ポト	<i>Perodicticus potto</i>	1	0	1	0	自然哺育
クロミマーモセット	<i>Callithrix penicillata</i>	2	2	0	0	自然哺育
コモンマーモセット	<i>Callithrix jacchus</i>	1	0	1	0	自然哺育
アカタマリン	<i>Saguinus midas</i>	2	2	0	0	自然哺育
ワタボウシパンシェ	<i>Saguinus oedipus</i>	2	2	0	0	自然哺育
フサオマキザル	<i>Cebus apella</i>	1	1	0	0	自然哺育
ボリビアリスザル	<i>Saimiri boliviensis</i>	3	1	2	0	自然哺育
ジェフロイクモザル	<i>Ateles geoffroyi</i>	1	1	0	0	自然哺育
バーバリーマカク	<i>Macaca sylvanus</i>	2	1	1	0	自然哺育
トクモンキー	<i>Macaca sinica</i>	1	0	1	0	自然哺育
ボンネットモンキー	<i>Macaca radiata</i>	1	1	0	0	自然哺育
シシオザル	<i>Macaca silenus</i>	1	1	0	0	自然哺育
ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>	1	1	0	0	自然哺育
ヤクニホンザル	<i>Macaca fuscata yakui</i>	18	12	6	0	自然哺育
フランソワルトン	<i>Trachypithecus francoisi</i>	1	1	0	0	自然哺育
計 17 種		52	37	15	2	

4. 長年飼育動物（2017年3月31日現在）

種 名	性別	年齢	飼育年数	摘要
ケナガクモザル <i>Ateles belzebuth</i>	メス	35	42年9ヶ月	1974/6/27入園
カニクイザル <i>Macaca fascicularis</i>	メス		35年11ヶ月	1981/4/21生
ボウシテナガザル <i>Hylobates pileatus</i>	オス		47年	1969年推定2歳で日本平へ入園 1994/5/19 モンキーセンターへ移入

5. 獣医療

(1) 動物の死亡原因（サル類・その他動物の総計）

区分	飼育動物数		死亡動物数									飼育動物に 対する%
	年度末飼育頭数	年間死亡数	呼吸器系	消化器系	泌尿生殖器系	外傷	寄生虫症	感染症	神経系	その他	計	
哺乳類	951	60	14	10	2	2	0	1	4	27	60	5.9
鳥類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
爬虫類	13	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7.1
両生類												
	964	61	14	10	2	2	0	1	4	28	61	6.0

*飼育動物に対する%＝年間死亡数÷（年度末飼育頭数＋年間死亡数）×100

(2) 年間治療件数

入退院	入院	368件	退院	347件
処置	麻酔	535件	補液、注射	1,010件
	外科手術	183件	避妊（インプラント）	69件
	歯科	113件	低周波治療	30件
	耳道洗浄	11件	輸血	4件
検査	検便	222件	検尿	25件
	X線	39件（造影2件）	血液検査	145件
	エコー	58件	眼科	22件
	菌培養	13件	骨髓生検	2件
	外注検査	43件		
その他	薬剤処方	1,803件	マイクロチップインプラント	65件
	体脂肪率測定	118件		
総医療件数		3,828件		

6. 動物の飼料

(1) 飼料の給餌量（園全体、2017年3月31日現在）

品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量	品 目	週間給餌量
外葉	192.5kg	トマト	22.4kg	リンゴ	623kg	パン	216枚
キャベツ	7玉	チンゲン菜	13.0kg	バナナ	156.1kg	卵	350個
白菜	21.0束	セロリ	1本	ミカン	65.8kg	コオロギ	700匹
人参	37.8kg	カボチャ	1玉	キウイ	50個	固形飼料	220kg
生サツマイモ	791kg	タマネギ	7個	この他に、小麦などを適宜給餌。 2016年度給餌品目数合計（購入・寄附計）：111品目			
蒸サツマイモ	192.5kg	ダイコン	7本				

(2) 飼料の年間寄附受領量

	品目数	重量(kg)		品目数	重量(kg)		品目数	重量(kg)
2016年4月	3	584	2016年8月	5	1,318	2016年12月	53	1,063
5月	2	630	9月	24	2,563	2017年1月	32	839
6月	7	1,038	10月	45	4,416	2月	40	962
7月	6	1,015	11月	33	2,237	3月	28	982

2016年度合計：17,647kg

7. 月別入場人員数

入園区分	有料		無料	合計	開園日数
	一般	団体			
2016 年 4 月	8,400	1,974	2,206	12,580	22 日間
5 月	16,366	2,682	2,598	21,646	24 日間
6 月	5,555	237	1,075	6,867	21 日間
7 月	4,277	156	1,136	5,569	23 日間
8 月	5,547	443	1,079	7,069	23 日間（16 日、17 日は開園）
9 月	4,575	1,317	1,141	7,033	24 日間（20 日、21 日は開園）
10 月	8,908	5,228	2,362	16,498	27 日間
11 月	6,360	1,703	1,361	9,424	23 日間（2 日、22 日は開園）
12 月	5,113	52	994	6,159	24 日間（21 日は開園）
2017 年 1 月	6,841	81	1,184	8,106	20 日間（3 日、4 日は開園）
2 月	3,592	234	715	4,541	12 日間
3 月	9,748	1,229	1,644	12,621	26 日間 （21 日、22 日、28 日、29 日は開園）
合計	85,282	15,336	17,495	118,113	269 日間

※休園日：祝日を除く火曜・水曜。

ただし 10 月は火曜のみ休園、1 月 24 日から 2 月 17 日の間は平日全てが休園日。

（参考）過去の年間入場者数の推移（2013 年度までの数値は遊園地日本モンキーパークとの総計）

年度	入場人員	年度	入場人員	年度	入場人員
1995 年	894,152	2002 年	798,353	2009 年	604,306
1996 年	1,035,509	2003 年	711,889	2010 年	595,391
1997 年	897,663	2004 年	776,068	2011 年	560,920
1998 年	844,804	2005 年	594,590	2012 年	562,465
1999 年	774,709	2006 年	734,906	2013 年	548,045
2000 年	830,102	2007 年	773,256	2014 年	147,523
2001 年	905,169	2008 年	725,870	2015 年	154,378

8. KIDSZOO 入場人員数

入場区分	有料	付添	団体	合計	入園者数	利用率(%)
2016 年 4 月	1,858	2,062	337	4,257	12,541	33.9
5 月	3,130	5,049	569	8,748	21,646	40.4
6 月	1,032	1,658	0	2,690	6,867	39.2
7 月	675	1,109	11	1,795	5,521	32.5
8 月	886	1,169	0	2,055	7,069	29.1
9 月	830	911	191	1,932	7,033	27.5
10 月	1,465	1,695	2,017	5,177	16,498	31.4
11 月	934	1,059	914	2,907	9,424	30.8
12 月	766	1,429	0	2,195	6,159	35.6
2017 年 1 月	895	1,595	0	2,490	8,107	30.7
2 月	546	860	6	1,412	4,541	31.1
3 月	1,502	1,747	288	3,537	12,621	28.0
合計	14,519	20,343	4,333	39,195	118,027	33.2

9. 生息地研修をふまえた展示・看板の新設

(1) 南米館ホールの改装（観葉植物の設置）



(2) トウクトウクの導入

静態展示：2016年4月28日～5月5日

展示・運用：2016年7月25日～

展示写真提供：若森参（京都大学霊長類研究所）



(3) 園内看板の作成



アジア館前看板（幸島・屋久島）

10. KIDSZOOでのふれあい展示等の開発

(1) いぬやま自然ハウスの設置

（犬山近郊の野生小動物の展示）

野外調査の実施：2016年7月20日～22日、
9月8日など。

(2) 新規ふれあい動物の導入



ガラ・ルフア（*Garra rufa*）

11. 施設改修・新規設置

① ビジターセンター裏 井戸掘削（所沢建築、有川設備）

2016年2月26日～4月7日

② KIDSZOO 横トイレ改修工事（竹中工務店）

2016年5月25日～7月8日



KIDSZOO 横トイレ改修'（6月15日撮影）

12. 京都造形芸術大学との連携

① 意見交換会の実施

日程：2016年8月4日

場所：京都造形芸術大学（京都府京都市）

赤見理恵、江藤彩子、石田崇斗、杉浦直樹

13. 土地・主な施設および設備の一覧と変動

〈土地〉 (2017 年 3 月 31 日現在)

地区名	面積 (m ²)
官林地区	173,480.04
栗栖地区	6,153.62
小野洞地区	759,061.22

〈施設・設備〉 (2017 年 3 月 31 日現在)

施設名	構 造	面積 (m ²)	建設・変動年
動物園管理事務所	鉄筋コンクリート2階造	565.5	平成15年
飼料調理倉庫	鉄骨造	64.8	平成15年
マダガスカル館	鉄筋コンクリート造	193	平成13年
マダガスカル館島	芝張り、硝子、電気柵	235	平成13年
アフリカ館	鉄骨ブロック造	446	昭和39年
ボイラー室と変電室 (旧モンキーアパート関係)	鉄骨ブロック造	49	昭和38年
ビジターセンター	鉄筋コンクリート造	860	平成元年
駐車場			平成15年
ニホンザルの丘	放養式フェンス、電気柵造	1,647	平成23年
南米館	鉄筋コンクリート2階造	480	昭和41年
リスザルの島	鉄筋コンクリート水張り造	1,507	昭和37年
ヒヒの城	放養式鉄筋コンクリート造	415	平成15年
休憩所	木造コロニアル葺造	81	平成15年
エコドーム	アイアンフレーム組SUSメッシュ張造	523	平成3年
エコドーム寝室	鉄筋コンクリート造	45	平成3年
休憩所 (エコドーム横)	鉄筋組ルーフデッキ葺造	85.8	平成3年
アジア館	鉄筋コンクリート造	375	昭和53年
アフリカセンター	鉄筋コンクリート造	2,240	昭和55年
テナガ・クモザルの島	鉄筋コンクリート石積水張造一部電柵併用	1,500	平成9年
ギボンハウス	鉄筋強度度セメント中空押出整形張 ALC葺シート防水SOS メッシュ張造2棟	164.4 ×2棟	平成6年
セミナーハウス白帝	鉄筋コンクリート平屋建造	261	昭和39年
トイレ1 (休憩所横)	ブロック積コロニアル葺造	20	昭和60年
トイレ2 (KIDSZOO横)	鉄筋コンクリートコロニアル葺造	36	昭和61年
トイレ3 (アフリカセンター)	鉄筋コンクリート造	60	昭和55年
障害者用トイレ (アフリカセンター前)	鉄筋ALC張切板葺	10.2	平成15年
動物園出改札詰め所	鉄骨造	50.4	平成15年
モンキーバレイ	放養式フェンス電気柵造	3,321.7	平成9年
診療及び資料棟	ブロック積鉄柱梁組サイディングボード張 ルーフデッキ葺造	217.74	平成9年
検疫棟	ルーフデッキ葺造	91.08	平成9年
収容棟	ルーフデッキ葺造	71.28	平成9年
標本作成棟	ルーフデッキ葺造	18.5	平成9年
屋外ケージ	鉄骨金網張り造	129.6	平成9年
炭化装置	ブロック積鉄柱梁組スレート張りスレート造	12.5	平成15年
資材倉庫	プレハブ造	17	平成9年
乾燥炉	プレハブ造	22.74	平成25年
焼却炉	プレハブ造	7.3	平成27年
ベビールーム	ブロック積鉄柱梁組サイドボード張 コロニアル葺造	16.24	平成10年
南米館用バコティン ヒーター室	上屋鉄骨組ルーフデッキ葺 サイディングボード張りスレート葺造	9.25	平成10年
Waoランド	木造 ブロック積 水張り 電柵併用	1,000	平成17年
モンキースクランブル	鉄木材複合構造 水張り 電柵併用 総延 長300m		平成18年
Waoランドmini	ステンレス檻 木造寝室 木造デッキ	35.1	平成21年
KIDSZOO	透水式路面工法 トレーラーハウス30m ² カーポート付デッキ100m ² 軽量鉄骨造休憩室15.9m ²	568	平成27年

14. 施設配置図（平成 28 年 3 月 31 日現在）



- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1 管理事務所 | 16 アフリカセンター | 31 猿塚 |
| 2 飼料倉庫 | 17 トイレ | 32 ポンプ場 |
| 3 資材倉庫 | 18 セミナーハウス白帝 | 33 ニホンザルの丘 |
| 4 ガレージ | 19 駐車場 | 34 ヒヒの城 |
| 5 ポンプ場 | 20 倉庫 | 35 駐車場 |
| 6 モニュメント | 21 倉庫 | 36 エコドーム |
| 7 動物園正門出札 | 22 ポンプ場 | 37 リスザルの島 |
| 8 ビジターセンター | 23 屋外収容棟 | 38 テナガ・クモザルの島 |
| 9 Wao ランド mini | 24 収容棟 | 39 ギボンハウス 2 |
| 10 マダガスカル館 | 25 診療棟および資料棟 | 40 ギボンハウス 1 |
| 11 アフリカ館 | 26 検疫棟 | 41 トイレ |
| 12 南米館 | 27 乾燥炉 | 42 楽猿（レストラン） |
| 13 ボイラー室 | 28 資料作成室 | 43 無料休憩所 |
| 14 アジア館 | 29 炭化装置 | 44 モンキーバー（軽食） |
| 15 Wao ランド | 30 焼却炉 | 45 KIDSZOO |
| | | 46 トイレ |

15. 施設修繕

1	山水配管修復工事（今井設備、日本モンキーパーク）	2016年4月5日	43	ビジターセンターワックスがけ（カバーオール）	8月23日
2	バックヤードエアコン・蛍光灯修理（文化電気）	4月6日	44	アジア館エアコン設置・交換（竹下電気）	8月24日
3	アフリカ館排水管路詰まり修繕（村上設備）	4月12日	45	アフリカ館檻溶接	8月28日
4	KIDSZOO ヤギ小屋改良	4月15日～16日	46	ヤギ寝室小屋改修	8月29日
5	KIDSZOO 手洗い場増設（何でも屋）	4月16日	47	ビジターセンター屋上クラック補修（竹中工務店）	8月30日
6	Wao ランド Mini 改装（所沢建築）	4月19日、20日、26日、27日	48	アフリカセンターウインチワイヤー交換	8月31日
7	バックヤードエアコン・南米間蛍光灯配線修理	4月28日	49	エコドーム寝室間通路作成（所沢建築）	8月31日
8	KIDSZOO カーポート修理（何でも屋）	5月6日	50	バックヤード隔離者エアコン修理（竹下電気）	8月31日
9	アフリカ館 FA 暖房ファンベルト交換	5月8日	51	アジア館亀甲網張り	9月1日～10月22日
10	バックヤード小型ケージ・ステンレスケージ修理（所沢建築）	5月16日（5月30日完了）	52	アフリカセンターウインチ修繕	9月3日
11	ヒビの城副室天窓設置（所沢建築）	5月19日	53	Wao ランド蛍光灯交換（文化電気）	9月6日
12	南米館通路蛍光灯・送風機部品交換（文化電気）	5月23日	54	リスザルの島観覧デッキ修理	9月12日、26日
13	リスザルの島2階建観覧デッキ修理	5月28日	55	アフリカ館檻溶接	9月12日
14	ニホンザルの丘池修理	6月2日	56	アフリカ館亀甲網補修	9月21日
15	アフリカ館溶接修理	6月3日	57	楽猿グリストラップ点検（名鉄環境造園）	9月21日
16	モンキーバレイ電柵整備・補修	6月8日	58	バックヤードチャンバーブロック交換（名鉄環境造園）	9月21日
17	イモリプール改良	6月9日、24日、27日	59	ビジターセンタートイレ雨漏り修理（竹中工務店）	9月24日
18	リスザルの島観覧デッキ修繕	6月15日	60	Wao ランド mini 観覧デッキ補修	9月26日
19	ニホンザルの丘フェンス補修	6月18日	61	スタードーム老朽化のため撤去	9月27日
20	モンキーバレイフェンス補強	6月20日	62	アフリカセンターボイラー点検（今井設備）	9月27日
21	夜猿神社賽銭箱修理	6月23日	63	アフリカセンター・南米間送風機清掃（今井設備）	9月27日
22	電気点検（中部電気保安協会）	7月5日	64	南米館ボイラー点検（若松物産）	9月28日
23	浄化槽点検	7月5日	65	アフリカ館コーキング	9月29日
24	園内道路補修（所沢建築）	7月5日	66	サル塚竹柵の新築	9月30日
25	じゃぶじゃぶ設営（所沢建築、有川設備）	7月5日、6日、13日、14日、20日	67	園内危険木伐採（何でも屋）	10月11日、13日
26	アジア館シュート補修	7月11日	68	アフリカセンターエアーハンドリングユニットファンベルト交換	10月12日
27	バックヤード収容棟・隔離舎エアコン設置（竹下電機）	7月13日	69	アフリカセンター油圧修繕・点検（イマセウエル）	10月18日、11月1日、15日
28	モンキーバレイフェンス補強	7月14日	70	アフリカセンター熱探知機点検交換（ALSOK）	10月22日
29	リスザルの島デッキ修理	7月16日	71	リスザルの島ロープ柵補修	10月26日
30	アフリカセンターウインチ・檻溶接修理	7月19日	72	南米間中型檻金網張り	10月27日
31	モンキーバレイ市水再配管（有川設備）	7月19日	73	ビジターセンター裏給水ポンプ修理（有川設備）	10月31日
32	マダガスカル館放飼場扉設置（所沢建築）	7月19日、20日	74	Wao ランド観覧デッキ修理	10月31日
33	ヒビの城市水配管漏水応急処置	7月20日	75	ビジターセンター前スロープ修繕	11月3日
34	エコドーム横配管（有川設備）	7月21日	76	アフリカ館前広場会談修繕	11月6日
35	KIDSZOO 横トイレ配管調整（竹中工務店）	7月22日、7月29日	77	アジア館シュート修理	11月8日
36	ニホンザルの丘水飲み場補修	7月24日	78	リスザルの島観覧デッキ修理	11月8日、9日、17日
37	山水ポンプ復旧作業	7月29日	79	Wao ランド来園者出入口扉修理	11月9日
38	南米館蛍光灯安定器・エアーハンドリング基盤内リレー交換（文化電気）	8月1日	80	アフリカセンター温水ボイラー点検	11月14日
39	ビジターセンター上スピーカー交換	8月12日	81	南米館前階段修繕	11月15日
40	アジア観シュート修理	8月13日	82	アフリカセンター入口前床修繕	11月15日
41	Wao ランドデッキ修理	8月14日			
42	Wao ランド mini デッキ修理	8月15日			

83	KIDSZOO スタードーム撤去	11月16日
84	ビジターセンター自動ドア点検（ナブコドア）	11月16日
85	南米館加圧タンク修理（所沢建築）	11月18日
86	南米館バコティンヒーター修理（若松物産）	11月18日
87	アジア館シュート修理	11月19日、23日
88	リスザルの島看板・ロープ修繕	11月22日
89	Wao ランド mini 観覧デッキ修理	11月23日
90	山水ポンプ修理（有川設備）	11月24日
91	アフリカセンター前トイレ天井剥落応急処置	11月24日
92	バックヤード FA 暖房点検（マルヨ建設）	11月27日、30日、12月1日
93	アジア館檻溶接	11月30日
94	ヤギ小屋補修	12月4日
95	バックヤードストーブ修理（ナフコ）	12月5日、16日
96	バックヤード焼却炉点検（DAITO）	12月7日
97	リスザルの島観覧デッキ修繕	12月8日、9日、15日
98	Wao ランド観覧デッキ修繕	12月8日
99	アフリカセンター・南米館重油タンク気密検査（今井設備）	12月14日
100	モンキーバレイ危険木伐採（何でも屋）	12月14日、15日
101	ヒヒの城～ビジターセンター裏排水管詰まり取り（有川設備）	12月16日
102	アフリカセンター前トイレ補修（所沢建築）	12月20日
103	アジア館亀甲網補修	12月22日
104	アフリカセンター屋外運動場檻整備	12月29日～2017年1月11日
105	アフリカ館檻亀甲網補修	12月31日
106	アジア館シュート溶接	2017年1月6日
107	エコドーム蛍光灯メンテナンス、溶接補強	1月11日
108	バックヤード焼却炉内補修・操作ボックス移設（DAITO）	1月13日
109	アジア館放飼場亀甲網補修	1月16日～30日
110	エコドーム寝室鉄柵補修	1月16日
111	アジア館檻溶接箇所補修	1月18日、19日
112	夜猿神社補修	1月18日
113	アジア館シュート補修	1月21日
114	アフリカセンター屋外運動場フェンス溶接	1月22日
115	アフリカ館横市水管修理	1月22日、23日
116	KIDSZOO ヤギ用扉作成	1月23日
117	KIDSZOO スーパーハウスエアコン・ブレーカー点検、道具倉庫・造園詰所ブレーカー修理（文化電気）	1月23日
118	KIDSZOO 水道配管修理	1月24日
119	ヒヒの城シュート修理	1月25日、2月8日
120	南米館バコティンヒーター点検（若松物産）	2月2日
121	アフリカセンターペンキ塗り	2月3日～10日
122	バックヤード檻溶接	2月5日
123	夜猿神社補修	2月12日、13日

124	バックヤード屋外収容棟ストーブ修理（ナフコ）	2月17日
125	アフリカ館檻溶接	2月21日
126	アジア館シュート補修	2月23日
127	モンキーバレイ土留め補修	2月23日
128	貯水槽清掃（名鉄環境造園）	2月28日
123	モンキース克蘭ブル吊り橋塗装（原塗装）	2月28日、3月1日
124	ヒヒの城シュート補修	3月2日
125	Wao ランド観覧デッキ手すり改良	3月8日
126	アフリカセンター排水管詰まり取り（有川設備）	3月10日
127	テナガ舎溶接補修	3月12日
128	モンキース克蘭ブルロープ交換（所沢建築）	3月14日
129	アフリカセンター暖房設備点検（今井設備）	3月14日
130	南米館ロリス保全センター蛍光灯タイマー設置（文化電気）	3月15日
131	アジア館亀甲網補修	3月16日
132	ビジターセンター裏給水ポンプ水漏れ修理（有川設備）	3月22日
133	ヒヒの城 FA 暖房 V ベルト交換	3月23日
134	アジア館檻溶接	3月25日
135	テナガ舎亀甲網交換	3月25日
136	アジア館シュート補修	3月31日

14. その他

(1) 動物愛護管理法関係（愛知県動物保護管理センター）

- ① 特定動物飼養・保管増減届出書（平成27年度1月～3月分）、特定動物飼養・保管変更許可申請書（1種）、特定動物飼養・保管及び動物取扱業変更届出書の提出
2016年4月
- ② 特定動物飼養・保管変更許可申請書（2種）の提出
2016年6月
- ③ 特定動物飼養・保管廃止届出書（1種）、特定動物飼養・保管変更許可申請書（1種）の提出
2016年6月
- ④ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成27年度4月～6月分）の提出
2016年7月
- ⑤ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成27年度7月～9月分）の提出
2016年10月
- ⑥ 特定動物飼養・保管変更許可申請書（3種）の提出
2016年11月
- ⑦ 特定動物飼養・保管変更許可申請書（2種）の提出
2016年12月
- ⑧ 特定動物飼養・保管増減届出書（平成27年度10月～12月分）の提出
2017年1月

(2) 外来生物法関係（環境省中部地方環境事務所）

- ① 特定外来生物飼養許可更新申請書の提出
2016年5月
- ② 特定外来生物飼養状況届出書の提出
2016年6月

(3) 感染症法関係

- ① 輸入サル飼育施設指定申請書の提出（厚生労働省健康局ならびに農林水産省）
2016年8月

(4) 化製場法関係

- ① 動物飼養・収容許可申請書（届）記載事項変更届なら
びに動物飼養・収容施設構造設備変更届の提出
（愛知県江南保健所） 2016年7月

(5) 獣医療法関係

- ① 飼育動物診療施設届出事項変更届の提出（愛知県西部
家畜保健衛生所尾張支所） 2016年6月

- ② 動物病院遺漏エックス線線量当量率測定の実施
（テクノ中部）

2016年8月・2017年2月

(6) 麻薬及び向精神薬取締法関係

- ① 麻薬管理者免許、施用者免許、研究者免許の更新申請
（愛知県江南保健所） 2016年10月
- ② 年間麻薬譲渡譲受届の提出（麻薬研究者分・麻薬施
用者分）（愛知県健康福祉部健康担当局医薬安全課
および江南保健所） 2016年11月
- ③ 麻薬管理者免許、施用者免許、研究者免許の返納届の
提出（愛知県江南保健所） 2017年1月
- ④ 年間向精神薬輸入・輸出・製造届の提出（愛知県江南
保健所） 2017年1月

(7) 銃砲刀剣類所持等取締法関係

- ① 人命救助等に従事する者届出書変更手続き（犬山警察
署生活安全課） 2017年2月
- ② 銃砲所持許可申請書ならびに譲渡承諾書の提出（犬山
警察署生活安全課） 2017年3月

(8) 家畜伝染病予防法関係

- ① 小規模所有者定期報告書の提出（愛知県西部家畜保健
衛生所） 2016年7月

(9) 附属動物園部その他

- ① 犬山市危険物安全協会定期総会
2016年4月20日 堀込亮意
- ② 刈り払い機講習会
2016年4月20日
石田崇斗、平倉柊太郎、浅沼龍希
- ③ 宮島・野生サル調査（広島県廿日市市）
2016年5月17日～5月19日
堀込亮意、根本慧、荒木謙太
- ④ 動物移動（静岡県伊東市、伊豆シャボテン公園）
2016年6月30日～7月1日 寺尾由美子

(7) 霊長類の適切な飼育・展示並びに
これに関する技術的指導及び協力

1. 韓国国立生態院（NIE）

テナガザル飼育予定施設の現状視察

日程：2017年3月22日～3月23日

伊谷原一、打越万喜子、綿貫宏史朗、石田崇斗



(8) 研究会、講演会の開催

1. 研究会の開催

(1) 第 61 回プリマーテス研究会の開催

日程：2017 年 1 月 28 日・1 月 29 日

参加者：137 名（所員含む）

会場：ビジターセンターホール（口頭発表）、
セミナーハウス白帝（ポスター発表）

発表賞

最優秀口頭発表賞：

井上漱太（京都大学野生動物研究センター）

最優秀ポスター発表賞：

石塚真太郎（京都大学霊長類研究所）

優秀口頭発表賞：

本田剛章（京都大学霊長類研究所）

糸井川壮太（京都大学霊長類研究所）

友田珠代、角田芙美（関西大倉高等学校）

優秀ポスター発表賞：

Rafaela S. C. Takeshita (Primate Research Institute,
Kyoto University)

廣澤麻里（（公財）日本モンキーセンター、京都大学野
生動物研究センター）

プリマーテス研究会特別賞：

星野智紀（（公財）日本モンキーセンター）

プログラム

2017 年 1 月 28 日（土）

10:00 開会挨拶

10:15 ～ 11:00 口頭発表①

O-1 笹が決める？：屋久島山頂部のニホンザルの標高移動
○本田剛章、半谷吾郎（京都大学霊長類研究所）

O-2 ボルネオ島ダナムバレイ保護区における果実生産量
とオランウータンの密度 — 2 回の一斉結実を含む
10 年間の季節変化—

○金森朝子¹、久世濃子²、Henry Bernard³、
Peter T. Malim⁴、幸島司朗⁵（¹ 京都大学霊長類研究所、
² 国立科学博物館人類研究部、³ マレーシア・サバ大学、
⁴ サバ野生生物局、⁵ 京都大学野生動物研究センター）

O-3 野生ボルネオ・オランウータンの出産間隔と果実生
産量の関係 ～ 11 年間の記録～

○久世濃子^{1,2}、金森朝子³、Renata Mendonça³、
薦谷匠⁴、田島知之⁴、山崎彩夏⁵、Henry Bernard⁶、
Peter T. Malim⁷（¹ 国立科学博物館人類研究部、
² 京都大学霊長類研究所、³ 京都大学霊長類研究所、
⁴ 京都大学理学研究科、⁵ 東京動物園協会、⁶ マレー
シア・サバ大学、⁷ サバ野生生物局）

11:00 ～ 11:15 休憩

11:30 ～ 12:15 口頭発表②

O-4 昼行性霊長類の夜間行動について

○奥村太基¹、星野智紀¹、山田将也¹、荒木謙太¹、
早川卓志^{1,2}、綿貫宏史朗^{1,2}、松田一希^{1,3,4}（¹（公財）
日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所、
³ 京都大学野生動物研究センター、⁴ 中部大学）

O-5 レッサースローロリスのおとこたちは共存できるのか

○山梨裕美¹、根本慧²、大島悠輝²、廣澤麻里^{1,2}、
綿貫宏史朗^{2,3}（¹ 京都大学野生動物研究センター、
²（公財）日本モンキーセンター、³ 京都大学霊長類研
究所）

O-6 ペア飼育ロリスにおける糞 DNA からの個体識別：

ガム給餌に伴う腸内細菌叢変化の解析に向けた研究

○松島慶¹、山梨裕美¹、奥村文彦²、廣澤麻里^{1,2}、
藤森唯²、寺尾由美子²、土田さやか³、牛田一成³、
早川卓志^{2,4}（¹ 京都大学野生動物研究センター、
²（公財）日本モンキーセンター、³ 京都府立大学、
⁴ 京都大学霊長類研究所）

12:00 ～ 13:30 休憩 Break

13:30 ～ 14:30 口頭発表③ Oral Session 3

O-7 霊長類音声の類似度比較：スペクトル変化の分析

○杉野強¹、平松千尋²、山下友子³、上田和夫²、
中島祥好²（¹ 九州大学大学院芸術工学府、² 九州大学大
学院芸術工学研究院、³ 芝浦工業大学工学部共通学群）

O-8 ワオキツネザルのオス由来の匂い物質に対するメス
の応答行動

○糸井川壮太¹、早川卓志^{1,2}、田中ちぐさ²、杉浦直樹²、
坂口真悟²、今井啓雄¹（¹ 京都大学霊長類研究所、
²（公財）日本モンキーセンター）

O-9 ドローンを用いた野生下ウマの群内個体配置に関す
る研究

○井上漱太¹、山本真也²、リングホーファー萌奈美²、
Renata Mendonça³、平田聡¹（¹ 京都大学野生動物
研究センター、² 神戸大学国際文化学研究所、³ 京都
大学霊長類研究所）

O-10 プータンにおける霊長類研究

○川本芳¹、大井徹²、千々岩哲³、濱田穰¹、
Purna B. Chhetri⁴、Tshewang Norbu⁴、
Pema Wangda⁴、Tshewang Dorji⁴、Kinley Rabgay⁴、
Rinchen Dorji⁴、Sherabla⁴、Kinley Tenzin⁵
（¹ 京都大学、² 石川県立大学、³ ㈱地球環境計画、
⁴ Ministry of Agriculture and Forests, Bhutan,
⁵ Royal Society for Protection of Nature, Bhutan）

14:30 ～ 14:45 休憩

14:45 ~ 16:00 口頭発表④

- O-11 霊長類多種を対象とした食物分配実験
○山本真也¹、前原美紀²、大木圭佑³、篠原重佐美⁴、張晨¹、倉知美沙⁵、黒澤圭貴⁶、瀧山拓哉³、川口ゆり⁷、峠明杜⁷、櫻庭陽子⁷、寺田佐恵子⁸、上野将敬⁹、早川卓志^{7,10}、綿貫宏史朗^{7,10}（¹ 神戸大学国際文化化学研究科、² 神戸大学国際文化学部、³ 京都大学理学部、⁴ 京都大学教育学研究科、⁵ 岐阜大学応用生物科学部、⁶ エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株)、⁷ 京都大学霊長類研究所、⁸ 環境省自然環境局野生生物課、⁹ 大阪大学人間環境学研究科、¹⁰ (公財) 日本モンキーセンター)

- O-12 飼育下におけるテナガザル異種ペア作り
○石田崇斗¹、山田将也¹、菊田恭介¹、綿貫宏史朗^{1,2}、打越万喜子^{1,2}、岡部直樹^{1,3}、木村直人¹、伊谷原一^{1,3}（¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所、³ 京都大学野生動物研究センター)

- O-13 同所的に生息する野生グエノン 3 種における全遺伝子配列の比較解析
○早川卓志^{1,2}、田代靖子、橋本千絵¹、五百部裕³、今井啓雄¹（¹ 京都大学霊長類研究所、² (公財) 日本モンキーセンター、³ 嵯山女学園大学)

- O-14 Toque macaque exome sequencing study
Nilmini Hettiarachchi¹、中岡博史²、井ノ上逸朗²、池尾一穂³、長田直樹⁴、早川卓志^{5,6}、○斎藤成也¹（¹ 国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門、² 国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門、³ 国立遺伝学研究所遺伝情報分析研究室、⁴ 北海道大学大学院情報科学研究科生命人間情報科学専攻、⁵ (公財) 日本モンキーセンター、⁶ 京都大学霊長類研究所)

16:15 ~ 18:00 ポスターセッション

2017 年 1 月 29 日 (日)

10:00 ~ 10:45 口頭発表⑤

- O-15 京都市動物園における霊長類学初歩実習：北野高校の取り組みⅣ -A
チンパンジーの社会関係・ゴリラの個体間距離
○乾真子¹、○島亜梨沙¹、○宗田夏帆¹、横山実玖歩²、七五三木環³、瀧山拓哉⁴、川口ゆり⁵、川上文人⁶、山梨裕美⁶、山本真也⁷（¹ 北野高等学校、² 京都大学総合人間学部、³ 京都大学農学部、⁴ 京都大学理学部、⁵ 京都大学霊長類研究所、⁶ 京都大学野生動物研究センター、⁷ 神戸大学大学院国際文化学研究科)

- O-16 京都市動物園における霊長類学初歩実習：北野高校の取り組みⅣ -B
個体間の接触から見る社会関係・出産に伴うチンパンジーの社会関係の変化
○小野日菜子¹、○幸野立奈¹、横山実玖歩²、七五三木環³、瀧山拓哉⁴、川口ゆり⁵、川上文人⁶、山梨裕美⁶、山本真也⁷（¹ 北野高等学校、² 京都大学総合人間学部、³ 京都大学農学部、⁴ 京都大学理学部、⁵ 京都大学霊長類研究所、⁶ 京都大学野生動物研究センター、⁷ 神戸大学大学院国際文化学研究科)

- O-17 京都市動物園における霊長類学初歩実習：関西大倉高等学校の取り組みⅣ -A
マンドリル、ゴリラ、チンパンジーの移動速度と距離・チンパンジー、ゴリラの移動様式とその継続時間
○友田珠代¹、○角田芙美¹、横山実玖歩²、七五三木環³、瀧山拓哉⁴、川口ゆり⁵、川上文人⁶、山梨裕美⁶、山本真也⁷（¹ 関西大倉高等学校、² 京都大学総合人間学部、³ 京都大学農学部、⁴ 京都大学理学部、⁵ 京都大学霊長類研究所、⁶ 京都大学野生動物研究センター、⁷ 神戸大学大学院国際文化学研究科)

- O-18 京都市動物園における霊長類学初歩実習：関西大倉高等学校の取り組みⅣ -B
マンドリルのグルーミングとそこに見られる社会性・チンパンジーの行動の、接地・非接地時の比較
○青山波可¹、○黒田将生¹、横山実玖歩²、七五三木環³、瀧山拓哉⁴、川口ゆり⁵、川上文人⁶、山梨裕美⁶、山本真也⁷（¹ 関西大倉高等学校、² 京都大学総合人間学部、³ 京都大学農学部、⁴ 京都大学理学部、⁵ 京都大学霊長類研究所、⁶ 京都大学野生動物研究センター、⁷ 神戸大学大学院国際文化学研究科)

- O-19 公益財団法人日本モンキーセンター「リスザルの島」での研究実践活動
ボリビアリスザルの活動時間割合およびその季節変化・アカンボウの成長と他個体との関わり
○小栗乃衣梨、○寺澤奈那、足立恭果、近藤優羽、川嶋梨湖、近藤絢子、佐伯千乃、服部愛、○大久保直美、浅井梨那、前川幸代（南山高等・中学校女子部 JST 中高生の科学研究実践活動推進プログラム霊長類学入門）

11:15 ~ 11:30 休憩



参加者集合写真 (2017 年 1 月 29 日撮影)

11:30 ~ 12:15 口頭発表⑥

- O-20 博学連携推進への手立てと課題
ー犬山市内小学校と日本モンキーセンターとの連携
を実施していく中でー
○古市博之(犬山市立城東小学校)
- O-21 Sequencing Huntingtin orthologs in non-human
primate species
○Giulio Paolo Formenti¹, Elena Cattaneo¹, Hiroo Imai²,
Hirohisa Hirai² (¹Department of Biosciences, University
of Milan and INGM Foundation, ²Primate Research
Institute, Kyoto University)
- O-22 動物園でデグー (*Octodon degus*) が「勉強」してい
る様子の展示
○黒田敏数¹、長谷川裕士²、三井桃依²、半田希²、
野村愛永²、三宅菜穂美²、早川卓志^{2,3} (¹愛知文教大学、
²(公財)日本モンキーセンター、³京都大学霊長類
研究所)

ポスターセッション

- P-1 カリンズ森林に同所的に棲息するグエノン3種の食性
比較 ~昆虫食に着目して~
○峠明杜、早川卓志、岡本宗裕、橋本千絵、湯本貴和
(京都大学霊長類研究所)
- P-2 タイ都市部で暮らすミズオオトカゲの新知見について
○大淵希郷^{1,2} (¹京都大学野生動物研究センター、
²(公財)日本モンキーセンター)
- P-3 飼育下キツネザルの夜間行動
○田中ちぐさ¹、杉浦直樹¹、坂口真悟¹、早川卓志^{1,2}、
松田一希^{1,3} (¹(公財)日本モンキーセンター、
²京都大学霊長類研究所、³中部大学創発学術院)
- P-4 An overview of cultural variation in Japanese macaques
Claire FI Watson¹, Tetsuro Matsuzawa^{1,2} (¹Primate
Research Institute, Kyoto University, ²Institute of
Advanced Study, Kyoto University)
- P-5 Patterns of Food Transfer in Free-ranging Orangutans
○Tomoyuki Tajima¹, Titol Peter Malim², Henry Bernard³
(¹Kyoto University, ²Sabah Wildlife Department,
Malaysia, ³Universiti Malaysia Sabah, Malaysia)
- P-6 アフリカ大型類人猿における集団内/隣接集団間の
血縁構造
○石塚真太郎(京都大学霊長類研究所)
- P-7 Development of independence and behavior of wild
immature East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus
morio*), Danum Valley Conservation Area
○Renata Mendonça¹, Tomoko Kanamori¹,
Noko Kuze², Misato Hayashi¹, Henry Bernard³,
Tetsuro Matsuzawa¹ (¹Primate Research Institute,
Kyoto University, ²National Museum of Nature and
Science, Tokyo, ³Institute for Tropical Biology and
Conservation, Universiti Sabah Malaysia)
- P-8 コドモの発達過程からみるボノボ父系集団の社会関係
○戸田和弥¹、坂巻哲也¹、柳興鎮¹、徳山奈帆子¹、
伊谷原一²、古市剛史¹ (¹京都大学霊長類研究所、
²京都大学野生動物研究センター)

- P-9 大型類人猿とヒトにおける物の操作の発達
○林美里¹、竹下秀子² (¹京都大学霊長類研究所、
²滋賀県立大学)
- P-10 The study of numerical competence in chimpanzees,
horses, and tortoises
○原口大希¹、熊崎清則²、Pierre Sauvage³、三井桃衣⁴、
半田希⁴、長谷川裕士⁴、Anna Wilkinson⁵、
友永雅己⁶ (¹山口大学医学部、²ホースマンかかみ
が原、³フランス国立ツールーズ獣医大学、⁴(公財)
日本モンキーセンター、⁵リンカーン大学、⁶京都
大学霊長類研究所)
- P-11 How do chimpanzees discriminate primate species
based on faces?
○Duncan Wilson, Masaki Tomonaga (Primate Research
Institute, Kyoto University)
- P-12 Learning the rock-paper-scissors game rule in
chimpanzees and children
○Jie Gao¹, Yanjie Su², Masaki Tomonaga¹,
Tetsuro Matsuzawa¹ (¹Primate Research Institute,
Kyoto University, ²Peking University)
- P-13 フサオマキザルは顔から同種・他種の年齢を弁別
できるか
○川口ゆり¹、黒島妃香²、藤田和生² (¹京都大学
大学院理学研究科、²京都大学大学院文学研究科)
- P-14 Body site preference in the genus *Pan*
○Morgane Allanic¹, Satoshi Hirata², Misato Hayashi¹,
Tetsuro Matsuzawa^{2,3} (¹Primate Research Institute,
Kyoto University, ²Wildlife Research Center, Kyoto
University, ³Institute for Advanced Study, Kyoto
University)
- P-15 ハンドウイルカにおけるエコロケーションによる数の認識
○櫻井夏子¹、都築ななえ¹、亀垣ななみ¹、友永雅己²
(¹南知多ビーチランド、²京都大学霊長類研究所)
- P-16 Chimpanzees but not orangutans display aversive
reactions toward their partner receiving a superior
reward
○Yena Kim^{1,2}, Jae Choe³, Dong Sun Kim⁴,
Masaki Tomonaga² (¹Research Institute of EcoScience,
Ewha Womans University, Seoul, Republic of Korea,
²Primate Research Institute, Kyoto University,
³Division of EcoScience, Ewha Womans University,
Seoul, Republic of Korea, ⁴Seoul Zoo, Gwacheon,
Republic of Korea)
- P-17 Some like it hot: Japanese macaques lower glucocorticoid
levels by bathing in hot springs
○Rafaela S. C. Takeshita, Fred B. Bercovitch,
Kodzue Kinoshita, Michael A. Huffman (Primate
Research Institute, Kyoto University)
- P-18 飼育下ハヌマンラングールのメスにおける
性ホルモン濃度動態調査
○木村嘉孝¹、川出比香里¹、土屋知己¹、木下こづえ²
(¹宇部市ときわ動物園、²京都大学霊長類研究所)

- P-19 Comparison of Human Endogenous Retrovirus K (HERV-K) expression in various tissues of primates and human
○ Hee-Eun Lee^{1,2}, Hee-Jae Cha³, Takashi Hayakawa^{4,5}, Imai Hiroo⁶, Heui-Soo Kim^{1,2} (¹College of Natural Sciences, Pusan National University, ²Genetic Engineering Institute, Pusan National University, ³College of Medicine, Kosin University, ⁴Primate Research Institute, Kyoto University, ⁵Japan Monkey Centre, ⁶Primate Research Institute, Kyoto University)
- P-20 旧世界ザルにおける苦味受容体の遺伝的多様性
○鈴木・橋戸南美¹、早川卓志^{1,2}、辻大和¹、Laurentia Henrieta Permita Sari Purba³、Sarah Nila³、Kanthi Arum Widayati³、Bambang Suryobroto³、今井啓雄¹ (¹ 京都大学霊長類研究所、² (公財) 日本モンキーセンター、³ ボゴール農科大学)
- P-21 中部地域における飼育下チンパンジーのメスの繁殖状況について
○奥村文彦¹、福守朗²、森村成樹^{1,3} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 鹿児島市平川動物公園、³ 京都大学野生動物研究センター)
- P-22 宇部市ときわ動物園におけるハヌマンランゲールの人工哺育と群れ入り ―群れ入りまでの過程とその後の行動について―
○川出比香里、木村嘉孝、為近学 (宇部市ときわ動物園)
- P-23 社会性を持つサルたちの単独飼育の解消
○星野智紀¹、奥村太基¹、荒木謙太¹、綿貫宏史朗^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所)
- P-24 日本モンキーセンターにおける霊長類の混合飼育 4 例
○綿貫宏史朗^{1,2} (¹ 京都大学霊長類研究所、² (公財) 日本モンキーセンター)
- P-25 南米生息地研修を通した南米館屋内展示室の改良
○根本慧¹、大島悠輝¹、堀込亮意¹、綿貫宏史朗^{1,2}、赤見理恵¹ (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所)
- P-26 チンパンジー・アキラの自傷行為をなくしたい
○廣澤麻里^{1,2}、奥村文彦¹、藤森唯¹、星野智紀¹、坂口真悟¹ (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター)
- P-27 日本モンキーセンターにおけるチンパンジーの群れ管理
○藤森唯¹、奥村文彦¹、廣澤麻里^{1,2}、星野智紀¹、坂口真悟¹、伊谷原一^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター)
- P-28 飼料から目指す動物たちの福祉 ―品目数増加にむけて―
○星野智紀、奥村太基、菊田恭介、杉浦直樹、荒木謙太、安倍由里香、今井由香 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-29 レッサースローロリスの口内疾患の発生状況と対策について
○寺尾由美子¹、岡部直樹^{1,2}、鏡味芳宏¹、根本慧¹、奥村文彦¹、廣澤麻里^{1,2}、大島悠輝¹、東峯万葉¹、藤森唯¹、木村直人¹ (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター)
- P-30 飼育オランウータンにおけるヒト用歯科簡易検査による口腔内評価 第2報
○中村千晶¹、清水美香²、下重法子²、細田孝久²、佐橋智弘³、久世濃子^{4,5}、(¹ チアキデンタルクリニック、² 多摩動物公園、³ 旭川市旭山動物園、⁴ 国立科学博物館、⁵ 日本学術振興会)
- P-31 動物園飼育下サル類の簡易で安価な栄養評価法の検討
○木村直人¹、寺尾由美子¹、鏡味芳宏¹、東峯万葉¹、廣澤麻里^{1,2}、岡部直樹^{1,2}、新宅勇太^{1,2}、伊谷原一^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター)
- P-32 コンゴ民主共和国 Mbali 地域でのボノボの感染症調査
○新宅勇太^{1,2,3} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター、³ Projet Mbali of Kyoto University)
- P-33 Le Tichodrome: A French Wildlife Rescue Center
○Gonseth Chloe (Primate Research Institute of Kyoto University)
- P-34 霊長類に関する素朴概念と動物園教育
○赤見理恵、高野智 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-35 NPO 法人東山動物園くらぶにおける動物園との協働事業
○櫻庭陽子^{1,2}、柴田軒吾²、佐藤和哉²、堤創² (¹ 京都大学霊長類研究所、² NPO 法人東山動物園くらぶ)
- P-36 フィールドワーカーから学ぶ体験プログラム～ワイルドサマーキャンプ～
○鏡味芳宏¹、高野智¹、赤見理恵¹、伊谷原一^{1,2} (¹ (公財) 日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター)
- P-37 「ふれあい活動」従事者の課題意識と動物福祉の観点から見た活動のありかた
○並木美砂子 (帝京科学大学)
- P-38 KIDSZOO における今後の団体対応にむけて～引率者の事後アンケートからの振り返り～
○三井桃依、長谷川裕士、半田希、野村愛永、鏡味芳宏、寺尾由美子、赤見理恵 ((公財) 日本モンキーセンター)
- P-39 モンキーセンターで部活?! ～京大モンキーキャンパス・エンリッチメントサークル～
○中村千晶¹、井川雄太¹、後藤齊¹、綿貫宏史朗²、赤見理恵² (¹ 日本モンキーセンター友の会、² (公財) 日本モンキーセンター)



ポスター発表

- P-40 日本モンキーセンターのミュージアムショップの
現状と課題 ―公益法人化後の3年間をふり返って―
○江藤彩子、阪倉若菜、安倍由里香、高野智（（公財）
日本モンキーセンター）
- P-41 Finding meaning in the gestural communication of
wild bonobos
○ Kirsty E Graham (School of Psychology and
Neuroscience, University of St Andrews)
- P-42 Two cases of dead infant carrying in Japanese macaques
○ André Gonçalves (Universidade de Coimbra)
- P-43 Stress in male Japanese macaque (*Macaca fuscata*)
living in vegetated vs. non-vegetated enclosures
○ Josue Alejandro (Primate Research Institute, Kyoto
University)

2. 講演会の開催

(1) 「スローロリス」

講師：Anna Nekaris

（オックスフォードブルックス大学・
リトルファイアフェイスプロジェクト代表）

後援：認定 NPO 法人野生生物保全論研究会

日時：2016 年 6 月 19 日

場所：ビジターセンターホール

(2) 「大型類人猿と出会う旅」

講師：前川貴行（動物写真家）

日時：2016 年 12 月 3 日

場所：ビジターセンターホール

(3) 「テングザルの不思議：情熱大陸ウラ話」

講師：松田一希（中部大学・（公財）日本モンキーセンター）

日時：2016 年 12 月 18 日

場所：ビジターセンターホール



講演会「大型類人猿と出会う旅」

3. 研究会の受け入れ

(1) 第 64 回動物園技術者研究会

主催：公益社団法人日本動物園水族館協会

開催担当園：公益財団法人日本モンキーセンター

日程：2017 年 2 月 14 日～15 日（研究発表）

2017 年 2 月 16 日（視察）

参加者：

日本動物園水族館協会総裁 秋篠宮文仁親王殿下

同会長 福田豊

同副会長 出口智久

同専務理事 成島悦男

犬山市長 山田拓郎

ほか参加者 90 名（モンキーセンター職員を除く）

会場：犬山国際観光センターフロイデ（研究発表）

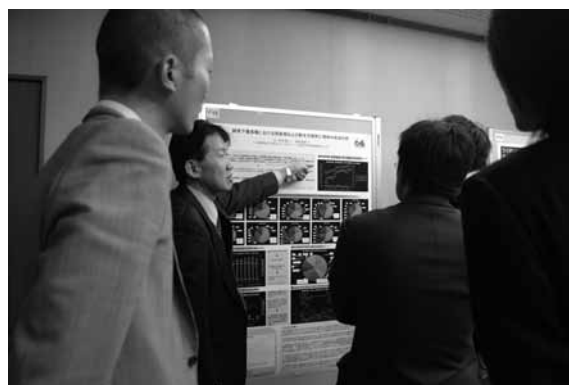
日本モンキーセンター（視察）

内容：口頭発表 35 題、ポスター発表 14 題

宿題調査報告



口頭発表



ポスター発表

(9) 展示、保全、環境教育及び 社会普及活動に関わる人材の育成

1. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・ リーディング大学院実習・セミナー

- (1) インターラボ
内容：レクチャー、バックヤード見学、園内見学
日程：2016年4月9日 33名
- (2) 動物園・博物館実習
内容：レクチャー、エンリッチメント実習、飼育実習、
解剖見学、標本実習、教育プログラム見学、
来園者調査 など
前期：2016年6月25日～6月28日 10名
後期：2017年2月18日～2月21日 2名



インターラボ バックヤード見学

2. 京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・ リーディング大学院 高大連携プロジェクト現地実習

- (1) 愛知県立明和高等学校
内容：フィールドワーク模擬体験実習
2016年7月18日 12名
- (2) 岐阜県立関高等学校
内容：レクチャー、ロコモーション観察実習等
2016年8月10日 10名

3. 飼育研修の受け入れ 計 16 名

- (1) Hansenberg Agricultural College
2016年3月14日～4月21日 3年生1名
- (2) 名古屋コミュニケーションアート専門学校
動物園・動物飼育専攻
2016年4月25日～5月8日 2年生1名
2016年7月18日～7月31日（インターンシップ）
2017年2月23日～3月8日 2年生1名
2017年3月9日～3月22日 1年生1名
2017年3月23日～4月5日 1年生1名
- (3) 大阪 ECO 海洋動物専門学校
動物園公務員専攻
2016年4月29日～5月12日 2年生1名
動物園・動物飼育専攻
2016年7月21日～8月3日 2年生1名
2016年9月26日～10月9日 2年生1名
- (4) 福岡 ECO 動物海洋専門学校
エコ・コミュニケーション科
2016年8月22日～9月2日 2年生1名

- (5) 宮崎ペットワールド専門学校 動物健康管理科
2016年8月22日～9月4日 2年生1名
- (6) 岐阜大学
応用生物科学部生産環境科学課程
2016年9月12日～9月28日 3年生1名
応用生物科学部獣医学課程
2016年9月12日～9月25日 5年生1名
- (7) 仙台コミュニケーションアート専門学校
2016年9月29日～10月12日 1名
- (8) 東京動物専門学校 動物管理科
2016年10月19日～11月17日 2年生1名
- (9) 東京コミュニケーションアート専門学校
2017年3月6日～3月19日 1年生1名

6. 職場体験・インターンシップの受け入れ 計 12 件 42 名

- (1) 大口町立大口中学校 職場体験
2016年6月1日～6月3日 2年生4名
- (2) 岐阜県立岐阜農林高校 職場体験
2016年7月28日～7月30日 2年生2名
2016年8月20日～8月22日 2年生1名
- (3) 愛知県立千種高等学校 職場体験
2016年8月11日～8月13日 2年生2名
- (4) 聖マリア女学院中学校 職場体験
2016年8月11日～8月12日 2年生3名
- (5) 岐阜県立加茂農林高校 職場体験
2016年8月15日～8月17日 2年生2名
- (6) 愛知県立犬山南高校 インターンシップ
2016年8月18日～8月19日 1～3年生8名
- (7) 愛知県立古知野高校 職場体験
2016年8月25日～8月26日 2年生3名
- (8) 犬山市立犬山中学校 職場体験
2016年10月19日～10月20日 2年生5名
- (9) 各務原市立中央中学校 職場体験
2016年10月26日～10月27日 2年生4名
- (10) 犬山市立城東中学校 職場体験
2016年11月2日 2年生4名
- (11) 各務原市立稲羽中学校 職場体験
2016年11月24日～11月25日 2年生4名

7. 博物館実習の受け入れ 計 5 校 7 名

- (1) 愛知教育大学
2016年7月26日～8月6日 4年生1名
2016年10月13日～10月24日 4年生1名
- (2) 愛知学院大学
2016年8月4日～8月15日 4年生1名
- (3) 岐阜女子大学
2016年8月18日～8月29日 4年生1名
- (4) 東京農業大学
2016年8月18日～8月29日 4年生1名
- (5) 東海大学
2016年10月27日～11月7日 4年生2名

8. 教員研修の受け入れ 計 3 校 3 名

- (1) 名古屋市立辻小学校（10年経験者研修）
2016年8月4日～8月6日 1名
- (2) 春日井市立南城中学校（10年経験者研修）
2016年8月7日～8月9日 1名
- (3) 愛知県立犬山南高等学校（初任者社会奉仕体験研修）
2016年8月8日～8月9日 1名

(10) その他

1. 60 周年記念事業の開催

(1) 60 周年記念式典・動物慰霊祭の開催

日程：2016 年 10 月 17 日

場所：動物慰霊碑（猿塚）前

来賓：湯本貴和 京都大学霊長類研究所所長
山田拓郎 犬山市長

内容：来賓挨拶、動物園報告、飼育員からの贈る言葉、
献花・献果

10 月 15 日～ 17 日の間、御供物の寄付を募る



記念式典 尾池理事長挨拶



寄附の供物で彩られた慰霊碑

(2) 創立 60 周年記念講演の開催（第 5 回友の会のつどい）

日程：2016 年 10 月 16 日

場所：ビジターセンター内ホール

講師：山極壽一（日本モンキーセンター博物館長、
京都大学総長）

演題：「サルからヒトへ、ヒトからサルへ：
モンキーセンターの 60 年」



記念講演会

(3) 記念イベントの開催

① モンキーセンター・タイムトラベル

日程：2016 年 10 月 16 日

内容：昔の展示施設、標本庫、スローロリス保全センター
の見学、未来について考えるワークショップ

② モンキーセンター活動報告

日程：2016 年 10 月 16 日

内容：通常友の会限定で開催しているものを一般公開
「スローロリス保全センター」

綿貫宏史朗、根本慧

「タンザニア生息地研修報告」

田中ちぐさ

「雑誌モンキー復刊」

友永雅己

③ チャレンジ！ Wao マスター～ワオキツネザル 60 頭を 覚えよう～

日程：2016 年 3 月～ 12 月の毎月第 4 日曜日

内容：ワオキツネザルのガイドを含めた個体紹介

④ 創立 60 周年記念 60 種クイズラリー

日程：2016 年 10 月 15 日～開催中

内容：6 コース各 10 種に関する園内クイズラリー

⑤ カヌーに乗りながら、リスザル・クモザルを観察して みませんか？

日程：2016 年 10 月 15 日・16 日

対象：友の会会員

内容：リスザルの島の池に浮かべたカヌーからの動物観察

⑥ Wao！寄附でマグネット記念品プレゼント

日程：2016 年 10 月 15 日～ 17 日

内容：オリジナルマグネットを

寄付者に配布

（各日先着 60 名）

2. 友の会

2014 年 4 月 1 日より募集開始

会員数：741 名（2017 年 3 月 31 日時点）

会員番号 1654 まで発行

年会費：大人（高校生以上） 3,000 円

小中学生 2,000 円

幼児（3 才以上） 1,500 円

(1) モンキーセンター友の会 NEWS LETTER の発行

Vol. 3-1（通巻第 5 号） 2016 年 9 月 15 日 発行

Vol. 3-2（通巻第 6 号） 2017 年 3 月 15 日 発行



NEWS LETTER Vol. 3-1

(2) 友の会のつどいの開催

① 第4回

日程：2016年4月3日 10:00～16:00

内容：講演「飼育下におけるチンパンジー研究」

伊谷原一（附属動物園長、京都大学教授）

JMC 遺跡探訪

創設60周年〇×クイズ

モンキーセンター活動報告

「モンキーバレイのイモ洗い行動」 山田将也

「アフリカセンターの植樹」 廣澤麻里

「タンザニア生息地研修」 寺尾由美子

② 第5回（60周年記念事業として10月16日に開催）

3. 会議・研修

(1) (公社) 日本動物園水族館協会

① 平成28年度 通常総会

日程：2016年5月26日～5月27日

会場：藤沢商会館（神奈川県藤沢市）

（担当：新江ノ島水族館） 伊谷原一

② 総務委員会倫理福祉部会

1. 平成28年度第1回倫理福祉部会

日程：2016年9月12日

会場：恩賜上野動物園（東京都台東区） 木村直人

2. 平成28年度第2回倫理福祉部会

日時：2017年1月27日

会場：恩賜上野動物園（東京都台東区） 木村直人

3. 平成28年度第3回倫理福祉部会

日時：2017年3月17日

会場：日本動物園水族館協会会議室（東京都台東区）
木村直人

③ 生物多様性委員会

1. 霊長類作業部会

日程：2016年6月2日～6月3日

会場：宮崎市フェニックス自然動物園

（宮崎県宮崎市） 綿貫宏史朗、鏡味芳宏

2. テナガザル類計画推進会議

日時：2016年11月18日

会場：ときわ湖水ホール（山口県宇部市）

打越万喜子、綿貫宏史朗、石田崇斗

3. チンパンジー計画推進会議

日時：2017年1月18日～1月19日

会場：多摩動物公園（東京都日野市）

奥村文彦、廣澤麻里

4. 平成28年度個体群管理講習会（開催受け入れ）

日時：2017年2月16日～2月17日

会場：日本モンキーセンター（愛知県犬山市）

参加者：30名

鏡味芳宏、廣澤麻里、石田崇斗、藤森唯

5. ロリス・マーモセット類、キツネザル類合同計画推進会議

日時：2017年3月23日～3月24日

会場：恩賜上野動物園（東京都台東区） 鏡味芳宏

(2) (公社) 日本動物園水族館協会 中部ブロック協議会

① 中部ブロック獣医師研究会

1. 第144回獣医師研究会

日程：2016年6月8日～6月9日

会場：浜松市動物園（静岡県浜松市）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

2. 第145回獣医師研究会

日程：2016年9月7日～9月8日

会場：ホテルサンバレー富士見（静岡県伊豆の国市）

（担当園：伊豆三津シーパラダイス）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

3. 第147回獣医師研究会

日程：2017年3月8日～3月9日

会場：富士自然動物公園（静岡県裾野市）

発表：症例報告、検査報告、剖検報告、

動物の異動報告

岡部直樹

② 飼育技術者研修会

1. 第112回中部ブロック飼育技術者研修会

日程：2016年6月14日～6月15日

会場：富山市ファミリーパーク（富山県富山市）

寺尾由美子

2. 第113回中部ブロック飼育技術者研修会

日程：2016年11月17日～11月18日

会場：東海大学海洋科学博物館（静岡県静岡市）

杉浦直樹

(3) 愛知県博物館協会

① 平成28年度愛知県博物館協会総会

日程：2016年6月16日

会場：名古屋市博物館（愛知県名古屋市）

高野智

② 東海三県博物館協会研究交流会

日程：2016年12月3日

会場：四日市市立博物館（三重県四日市市）

高野智

③ 教育・普及部門研修会

日程：2017年3月8日

会場：豊田市美術館（愛知県豊田市）

赤見理恵

(4) 平成28年度KS-PRI-JMC 獣医師合同カンファレンス

① 第1回合同カンファレンス

日程：2016年5月19日

場所：霊長類研究所特別会議室（TV会議）

症例報告：フランソワルトンの腸重積について

（岡部、木村）

木村直人、岡部直樹

② 第2回合同カンファレンス

日程：2016年7月1日

場所：霊長類研究所特別会議室（TV会議）

症例報告：サバンナモンキーの鼠径ヘルニア手術に

ついて

アヌビスヒヒの貧血症について（岡部、木村）

木村直人、岡部直樹

③ 第3回合同カンファレンス
日程：2016年9月1日
場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
症例報告：アビシニアコロブスの食欲廃絶（岡部、木村）
岡部直樹

④ 第4回合同カンファレンス
日程：2016年10月21日
場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
症例報告：エリマキキツネザルの血色素尿症について
（木村、岡部） 木村直人、岡部直樹

⑤ 第5回合同カンファレンス
日程：2016年12月9日
場所：セミナーハウス白帝（TV 会議）
症例報告：アヌビスヒヒの貧血症（続報）（岡部、木村）
木村直人、岡部直樹

⑥ 第6回合同カンファレンス
日程：2017年2月3日
場所：セミナーハウス白帝（TV 会議）
症例報告：アヌビスヒヒの中耳炎（岡部、木村）
皮膚真菌症の2症例（木村、岡部）
体脂肪測定（イヌ用体脂肪計の応用）
（木村、岡部） 木村直人、岡部直樹

⑦ 第7回合同カンファレンス
日程：2017年3月31日
場所：霊長類研究所特別会議室（TV 会議）
症例報告：ジェフロイクモザルの出血性腸炎について
（岡部、木村）
ヤクニホンザルの破傷風疑い（木村、岡部）
木村直人、岡部直樹

(5) PRI-JMC 検討委員会

① 第22回 PRI-JMC 検討委員会 2016年5月6日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、打越万喜子、
高野智、赤見理恵、早川卓志

② 第23回 PRI-JMC 検討委員会 2017年3月7日
松沢哲郎、伊谷原一、友永雅己、
打越万喜子、高野智、赤見理恵

4. その他

① 犬山市危険物安全協会定期総会
2016年4月20日 堀込亮意

② 刈り払い機講習会
2016年4月20日 石田崇斗、平倉柊太郎、浅沼龍希

③ 常設展改修に向けた施設見学
（東京都江東区・日本科学未来館ほか）
日程：2016年5月11日
高野智、赤見理恵、新宅勇太、綿貫宏史朗、
早川卓志、大淵希郷、江藤彩子

④ 宮島・野生サル調査（広島県廿日市市）
2016年5月17日～5月19日
堀込亮意、根本慧、荒木謙太

⑤ 天野エンザイム岐阜研究所施設見学
日程：2016年6月15日
松田一希、木村直人、高野智、赤見理恵、
新宅勇太、綿貫宏史朗、早川卓志、今井由香

⑥ 動物移動（静岡県伊東市、伊豆シャボテン公園）
2016年6月30日～7月1日 寺尾由美子

⑦ ミズオオトカゲ取材に向けた研修
日程：2016年9月25日～9月26日
場所：体験型動物園 iZOO（静岡県河津町）
大淵希郷、寺尾由美子

⑧ 京都大学野生動物研究センター連携園館連絡会議
日程：2016年10月13日
会場：京都大学野生動物研究センター（京都市左京区）
伊谷原一、赤見理恵

⑨ 動物取扱責任者研修会
日程：2016年11月18日
会場：春日井市民会館（愛知県春日井市）
木村直人

⑩ カヌー取扱講習
日程：2016年9月11日
協力：株式会社モンベル

⑪ 人権セミナー
日程：2016年9月13日
会場：犬山国際観光センターフロイデ（愛知県犬山市）
木村直人

⑫ パワーハラスメント対策取組支援セミナー
日程：2016年11月16日
会場：名古屋国際センター（愛知県名古屋市中区）
打越万喜子、赤見理恵

⑬ 輸入サルの取扱い者に対する検疫・安全講習会
日程：2016年12月14日
会場：関西国際空港（大阪府泉佐野市）
鏡味芳宏、根本慧

⑭ ツリークライミング講習会
日程：2017年3月1日
協力：ツリーマスタークライミングアカデミー
（TMCA）

⑮ 京都大学技術職員専門研修（第4専門技術群：生物・
生態系）
日程：2017年3月2日
会場：京都大学（京都市） 木村直人

II 収益事業

(1) 動物園における物品並びに飲食物販事業

1. ミュージアムショップの運営

場所： ビジターセンター内

取扱商品： 書籍、民俗民芸品、美術作品、
オリジナル雑貨、菓子類、委託販売品等

新規商品の開発：

新規商品の取り扱い開始（オリジナルワオキツネザル
キャップ、しっぽストラップ、愛知県名産品等）



ワオしっぽ（ストラップ）

新規デザイン（60周年記念デザインを含む）商品の作
成（ポストカード、ハンドタオルなど）



60周年記念デザインのグッズ

チンパンジーサンクチュアリプロジェクトとのコラボT
シャツの作成



2. 自動販売機の設置

オリジナルラッピングを施した自動販売機を
園内 15 か所に設置

(2) 所有する土地・建物の賃貸事業

1. 犬山市大字犬山字官林他 土地建物

賃貸先：京都大学

目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

2. 犬山市大字栗栖字古屋敷他 土地建物

賃貸先：京都大学

目的：霊長類の研究施設

3. 犬山市大字善師野字小野洞他 土地

賃貸先：京都大学

目的：サルの飼育・繁殖・観察並びに教育研究

4. 犬山市大字犬山字官林（JMC 管理棟） 建物

賃貸先：京都大学

目的：教育等

5. 犬山市大字犬山字官林（JMC 管理棟） 建物

賃貸先：（株）名鉄インプレス

目的：日本モンキーパークの運営

6. 犬山市大字犬山字官林 駐車場施設

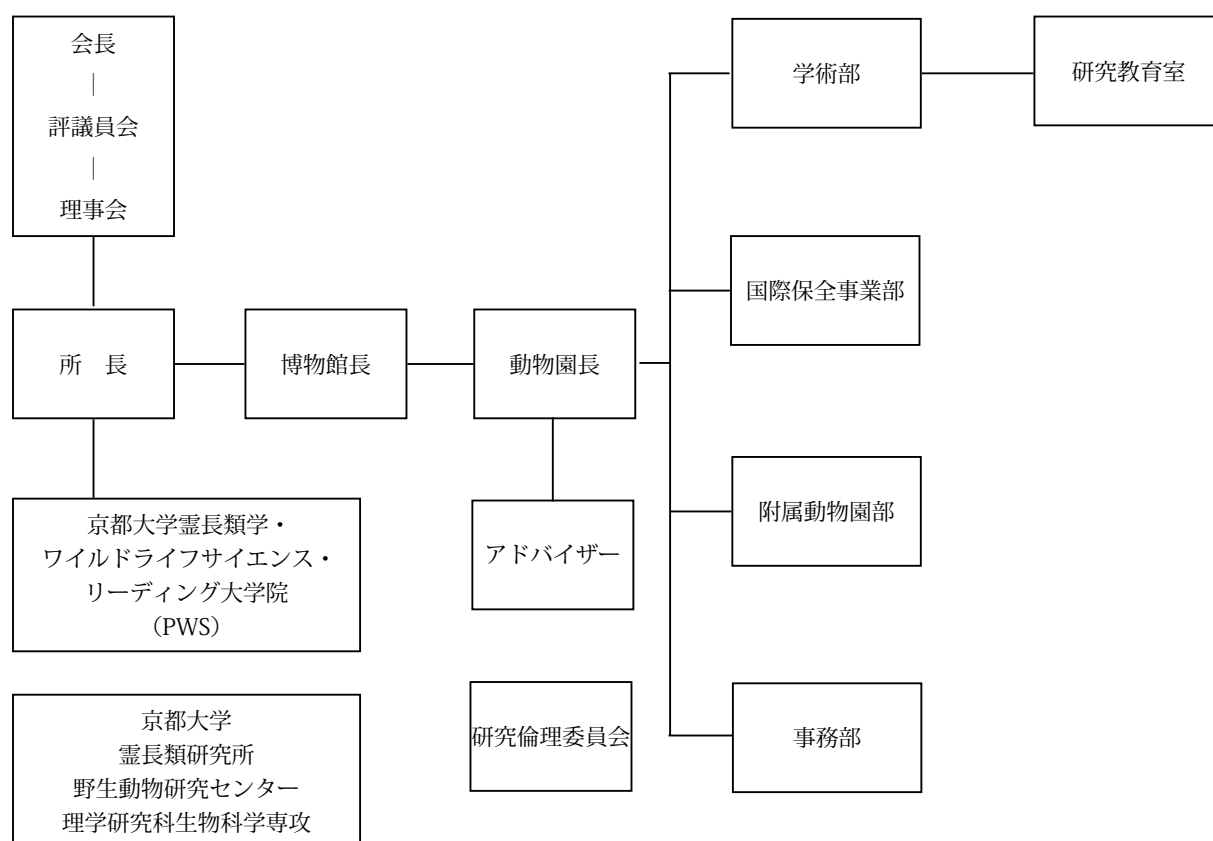
賃貸先：（株）名鉄インプレス

目的：駐車場

III 総務

(1) 組織

1. 組織図（2017年3月31日現在）



2. 役員（2017年3月31日現在、50音順、敬称略）

会長		
河合 雅雄	京都大学名誉教授	日本モンキーセンター 元所長
理事長		
尾池 和夫	京都大学名誉教授	京都造形芸術大学 学長
常務理事		
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター 教授	日本モンキーセンター 動物園長
松沢 哲郎	京都大学高等研究院 特別教授	日本モンキーセンター 所長
山極 壽一	京都大学 総長	日本モンキーセンター 博物館長
理事		
安藤 隆司	名古屋鉄道㈱ 代表取締役社長	
長谷川 寿一	東京大学大学院総合文化研究所 教授	
松林 公蔵	京都大学名誉教授	
山本 亜土	名古屋鉄道㈱ 代表取締役会長	
吉川 泰弘	千葉科学大学 副学長	

監事		
中野 雄介	中野公認会計士事務所 所長	
拝郷 寿夫	名古屋鉄道㈱ 代表取締役専務	グループ統括本部長
評議員		
秋久 成人	京都食肉市場㈱ 品質管理部長	
伊藤 博司	㈱名鉄インプレス 代表取締役社長	
小川 秀司	中京大学国際教養学部 教授	
亀崎 直樹	岡山理科大学生物地球学部 教授	
國松 豊	龍谷大学経営学部 教授	
黒邊 雅実	名古屋市東山動物園 園長	
幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター長 教授	
齋藤 垂矢	京都造形芸術大学文明哲学研究所 准教授	
田中 正之	京都市動物園 生き物・学び・研究センター長	
平田 聡	京都大学野生動物研究センター 教授	
山崎 由紀子	国立遺伝学研究所 准教授	
湯本 貴和	京都大学霊長類研究所 教授	

3. 職員（2017 年 3 月 31 日現在、4 月 1 日付異動も示す）

所長

松沢 哲郎 京都大学高等研究院・特別教授

博物館長・学術部長

山極 壽一 京都大学・総長

動物園長・事務局長（兼任）

伊谷 原一 京都大学野生動物研究センター・教授

アドバイザー

打越 万喜子 京都大学霊長類研究所・特定研究員
野上 悦子 京都大学野生動物研究センター・技術職員
林 美里 京都大学霊長類研究所・助教
松田 一希 中部大学創発学術院・准教授
森村 成樹 京都大学野生動物研究センター・特定准教授

学術部長

友永 雅己 京都大学霊長類研究所・教授

国際保全事業部長

岡安 直比

動物園長補佐・附属動物園部長

木村 直人

学術部 研究教育室

高野 智 室長・主席学芸員
赤見 理恵 主任学芸員
新宅 勇太 京都大学野生動物研究センター・特定研究員
綿貫 宏史朗 京都大学霊長類研究所・特定研究員
早川 卓志 京都大学霊長類研究所・特定助教
大淵 希郷 京都大学野生動物研究センター・特定助教
古賀 典子 京都大学野生動物研究センター・特定研究員
江藤 彩子
阪倉 若菜

附属動物園部

堀込 亮意 飼育統括
岡部 直樹 京都大学野生動物研究センター・特定研究員
坂口 真悟 飼育主任
大島 悠輝
奥村 太基
奥村 文彦^{*1}
鏡味 芳宏
田中 ちぐさ
寺尾 由美子
根本 慧
廣澤 麻里 京都大学野生動物研究センター・特定研究員
星野 智紀
荒木 謙太
石田 崇斗
菊田 恭介^{*1}
杉浦 直樹^{*1}
長谷川 裕士^{*1}
半田 希
東峯 万葉
藤森 唯
三井 桃依^{*1}
三宅 菜穂美
山田 将也
辻内 裕美^{*2}
市野 悦子^{*2}
小泉 有希^{*2}
舟橋 昂^{*2}
土性 亮賀^{*2}
中久木 愛^{*2}

事務部
安倍 由里香
今井 由香
根本 真菜美
大岡 幸男
浅沼 龍希
小川 冴奈
杉本 直人
仙石 久子
平倉 柊太郎^{*1}
山田 久

* 1：2017 年 3 月 31 日付で退職

* 2：2017 年 4 月 1 日付で採用

(2) 人事

1. 採用

2016年4月1日付
 附属動物園部 半田希 東峯万葉
 藤森唯
 事務部 杉本直人

2016年6月27日付
 事務部 大藪陽子

2016年7月5日付
 学術部 阪倉若菜
 国際保全事業部 岡安直比

2016年9月17日付
 附属動物園部 野村愛永

2. 着任

2016年4月1日付
 学術部長 友永雅己
 （京都大学霊長類研究所）
 アドバイザー 林美里
 （京都大学霊長類研究所）
 松田一希
 （中部大学創発学術院）
 学術部研究教育室 大淵希郷
 （京都大学野生動物研究センター）

3. 退職

2016年6月30日付
 附属動物園部 廣川 類

2016年12月27日付
 事務部 大藪陽子

2017年3月5日付
 附属動物園部 野村愛永

2017年3月31日付
 附属動物園部 奥村文彦 菊田恭介
 杉浦直樹 長谷川裕士
 三井桃依
 事務部 平倉柊太郎

(3) 総務

1. 理事会、評議員会の開催

(1) 第7回公益財団法人日本モンキーセンター理事会
 日程：2016年6月1日
 会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）

(2) 第5回公益財団法人日本モンキーセンター評議員会
 日程：2016年6月16日
 会場：公益財団法人日本モンキーセンター
 セミナーハウス白帝

(3) 第8回理事会（みなし決議）
 日程：2016年6月26日

(4) 第9回理事会
 日程：2017年3月6日
 会場：名鉄グランドホテル（愛知県名古屋市）

2. 訓練の実施

(1) 大型類人猿脱出時対策訓練
 ① 捕獲訓練 2016年12月7日
 ② 招集訓練 2017年3月23日
 (2) 初期消火訓練 2016年6月22日
 (3) 車椅子・AED取扱講習 2016年7月18日
 (4) 消防避難誘導訓練・放水訓練 2017年1月11日



車椅子取扱講習

(4) 寄附

1. 寄附受領

(1) 寄付金の受入

法人寄附	169,180,698 円
個人寄附	3,529,080 円
国際保全事業寄附	20,703,517 円
合 計	193,413,295 円

30,000 円以上のご寄附をいただいた個人

(許諾をいただいた方のみ掲載)

天野 源之	河合 江理子
伊谷 原一	積山 薫
糸魚川 直祐	津田 一郎
今村 洋美	中川 織江
金矢 真美	雲南理工大学 韓 寧
(敬称略)	

(2) 寄附物品の受領

定期寄附

- ・動物の飼料
- ・おが粉等飼育環境整備

不定期寄附：170 件以上（個人・法人の合計）

- ・動物の飼料
- ・消防ホース、麻袋等エンリッチメント用品
- ・

2. 附属動物園内における寄附金の活用

(1) Wao ランドにおける植樹

(2) 南米館ホールへの植栽の導入

(3) 施設整備（ヒヒの城・エコドーム）

3. 寄附物品を活用した園内イベントの開催



Wao ランド植樹会（7 月 10 日）



カヌーに乗りながら、リスザル・クモザルを観察してみませんか？
（10 月 15 日）

IV 経理

貸借対照表（平成 29 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	39,701,564	18,092,633	21,608,931
寄附金預金	9,954,106	3,480,066	6,474,040
未収入金	157,000	74,000	83,000
前払金		592,490	▲ 592,490
立替金	38,880	20,500	18,380
仮払金	5,340	2,594	2,746
流動資産合計	49,856,890	22,262,283	27,594,607
2 固定資産			
基本財産			
土地	378,300	378,300	0
建物	3,014,370	3,214,407	▲ 200,037
基本財産合計	3,392,670	3,592,707	▲ 200,037
特定資産			
宮島預金	9,000,000	9,000,000	0
動物園施設整備資金	56,000,000	35,000,000	21,000,000
土地	596,868,254	595,848,254	1,020,000
特定資産合計	661,868,254	639,848,254	22,020,000
その他固定資産			
建物	9,263,813	9,539,757	▲ 275,944
建物附属設備	34,501,247	25,416,328	9,084,919
構築物	17,482,193	13,272,925	4,209,268
機械装置	2,910,638	4,023,068	▲ 1,112,430
車両運搬具	1,541,206	1,714,466	▲ 173,260
器具備品	3,194,462	4,398,186	▲ 1,203,724
動物	28,716,678	33,136,200	▲ 4,419,522
図書	578,771	828,523	▲ 249,752
雑設備	2	2	0
土地	754,611	754,611	0
電話加入権	18,301	18,301	0
ソフトウェア	185,724	278,586	▲ 92,862
その他固定資産合計	99,147,646	93,380,953	5,766,693
固定資産合計	764,408,570	736,821,914	27,586,656
資産合計	814,265,460	759,084,197	55,181,263
II 負債の部			
1 流動負債			
仮受金	172,620	252,478	▲ 79,858
未払金	7,630,407	7,433,517	196,890
預り金	408,351		408,351
賞与引当金		6,105,000	▲ 6,105,000
未払消費税	3,636,800	3,011,800	625,000
未払法人税等	6,930,200	5,654,500	1,275,700
流動負債合計	18,778,378	22,457,295	▲ 3,678,917
2 固定負債			
固定負債合計			
負債合計	18,778,378	22,457,295	▲ 3,678,917
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取寄附金	42,000,000	42,000,000	0
固定資産受贈益	3,392,670	3,592,707	▲ 200,037
受贈土地	596,868,254	595,848,254	1,020,000
指定正味財産合計	642,260,924	641,440,961	819,963
（うち基本財産への充当額）	（3,392,670）	（3,592,707）	（▲ 200,037）
（うち特定資産への充当額）	（638,868,254）	（637,848,254）	（1,020,000）
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	153,226,158	95,185,941	58,040,217
（うち特定資産への充当額）	（23,000,000）	（2,000,000）	（21,000,000）
正味財産合計	795,487,082	736,626,902	58,860,180
負債及び正味財産合計	814,265,460	759,084,197	55,181,263

正味財産増減計算書
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
基本財産等受入利息	0	0	0
事業収益	133,064,339	154,512,628	▲ 21,448,289
事業収益（動物園入園料）	51,957,200	68,586,750	▲ 16,629,550
賃貸事業	48,837,391	48,505,391	332,000
賃貸事業（駐車場）	23,436,000	23,112,000	324,000
賃貸事業（土地・建物）	25,401,391	25,393,391	8,000
動物園附帯事業	32,269,748	37,420,487	▲ 5,150,739
受取寄附金	195,624,482	165,649,974	29,974,508
友の会収入	2,011,150	1,865,700	145,450
受取寄附金	10,413,295	3,584,237	6,829,058
受取寄附金振替額	183,200,037	160,200,037	23,000,000
雑収益	6,731,706	5,729,160	1,002,546
受取利息	4,087	149,788	▲ 145,701
雑収益	6,727,619	5,579,372	1,148,247
経常収益計	335,420,527	325,891,762	9,528,765
(2) 経常費用			
事業費	254,801,129	285,174,628	▲ 30,373,499
給与手当	101,581,119	104,557,459	▲ 2,976,340
謝金	432,115	397,590	34,525
法定福利費	15,988,608	15,726,578	262,030
福利厚生費	338,698	234,800	103,898
賞与引当金繰入	0	5,860,800	▲ 5,860,800
旅費交通費	532,810	374,252	158,558
研究旅費	1,035,691	469,921	565,770
研究会費	14,000	51,000	▲ 37,000
調査研究費	1,238,460	1,257,566	▲ 19,106
出版費	2,431,193	422,017	2,009,176
普及事業費	1,015,722	1,316,844	▲ 301,122
展示費	49,953	744,804	▲ 694,851
飼料費	15,184,329	17,883,945	▲ 2,699,616
動物購入費	0	0	0
衛生薬器費	3,313,651	3,475,513	▲ 161,862
サル輸送費	19,707	33,520	▲ 13,813
施設整備費	7,167,636	15,430,623	▲ 8,262,987
販売費	4,194,091	4,819,821	▲ 625,730
備用品費	2,958,925	3,110,456	▲ 151,531
被服費	183,275	98,538	84,737
水道光熱費	31,623,676	35,159,080	▲ 3,535,404
車両費	755,585	495,951	259,634
業務委託料	26,498,795	31,527,281	▲ 5,028,486
会議費	1,706,945	0	1,706,945
諸会費	381,290	408,300	▲ 27,010
租税公課	7,540,830	21,900,943	▲ 14,360,113
減価償却費	17,405,198	16,908,507	496,691
補償費	691,989	995,536	▲ 303,547
通信運搬費	636,120	692,381	▲ 56,261
広報宣伝費	283,500	0	283,500
現地活動費	8,250,000	0	8,250,000
雑費	1,347,218	820,602	526,616

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	13,959,842	10,700,516	3,259,326
給与手当	7,765,407	4,394,061	3,371,346
法定福利費	1,203,444	655,274	548,170
福利厚生費	27,826	12,358	15,468
賞与引当金繰入	0	244,200	▲ 244,200
旅費交通費	74,120	196,060	▲ 121,940
備用品費	332,526	373,489	▲ 40,963
会議費	288,289	149,745	138,544
通信運搬費	145,313	182,795	▲ 37,482
諸会費	3,000	3,000	0
水道光熱費	1,664,404	1,850,478	▲ 186,074
減価償却費	92,862	92,862	0
租税公課	73,750	6,000	67,750
業務委託費	1,866,240	1,867,144	▲ 904
車両費	150,474	419,443	▲ 268,969
補償費	172,997	241,514	▲ 68,517
雑費	99,190	12,093	87,097
経常費用計	268,760,971	295,875,144	▲ 27,114,173
当期経常増減額	66,659,556	30,016,618	36,642,938
Ⅰ 経常外増減の部			
（１）経常外収益			
固定資産受贈益	13,951	29,699	▲ 15,748
図書受贈益	13,951	29,699	▲ 15,748
経常外収益計	13,951	29,699	▲ 15,748
（２）経常外費用			
固定資産除却損	1,703,090	69,033	1,634,057
経常外費用計	1,703,090	69,033	1,634,057
当期経常外増減額	▲ 1,689,139	▲ 39,334	▲ 1,649,805
税引前当期一般正味財産増減額	64,970,417	29,977,284	34,993,133
法人税、住民税及び事業税	6,930,200	5,654,500	1,275,700
当期一般正味財産増減額	58,040,217	24,322,784	33,717,433
一般正味財産期首残高	95,185,941	70,863,157	24,322,784
一般正味財産期末残高	153,226,158	95,185,941	58,040,217
Ⅱ 指定正味財産の部			
受取寄附金	183,000,000	163,000,000	20,000,000
受取寄附金	183,000,000	163,000,000	20,000,000
固定資産受贈益	1,020,000	0	1,020,000
土地受贈益	1,020,000	0	1,020,000
一般正味財産への振替額	▲ 183,200,037	▲ 160,200,037	▲ 23,000,000
当期指定正味財産増減額	819,963	2,799,963	▲ 1,980,000
指定正味財産期首残高	641,440,961	638,640,998	2,799,963
指定正味財産期末残高	642,260,924	641,440,961	819,963
Ⅲ 正味財産期末残高	795,487,082	736,626,902	58,860,180

正味財産増減計算書内訳表
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	0	0	
基本財産等受入利息	0	0	0	0
事業収益	62,579,080	70,485,259	0	133,064,339
動物園入園料	51,957,200	0	0	51,957,200
賃貸事業	0	48,837,391	0	48,837,391
駐車場	0	23,436,000	0	23,436,000
土地・建物	0	25,401,391	0	25,401,391
動物園付帯事業	10,621,880	21,647,868	0	32,269,748
受取寄附金	193,613,332	0	2,011,150	195,624,482
友の会収入		0	2,011,150	2,011,150
受取寄附金	10,413,295	0	0	10,413,295
受取寄附金振替額	183,200,037	0	0	183,200,037
雑収益	4,680,619	0	2,051,087	6,731,706
受取利息	0	0	4,087	4,087
雑収益	4,680,619	0	2,047,000	6,727,619
経常収益計	260,873,031	70,485,259	4,062,237	335,420,527
(2) 経常費用				
事業費	231,462,227	23,338,902	0	254,801,129
給与手当	100,523,654	1,057,465	0	101,581,119
謝金	432,115	0	0	432,115
法定福利費	15,816,688	171,920	0	15,988,608
福利厚生費	338,698	0	0	338,698
旅費交通費	532,810	0	0	532,810
研究旅費	1,035,691	0	0	1,035,691
研究会費	14,000	0	0	14,000
調査研究費	1,238,460	0	0	1,238,460
出版費	2,431,193	0	0	2,431,193
普及事業費	1,015,722	0	0	1,015,722
展示費	49,953	0	0	49,953
飼料費	15,184,329	0	0	15,184,329
動物購入費	0	0	0	0
衛生薬器費	3,313,651	0	0	3,313,651
サル輸送費	19,707	0	0	19,707
施設整備費	7,167,636	0	0	7,167,636
販売費支出	0	4,194,091	0	4,194,091
備品消費費	2,958,925	0	0	2,958,925
被服費	183,275	0	0	183,275
水道光熱費	29,959,272	1,664,404	0	31,623,676
車両費	755,585	0	0	755,585
業務委託料	14,476,149	12,022,646	0	26,498,795
会議費	1,706,945	0	0	1,706,945
諸会費	381,290	0	0	381,290
租税公課	3,364,212	4,176,618	0	7,540,830
減価償却費	17,405,198	0	0	17,405,198
補償費	691,989	0	0	691,989
通信運搬費	636,120	0	0	636,120
広報宣伝費	283,500	0	0	283,500
現地活動費	8,250,000	0	0	8,250,000
雑費	1,295,460	51,758	0	1,347,218

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
管理費	0	0	13,959,842	13,959,842
給与手当	0	0	7,765,407	7,765,407
法定福利費	0	0	1,203,444	1,203,444
福利厚生費	0	0	27,826	27,826
賞与引当金繰入	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	74,120	74,120
備用品費	0	0	332,526	332,526
会議費	0	0	288,289	288,289
通信運搬費	0	0	145,313	145,313
諸会費	0	0	3,000	3,000
水道光熱費	0	0	1,664,404	1,664,404
減価償却費	0	0	92,862	92,862
租税公課	0	0	73,750	73,750
業務委託費	0	0	1,866,240	1,866,240
車両費	0	0	150,474	150,474
補償費	0	0	172,997	172,997
雑費	0	0	99,190	99,190
経常費用計	231,462,227	23,338,902	13,959,842	268,760,971
当期経常増減額	29,410,804	47,146,357	▲ 9,897,605	66,659,556
1. 経常外増減の部				
（1）経常外収益				
固定資産受贈益	13,951	0	0	13,951
図書受贈益	13,951			13,951
経常外収益計	13,951	0	0	13,951
（2）経常外費用				
固定資産除却損	1,703,090			1,703,090
経常外費用計	1,703,090	0	0	1,703,090
当期経常外増減額	▲ 1,689,139	0	0	▲ 1,689,139
税引前当期一般正味財産増減額	27,721,665	47,146,357	▲ 9,897,605	64,970,417
法人税、住民税及び事業税		6,930,200		6,930,200
他勘定振替額	22,933,842	▲ 22,933,842	0	0
当期一般正味財産増減額	50,655,507	17,282,315	▲ 9,897,605	58,040,217
一般正味財産期首残高	24,007,991	34,227,022	36,950,928	95,185,941
一般正味財産期末残高	74,663,498	51,509,337	27,053,323	153,226,158
Ⅱ 指定正味財産の部				
受取寄附金	183,000,000	0	0	183,000,000
受取寄附金	183,000,000			183,000,000
固定資産受贈益		1,020,000		1,020,000
土地受贈益		1,020,000		1,020,000
一般正味財産への振替額	▲ 183,200,037			▲ 183,200,037
当期指定正味財産増減額	▲ 200,037	1,020,000	0	819,963
指定正味財産期首残高	641,440,961			641,440,961
指定正味財産期末残高	641,240,924	1,020,000	0	642,260,924
Ⅲ 正味財産期末残高	715,904,422	52,529,337	27,053,323	795,487,082

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法

基本財産のうち建物及びその他固定資産は定額法によっている。

(2) 引当金の計上基準

賞与引当金

給料支給基準を年俸制に変更するため、当期は引当計上していない。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	378,300			378,300
建物	3,214,407		200,037	3,014,370
小 計	3,592,707	0	200,037	3,392,670
特定資産				
宮島預金	9,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000
動物園施設整備資金	35,000,000	22,000,000	1,000,000	56,000,000
土地	595,848,254	1,020,000		596,868,254
小 計	639,848,254	26,020,000	4,000,000	661,868,254
合 計	643,440,961	26,020,000	4,200,037	665,260,924

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
土地	378,300	(378,300)		
建物	3,014,370	(3,014,370)		
小 計	3,392,670	(3,392,670)	0	0
特定資産				
宮島預金	9,000,000	(9,000,000)		
動物園施設整備資金	56,000,000	(33,000,000)	(23,000,000)	
土地	596,868,254	(596,868,254)		
小 計	661,868,254	(638,868,254)	(23,000,000)	(0)
合 計	665,260,924	(642,260,924)	(23,000,000)	(0)

4. 担保に提供している資産 なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び差引計は次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	差引計
基本財産			
土地	378,300		378,300
建物	8,232,000	5,217,630	3,014,370
小 計	8,610,300	5,217,630	3,392,670
特定資産			
土地	596,868,254		596,868,254
小 計	596,868,254	0	596,868,254
その他固定資産			
建物	99,406,230	90,142,417	9,263,813
建物附属設備	63,752,512	29,251,265	34,501,247
構築物	415,801,199	398,319,006	17,482,193
機械装置	12,972,360	10,061,722	2,910,638
器具及び備品	29,983,764	26,789,302	3,194,462
車両運搬費	4,557,500	3,016,294	1,541,206
動物	149,575,634	120,858,956	28,716,678
図書	21,094,422	20,515,651	578,771
雑設備	2		2
土地	754,611		754,611
電話加入権	18,301		18,301
ソフトウェア	464,310	278,586	185,724
小 計	798,380,845	699,233,199	99,147,646
合 計	1,403,859,399	704,450,829	699,408,570

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

内 訳	金 額
経常収益への振替額	
事業実施による用途制約の解除	183,000,000
減価償却費計上による振替	200,037
合 計	183,200,037

附属明細書

1. 基本財産及び特定財産の明細

財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	6,105,000	0	6,105,000		0

財産目録
(平成 29 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	489,741
小口現金			1,033,000
預金	普通預金 (寄附)	運転資金として	
	名古屋銀行犬山支店		2,204,356
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		7,749,750
	普通預金 (寄附) 計		(9,954,106)
	普通預金	運転資金として	
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		16,177,471
	定期預金	運転資金として	
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		22,001,352
未収入金	賃借料他	収益事業に供する家賃の未収入分	157,000
立替金	機械警備料他	公益目的事業に供する経費立替分	38,880
仮払金	販売委託費	収益事業に供する委託販売手数料の仮払分	5,340
流動資産合計			49,856,890
(固定資産)			
基本財産			
土地	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	378,300
建物	犬山市栗栖	公益目的事業を行うために不可欠な特定の財源	3,014,370
	基本財産計		(3,392,670)
特定資産			
宮島預金	普通預金	宮島で捕獲予定のサルの飼育費用の財源としている	9,000,000
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		
動物園施設整備資金	定期預金	公益事業の積立資産であり施設整備費として管理されている資金	56,000,000
	三菱東京 U F J 銀行犬山支店		
土地	犬山市犬山 42 - 2 他	公益事業に供する施設の敷地等に使用している	596,868,254
	特定資産小計		(661,868,254)
その他の固定資産			
建物	猿舎他	公益目的事業を行うための事業財産	9,263,813
建物附属設備	モンキーバレイ遊具他		34,501,247
構築物	スクイズケージ他		17,482,193
機械装置	加圧ポンプ他		2,910,638
車両運搬費	ミニキャブトラック他		1,541,206
器具備品	サル類剥製標本他		3,194,462
動物	オランウータン他		28,716,678
書籍	寄生虫学他		578,771
雑施設	商標権他		2
土地	犬山市犬山官林		754,611
電話加入権	No. 0568-61-2327		18,301
ソフトウェア	会計ソフト		185,724
	その他の固定資産計		(99,147,646)
固定資産合計			764,408,570
資産合計			814,265,460
(流動負債)			
仮受金	サンクチュアリ, モノリンク他	収益事業に供する委託販売売上金の仮受金	172,620
未払金	紅光, 農協他	公益事業に供する飼料費等の未払分	7,630,407
預り金	小牧税務署	給料源泉所得税	408,351
未払法人税	小牧税務署他	平成 28 年度確定納付分	6,930,200
未払消費税	小牧税務署	平成 28 年度確定納付分	3,636,800
流動負債計			18,778,378
(固定負債)			
固定負債計			0
負債合計			18,778,378
正味財産合計			795,487,082

**公益財団法人 日本モンキーセンター年報
平成 28 年度**

〈非売品〉

発行日 平成 29 年 9 月 10 日

発行者 公益財団法人 日本モンキーセンター

〒484-0081 愛知県犬山市大字犬山字官林26番地

電話 (0568) 61-2327

FAX (0568) 62-6823

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24

京都大学野生動物研究センター内

電話 (075) 771-4388

印刷所 オリビア印刷株式会社

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-13-6F

電話 (06) 6445-0321

Japan Monkey Centre
Annual Report

2016



協力：京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, Kyoto University